



国立大学法人

お茶の水女子大学

OCHANOMIZU UNIVERSITY

GUIDEBOOK

2027



お茶の水女子大学 大学案内 2027



国立大学法人

お茶の水女子大学

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

TEL:03-5978-5105 FAX:03-5978-5545

<https://www.ocha.ac.jp>

発行：2026年6月



Admission Policy

お茶の水女子大学の教育と
アドミッション・ポリシー

お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢の実現の場であることを使命とし、総合的な教養と高度な専門性を身につけた女性リーダーの育成を目指しています。そのため、21世紀型文理融合リベラルアーツ教育、専門教育における複数プログラム選択履修制度、及びキャリア教育を3つの柱とする教育を展開しています。複数プログラム選択履修制度では、将来のキャリア展望や関心に応じて、専門教育プログラムを履修します。第1のプログラムとして、所属する学科の開設する「主プログラム」を履修します（必修、入学した学科のものを選択）。次に第2のプログラムとして、専門領域に深く特化する「強化プログラム」、他の専門領域を横断して学ぶ「副プログラム」、領域融合型・学際型の「学際プログラム」のいずれかを選択し履修します（選択必修）。また文教育学部芸術・表現行動学科及び生活科学部食物栄養学科では、それぞれの教育目標にそった4年一貫の「専修プログラム」を設けています。各自の目的や関心によって、主体的に学修することができます。

お茶の水女子大学では、すべての女性が年齢・国籍などにかかわらず自立した女性として、生涯にわたって多様に活躍できるキャリア形成の場を提供しています。知的好奇心と探究心を抱き、勉学意欲に富んだ学生の入学を期待しています。

お茶の水女子大学
OCHANOMIZU UNIVERSITY

GUIDEBOOK 2027

CONTENTS

002 MESSAGE

004 SPIRIT — 150年の歴史と伝統 —

006 VALUE — 真価を問う —

008 FUTURE — 知をつなぎ、未来へ —

お茶の水女子大学の教育			
010	ディプロマ・ポリシー	016	グローバル教育
011	教育プログラム	020	キャリアデザインプログラムとコンピテンシー育成支援
012	教養教育： 21世紀型文理融合リベラルアーツ	022	教員免許等資格取得課程
014	専門教育： 複数プログラム選択履修制度	023	学際交流
		024	就職・進学実績

学部・学科／大学院

026	学部・学科・プログラムインデックス	068	〔生活科学部〕
028	〔文教育学部〕	070	食物栄養学科
030	人文科学科	072	人間生活学科
036	言語文化学科	076	心理学科
044	人間社会科学科	078	〔共創工学部〕
050	芸術・表現行動学科	080	人間環境工学科
054	グローバル文化学環 （学科共通）	082	文化情報工学科
056	〔理学部〕	084	学部・学科の枠を越えて学ぶ 全学的学際教育
058	数学科	086	特色ある副プログラム
060	物理学科	087	特色ある学際プログラム
062	化学科	088	大学院人間文化創成科学研究科
064	生物学科	093	副専攻プログラム／ 大学院生へのサポートシステム
066	情報科学科	094	研究を支援する豊富な研究所

お茶大ライフ

096	キャンパス環境	103	年間行事
098	学生生活サポート	104	サークル活動
099	学生食堂	106	お茶大生の一日
100	学生寮	110	奨学金制度
102	キャンパス周辺ガイド		

インフォメーション

113	入試関連情報	121	アクセス／キャンパス MAP
-----	--------	-----	----------------

女性たちの活躍を未来へ！

お茶の水女子大学は、1875年に日本初の女性のための高等教育機関「東京女子師範学校」として創立され、昨年、創立150周年を迎えました。これまで女性として日本初の帝国大学生、理学博士をはじめとして国内外で活躍した多くの卒業生を輩出するなど、日本の女子教育をリードしてきました。現在、本学では、築かれた歴史と伝統を基盤として、広い視野と豊かな感性をもって未来を拓く女性たちの育成に取り組んでいます。

2004年、国立大学の法人化に際して、お茶の水女子大学は、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」とのミッションを掲げました。このミッションのもと、日本国内に限らず、また民族、人種、年齢を問わず、世界中の全ての女性たちの夢の実現を支援することを目指しています。そのために、アフガニスタンの女子教育支援をはじめとして、アジア・アフリカの女性や幼児のための教育支援と研究交流を継続して実施しています。

世界は今、気候変動、資源枯渇、人口動態の激変、紛争など、地球規模で連帯して解決に取り組まなければならない様々な喫緊の課題に直面しています。これらの課題の解決のためには、女性の知性、想像力そして未来へのグローバ

ルな視点からのビジョンが必要とされます。このような時代にあって、お茶の水女子大学で学ぶ学生が自らの道を見出し、人びとの幸せに貢献できるよう、「文理融合リベラルアーツ教育」「複数プログラム選択履修制度」「実践的なグローバル教育」など、特色ある教育システムを構築し、豊かな学びの場を提供しています。こうした教育・実践を通して、学生自身が自律性と協調性を育み、論理的思考力と創造的探究心を習得できるよう、努めています。加えて、学生と教員の距離が近く、一人ひとりの学生としっかり向き合える少人数教育によって、それぞれの個性を大切にしながらきめ細かな指導が行われています。

近年は今まで以上に、女性の社会的活躍が期待され、豊かな専門知識を持ち、グローバルな場でリーダーシップを発揮する女性が求められています。そのため本学では、高度で先端的な教育・研究を行うとともに、男女共同参画社会の実現、グローバル化する社会で活躍する女性リーダーの育成に努めてきました。たとえば、国内外から優れた教育者・研究者を招いてリーダーシップに関するシンポジウムや講演会を開催しています。他にもリーダーシップを持ち、より良い社会をともに作る力をつけることを目的にしたキャリアデザインプログラムや、豊かな国際性を育むた

めの短期・長期の海外派遣プログラム、本学で開催するサマープログラムも用意しています。

2024年度に設置された共創工学部ではデータサイエンスを活用し、「工学と人文・社会科学の知を協働し、共に未来の環境、社会、文化を創る工学系女性リーダーの育成」を目指しています。また、めざましい進展の見えるITやAI技術の活用を通して、日本のみならず世界の様々な課題を解決することが求められています。本学ではそのような時代の要請に応じて、文理融合AI・データサイエンスセンターを設置し、数理・データサイエンス、AIの素養を持つ人材の育成にも努めています。

本学は都心において四季を感じさせる自然豊かなキャンパスに、保育施設から大学院までを備えています。その特色を活かして、人生100年時代と言われる現代において、人々が一生を通じて健康で幸せに暮らし、豊かな夢を育める社会の実現に貢献できるよう教育・研究を推進し、高等教育機関としての役割を果たしてまいります。そして、これからも、本学が刻んできた伝統を礎に、新たな時代の要請にも応じた学びと研究の環境を整備して、寄り集う人びとがリーダーシップを発揮し、新たな社会的価値を創造する女性たちの育成に努めてまいります。

国立大学法人お茶の水女子大学長
佐々木 泰子

Profile

1976年お茶の水女子大学文教育学部文学科国文学国語学卒業、1978年同大学院人文科学研究科日本文学専攻修了、1993年同大学院人文科学研究科日本語文化専攻修了。専門は社会言語学、日本語教育。お茶の水女子大学助手、助教授、教授、国際教育センター長、附属小学校長、理事・副学長を経て2021年4月より現職。

SPIRIT — 150年の歴史と伝統 —

道なき道を切り拓き、
磨かれてきたお茶の水女子大学の歴史と伝統

時代の先駆者たちを輩出し続けてきた 国立の女子最高学府

日本初の官立女子高等教育機関

お茶の水女子大学は、1875年に御茶ノ水（現文京区湯島）の地に、東京女子師範学校が設立されたことに始まります。本学が設立された目的は、女子の教育を普及させるための女性教員の養成でした。

1879年、第1回卒業生は総勢15名。1890年に女子高等師範学校となってからは、我が国随一の官立の女性のための高等教育機関として、全国の学びを求める女性たちの憧れの的となりました。また、本学を巣立った女性たちは、次世代の女子教育を担い、日本各地の学校に赴任して教壇に立ちました。

研究・教育の拠点を担う女子総合大学

現在の文京区大塚に移転したのは1932年、関東大震災（1923年）で全校舎を焼失した後のことでした。現在使用している講堂（微音堂）や大学本館、附属高等学校校舎、附属幼稚園舎、大学正門は、その当時に建てられたものです。

1949年の戦後の学制改革によりお茶の水女子大学が発足、翌年文教育学部、理学部、家政学部（現在の生活科学部）の3学部を持つ女子総合大学となりました。1963年には修士課程を、1976年には博士課程を設置するなど、教育・研究環境を整えながら、たゆみない発展と進歩を遂げてきました。2024年には新たに共創工学部を開設し、これまでの3学部の教育・研究の伝統を礎に工学と人文学・社会科学の知を協働させ、共に未来の環境、社会、文化を創る工学系女性リーダーの育成を目指します。

PIONEERS

あらゆる人々が活躍する社会の実現の道を切り拓いた
お茶の水女子大学の先駆者たち



安井 てつ 1870-1945

東京女子大学
第2代学長



黒田 チカ 1884-1968

日本初の女子帝大生
日本初の女性化学者



小泉 郁子 1892-1964

男女共学論を唱えた
教育専門家



保井 コノ 1880-1971

日本初の女性理学博士



辻村 みちよ 1888-1969

日本初の女性農学博士



湯浅 年子 1909-1980

国際的に活躍した
女性物理学者

HISTORY



「御茶ノ水」の地に開校
（現東京都文京区湯島1丁目）

高等師範学校から
女子部を分離し、
女子高等師範学校を設立



開校50年記念式典を挙行
（貞明皇后陛下行啓）



現在地の新校舎で
開校記念式を実施
（東京都文京区大塚2丁目）



大学院家政学研究科
（修士課程）を設置

共創工学部を新設

1874 1875 1885 1890 1923 1925 1932 1936 1949 1963 2004 2024 2025

お茶の水女子大学の前身
東京女子師範学校の
設立を布達



東京女子師範学校は、
東京師範学校と合併し、
東京師範学校女子部となる

関東大震災により、
校舎焼失



現在地の
新校舎に移転
（本校と附属幼稚園）



お茶の水女子大学
（文学部・理家政学部）設置



国立大学法人法により、
国立大学法人
お茶の水女子大学に移行



創立150周年

VALUE — 真価を問う —

あらゆる分野の「知」が1つのキャンパスに集結
「お茶の水女子大学」の真価

Connecting knowledge.

OUR VALUE

変化の時代に、
豊かな知性と創造的な思考——
「総合知」で応える。
未来を支える知の拠点、
お茶の水女子大学で
学ぶ真価とは。

Creating the future.

多様な知に会う、 都心の学修環境

山手線内という利便性の高い立地を生かし、周辺の大学や研究機関との交流を通じて、多様な知に自然と触れられる環境が整っています。緑豊かなキャンパスには附属学校園や図書館、学生寮が揃い、落ち着いた雰囲気の中で学びに向き合えます。充実した施設と温かな学風が調和し、学生の探究心と成長を後押しします。

分野を越えて、 一人ひとりと向き合う学び

すべての学部と大学院が一つのキャンパスに集い、文理融合を体現する学修環境が整っています。分野を越えた学際的研究も活発で、独創的な発想と先進的な研究開発の成果は、教育の場へ積極的に還元されています。徹底した少人数制教育による高度な教育課程のもと、学生一人ひとりに丁寧に向き合い、さめ細かな指導を行っています。

独自の教育プログラムと コンピテンシーの育成

教養教育では、文理の枠を越えて学ぶ「21世紀型文理融合リベラルアーツ」を軸に、多角的な視野や課題解決力を育みます。専門教育では「複数プログラム選択履修制度」を設け、知識と技能を体系的に深められます。さらに、コンピテンシーの育成にも注力し、能動的な学びを支えています。

世界へ広がる学びを、 確かな支援とともに

国際性を備えた女性リーダーの育成を目指し、豊富な海外協定校と連携した交換留学や短期研修を推進しています。留学説明会やカウンセリングを通じて、手続きから渡航後の異文化適応、危機管理まで丁寧に支援します。さらに、ACTプログラムでは英語で考え発信する力を養い、実践的なコミュニケーション能力を高めます。

社会とつながり、 将来を描く力を育む

キャリアデザインプログラムでは、実社会の課題に取り組み、多様な人々と協働して解決する力を育みます。また、アントレプレナー教育にも力を入れており、起業を目指す学生への支援も充実しています。さらに、学業や生活、就職に関する相談体制や奨学金制度が整い、安心して学校生活を送れるよう細部にわたり配慮しています。

社会的価値を創出する 研究活動

自然科学・人文科学・社会科学の各分野を揃えた総合大学として、現代社会の要請に応える研究領域を切り拓いてきました。目指すべき社会を見据えた研究から創出される価値を積極的に発信するとともに、学内の多様で先進的な研究組織による取り組みは、企業との連携を通じて、より良い社会の実現に寄与しています。

世界中すべての 女性たちの夢の実現

「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」をミッションに掲げ、開発途上国を含む世界中の女性たちの学びを支えることを目標としています。これはSDGsが示す理念「誰一人取り残さない」とも合致し、アフガニスタンの女子教育支援をはじめ、関係国際機関と連携した活動を行っています。

FUTURE — 知をつなぎ、未来へ —

想いと知を受け継ぎ、
新たな未来を創造する卒業生たち

国土交通省

国土地理院 基本図情報部

2023年文教育学部 人文科学科 地理学コース卒業

自由な環境で培われたチャレンジ精神

国土交通技官として、全ての地図の基礎となる電子国土基本図の整備に携わっています。お茶大では人文地理学を専攻しました。地理学は分野横断的な学問といえますが、学科・コースにおいて多岐にわたる授業が開講されている上、他学部の授業も自由に受講できる環境で、のびのびと興味を広げながら学ぶことができました。卒業研究において納得のいくところまで丁寧に指導いただいたこと、コロナ禍でも先生方が継続して充実した学びの場を作ってくださったことも印象に残っています。志の高い友人たちと時に励まし合い、楽しみながら自由に学べた4年間は貴重な経験となりました。お茶大の恵まれた環境の中で自然と「まずは好奇心を持って飛び込んでみよう」というチャレンジ精神が培われ、現在の自分を支えてくれているように感じます。現在の職務にも幅広い視野や知識が重要ですが、前向きな心を持って、信頼される技官になれるよう精進していきたいと思っています。

S・Mさん

東京書籍株式会社

編集局 総合科編集部 生活科編集

2020年文教育学部 人間社会科学科 教育科学コース卒業

自分の「思いや願い」を大切にする大学生活になりますように

小学校1・2年生の生活科の教科書をつくっています。きっかけは大学での学びです。子どもの主体性を大切にする大学や附属学校の先生方のもとで幼児教育と小学校教育を学ぶ中で、ふと小学校にある生活科という教科に興味をもちました。この仕事の魅力は「子どものために何かができることがしたい」と同じ思いをもってくださっている人たちと、ものづくりができることです。仕事をする中で出会えてよかったと思う人がいるのは、幸せなことだと感じています。その責任の重さに不安になることもたびたびありますが、教科書に関わってくれている人たちの思いを届けるために、今の自分ができることを全力でしていきたいです。生活科は子どもの「思いや願い」から出発し、体験することを大事にしている教科です。皆さんもご自身の思いや願いを大切に、様々なことを体験する大学生活になりますように。

O・Mさん

みずほ信託銀行

アセットマネジメント推進部

2020年理学部 数学科卒業、2022年大学院人間文化創成科学研究科 理学専攻 数学コース修了

学生時代に培った探求心が仕事の原動力に

年金管理システムの開発において、ユーザーと開発ベンダーの仲介役を担っています。このシステムは、確定給付企業年金制度を導入している企業の従業員加入状況や給付額を算出・管理するものです。ユーザーとベンダーの間には専門知識の差があるため、その差を埋めるために日々システムの設計書を読み込み、ユーザーの要望を整理しながら開発が円滑に進むよう努めています。設計書を読み解くのは難解ですが得た知識を基に要件の調整がうまく進んだとき、大きなやりがいを感じます。在学中は組み合わせ論の授業をきっかけに応用代数の面白さに惹かれ、ゼミでは暗号理論の研究に取り組みました。論文を探し、読み解きながら暗号の仕組みを理解し、実用化されていない暗号の安全性を探索する過程はとても楽しいものでした。学生時代に培った探求心が今の仕事にも活きていると感じます。今後も探求心を活かして幅広い知識を身につけ、社会に貢献できる人材を目指していきたいです。

S・Kさん

LINEヤフー株式会社

LINEヤフー研究所 HCIディビジョン 首席研究員

2013年理学部 情報科学科卒業、2015年大学院人間文化創成科学研究科 理学専攻 情報科学コース修了、2019年大学院人間文化創成科学研究科 理学専攻 情報科学領域修了

人とコンピュータの関係性をデザインする

LINEヤフー研究所にて、人とコンピュータの相互作用を扱うHuman-Computer Interaction (HCI)の研究に取り組んでいます。その中でも、スマートフォンなどの個人向け端末が備えるセンサデータからユーザーの状況や意図を推定し、新たな操作方法を構築することが私の主なテーマです。学術的な新規性の追求を重視しつつ、その研究成果を実際のサービスへと導入することを目指しています。お茶大では情報科学を専攻し、研究活動を通じて、未踏の領域に対して自ら問いを立て論理的なアプローチで解を導き出す経験を重ねました。そこで培った調査能力や創造性は、研究現場において課題を特定し、成果を積み上げるための実務的な力となっています。今後は研究成果の社会実装を推し進め、人とコンピュータの新たな関係性を構築するインタフェースを届けていくことが目標です。

I・Kさん

鹿児島県南薩地域振興局

保健福祉環境部 健康企画課 健康増進係 栄養技師

2021年生活科学部 食物栄養学科卒業、2023年大学院人間文化創成科学研究科 ライフサイエンス専攻 食品栄養科学コース修了

豊かな学びを地元に還元したい

学部では、栄養関連の幅広い知識を身につけ、卒業時に管理栄養士国家試験に合格しました。学部4年次からは、公衆栄養学研究室に所属し、学部生の頃から学会発表や論文執筆を経験することで、研究のいろはを教わりました。高い視座で健康課題を捉え、先生や研究室の仲間と議論した時間は何よりの宝物です。個人への支援に加え、社会環境の整備が人々の健康的な食生活に重要であると学んだことが、現在の進路選択につながりました。修了後は、地元の皆様の健康に寄与したいと思い、鹿児島県に入庁しました。県の栄養技師は県立病院、保健所、本庁のいずれかで勤務があり、臨床から行政まで多角的なアプローチができます。入庁後3年間は、病院で給食管理・栄養管理業務に従事し、令和8年度からは保健所にて健康的な食事の普及啓発や社会環境の整備に取り組みます。大学での学びを礎に多様な経験を重ね、県民のより良い暮らしに貢献できる管理栄養士を目指しています。

S・Hさん

静岡県富士宮市

産業振興部 観光課 観光施設係

2024年生活科学部 心理学科卒業

上京したからこそ見えた景色で目指すキャリア

大学進学を機に上京し、これまでと異なる環境に身を置いたことで、それまで気づけなかった地元のよさを感じたことをきっかけに地元の市政に携わる仕事に興味を持ちました。現在は、年間約600万人もの観光客を迎える富士山の玄関口、静岡県富士宮市で観光事業に携わっています。主に祭りの運営や観光施設の管理をしていますが、市という大きな規模の事業を動かすことは面白いですし、何より、これまで私自身や家族、友人たちが親しんできたイベントに運営側として貢献できるという点にやりがいを感じます。大学時代は心理学を専攻し、特に精神疾患の尺度やアセスメントに興味を持って学んでいました。現在の仕事に直接的な関連はありませんが、当時学んだ“人の心を支えるための知識”は、私自身を支えるお守りのような存在であり、心強く感じています。将来的には、観光資源だけでなく、市の持つ産業の強みや文化的な価値なども生かした仕事をしたいと考えています。

O・Yさん

Education at Ochanomizu University

お茶の水女子大学の教育

ディプロマ・ポリシー

1. 教育目標

お茶の水女子大学は、「学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢の実現の場である」という使命のもとに、世界の人々と協働し、生涯にわたりより良い未来の創造に向けた変革を起こすグローバル女性リーダー、すなわち「教養知」と「専門知」に「実践知」を結びつけるコンピテンシーを育み、それらを実装する「総合知」によって社会を革新する人材を養成する。この教育目標のもと、各学部・各学科に所定の年限在学し、全学ならびに学部・各学科の教育理念と教育目的に沿って設定された教育課程を学修し、下記の学習目標を達成し、所定の単位数を修得した学生に、それぞれの学部が定める学位を授与する。

2. 教育課程

- 各学部各学科が設置する専門教育プログラムを、各学部各学科が定めるプログラム選択の規定に従って、2つ以上履修する。
- 文教育学部芸術・表現行動学科および生活科学部食物栄養学科においては、それぞれの教育目標にそった専門教育のカリキュラムとして4年一貫の「専修プログラム」を設け、その規定に従って履修する。

3. 学習目標

A 総合的な教養（教養知）

人文・社会・自然に関する知識を備え、領域横断的な視野をもち、独創的な問題意識をもって、多様な人々とコミュニケーションできる総合的な基礎力

B 高度な専門性（専門知）

確かな専門知識にもとづき、情報を収集・処理し、論理的に思考し、科学的に分析する力

C 実践力（実践知）

自身で問題を発見し、知識を応用し、議論し、倫理性や公共性に関心を持ちつつ、解決する力

D グローバル・リーダーシップ

多様な文化を理解し、グローバル社会の諸問題を理解することができる外国語力を持ち、国際的視野をもって発信・交渉・行動する力

総合知を育む教育プログラム —広い視野と確かな実力を身につける学び—

1・2年次は、自らの将来を切り拓くために必要な広い視野と考える力を身につける「21世紀型文理融合リベラルアーツ」を軸に、情報や外国語など、学修・研究を進めていくために必要な基礎を学びます。専門教育課程では「複数プログラム選択履修制度」を導入し、自身の関心・進路に合わせた多様で主体的な学びの場を用意しています。

1年次

2年次

3年次

4年次

01 教養教育 P012へ 21世紀型文理融合リベラルアーツ

自然科学、人文科学、社会科学を融合した多角的なプログラム。領域横断の視野、課題解決能力、論理的思考力を養います。学修・研究をしていくための「コア（core）= 芯」となる科目で、現代世界を理解するために重要な問題領域を捉える視点を養います。

【その他のコア科目】

基礎講義

» 社会生活で必要となる基本を学びます。

情報

» 教育・研究活動で必要となるスキルと知識を学びます。

外国語

» 英、独、仏、中、露、朝鮮語等の授業を用意しています。

スポーツ健康

» 健康・体力の維持増進と
身体への理解を深めます。

02

専門教育 P014へ

複数プログラム 選択履修制度

高度な専門性とともに、その能力を発揮できる知識と技能を体系的に学ぶことができる専門教育課程です。お茶の水女子大学では、学生一人ひとりが自分の目的に合わせ、より主体的な学修プログラムを構築できる「複数プログラム選択履修制度」を導入しています。2～3種類のプログラムを組み合わせることで履修するこの制度では、専門を深めるだけでなく、異なる部門へ発展させることも、学際領域へ踏み込むこともできます。

主プログラム

専門的な知識
や技能の基礎
を学びます。

副プログラム

主プログラムと異なる分野の学修をします。

強化プログラム

専門領域に特化した深い専門性を培います。

学際プログラム

様々な分野を融合する最先端の学際型の知識や技能を学びます。

専修プログラム（4年間一貫制）

03 P016へ グローバル教育

外国語教育の充実と英語による専門学修、留学や海外研修、調査研究活動など多様な国際経験を段階的に積み重ね、文化理解と実践力を深めながら、国際社会で主体的に行動できる力を育成するための環境を整えています。

● ACT (Advanced Communication Training) プログラム

1年次から英語で学ぶ実践授業で、会話・作文力を強化する上級英語プログラム

- サマープログラム
- 交換留学
- 海外短期研修

04 P020へ キャリアデザイン プログラム

将来像を見据えた主体的な学びを促し、社会課題を考える中で、専門性を社会で生かすための視点と行動力を身につけます。

コンピテンシー 育成支援

自分の強み・弱みを可視化し、授業選択に結びつける仕組みにより、計画的に力を伸ばす学びを支援します。

05 P022へ 教員免許等資格 取得課程

教員免許状や各種資格取得のためのカリキュラムを設けています。

● 教育職員免許状

幼稚園から高等学校まで、多くの校種、教科の取得課程を整えています。

● 資格取得

次のような資格取得を目指すことができます。

- ・学芸員
- ・社会調査士
- ・GIS学術士、地域調査士
- ・栄養士、食品衛生管理者、食品衛生監視員

21世紀型文理融合リベラルアーツ

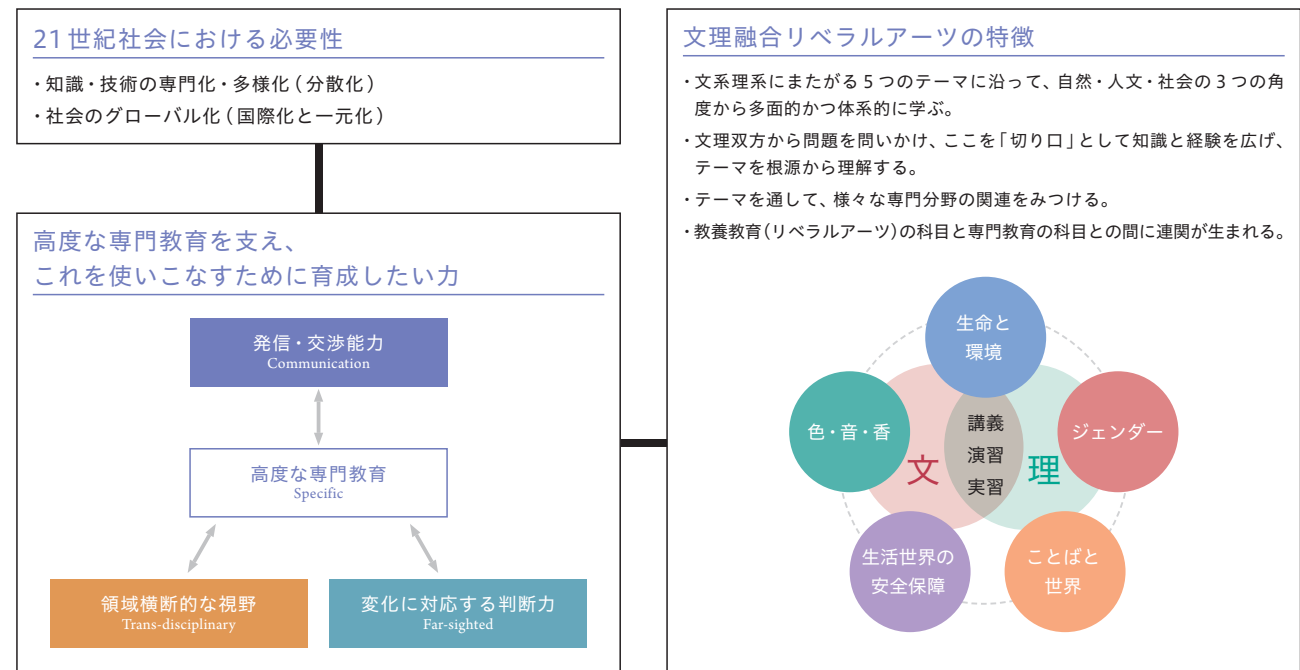
自然科学・人文科学・社会科学の領域を横断し 知の基盤を学び、広い視野を身につける

お茶の水女子大学の教養教育の中核をなすのが、文系・理系を融合した「21世紀型文理融合リベラルアーツ」です。1・2年次を中心に履修するプログラムで、現代世界を読み解く「鍵」となる5つのテーマに沿った系列科目群と演習からなっています。高度な専門教育を支え、使いこなすためには、発信・交渉能力と領域横断的な広い視野、変化に対応する判断力が必要です。これらの能力は、どんな専門分野に進んでも重要な基礎となるもので、生涯を通して、自在（リベラル）に使える技（アーツ）となります。1年次のうちからリベラルアーツの系列科目群を体系的に学ぶことで、文系、理系の領域を横断した視野を獲得するとともに、教養教育と専門教育を結びつける能力を養うことができます。

プログラムの特徴

リベラルアーツは文系・理系にまたがる5つのテーマ（生命と環境、色・音・香、生活世界の安全保障、ことばと世界、ジェンダー）に沿って、講義、討論、発表、演習・実験・実習を組み合わせた系列科目群からなっています。各人がそれぞれの目的や興味によって学科を問わずに自由に選択することができ、1年次から専門性の高いテーマを自然科学・人文科学・社会科学の3つの角度から多角的かつ体系的に学ぶことができます。目標はテーマを根源から理解することです。一つのテーマに文理双方から問題を問いかけることで、そこを「切り口」として深く掘り下げていくなかで、学術的にも価値ある領域横断的な知識と経験を身につけ、様々なシーンで応用可能な実践力を高めていきます。なお、必要単位数を履修すると、申請に基づき成績証明書に「系列履修認定」が明記されます。

一人ひとりが生涯にわたって生き活きと生きていくための学際的かつ実践的な力を身につけ、
専門力を活かした進路を開拓するための教育プログラム



リベラルアーツの5つのテーマ



生命と環境

近年、生存の場としての環境の重要性はますます強く認識されるようになっていきます。環境との関わりを深く理解し、新たな共生の方法を創成することは、21世紀を生きる私たちに課せられた重大な使命です。生命を守るための環境への配慮を行うために必要となる、「複眼」的視野の導入を図ります。生命とは何か、現代科学における生命像、生命倫理から生命を取り巻く自然環境、文化環境、地域と風土などの問題を扱います。

- 講義：生命の科学、生命倫理と法、多様性生物学、生物人類学、生命と環境の化学、惑星地球の科学
- 実習：海洋環境学ダイビング、海洋環境と生物多様性



色・音・香

色・音・香という身近な感覚、感性を共通の切り口とし、自然の原理と私たちの文化や社会について学びます。色・音・香を通じて自然現象の基礎を理解するとともに、人間（生物）が自然界や社会・文化的情報をいかに認識し、受容して利用していくのか、さらにそれをどのようにして社会的、文化的情報として蓄積していくかを探求し、広く人間と自然、人間と社会の相互作用についての理解の視点を養います。

- 講義：分子から見た色と香り、生命と色・音・香、色・音・香の物理学、コンピュータが創る色と音、心の健康とジェンダー、色・音・香と生活文化、舞踊における色・音・香、宗教と色・音・香、おいしさと色・音・香、知覚認知と環境デザイン
- 演習：おいしさのサイエンス



生活世界の安全保障

人間は安全を確保するため、様々な社会的・技術的・文化的な装置を作りだしてきました。しかし時代の進展につれ、テクノロジーの発展によって克服された危険がある一方で、それが逆に新たな危険や抑圧・不平等などの脅威を発生させています。身近な安全を守るために何が必要かを考えることを通じ、技術と制度と文化の相互関係や生命としての人間のあり方を捉え直します。

- 講義：生活世界と法、情報社会の安全保障、リスクの社会史、平和と暴力、現代物質文明の履歴、ゲノム時代の健康管理、水の安全保障、社会的弱者の存在論、教育と社会
- 演習：トランス・サイエンス論入門



ことばと世界

ことばは世界とどのような関わりを持つのでしょうか。ことばは何を表し、私たちはそれによって何を表現しているのでしょうか。人間を取り巻く世界（人間社会や自然界）を、人間はどのようにして記述し、どのように伝えてきたのでしょうか。自然言語、数学言語、コンピュータ言語など科学の「知」を記述することばの仕組みと働き、文学作品や新聞・雑誌などに記述された言語による表現世界など、ことばについて多面的に考えます。

- 講義：日本語論、コミュニケーションと心理学、論理学、日本文学、海外の文学、数理のことば、自然のことば、グローバル化社会を生きる、文法と意味、思考力トレーニング、統計と社会
- 演習：手話学入門



ジェンダー

ジェンダーは社会や文化によって形づくられた性別であり、グローバル化が進む現代では実に巧妙に私たちの生活に入り込んでいます。性別に関係なく充実した幸福な生活を営める社会にするために、何を考え、どう研究すればよいかを学び、ジェンダー視点の導入を行います。政治、経済、地域文化、国際、歴史、文学、アート、テクノロジーなど様々な学問領域を通して、今を生きるジェンダー学を学ぶことで視界を拓き、新しい知の担い手として活躍できる国際人を目指します。

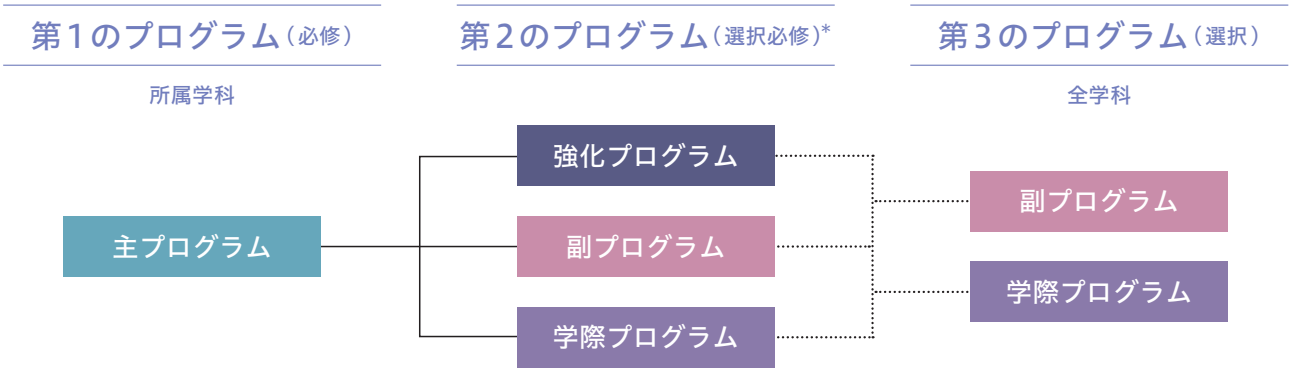
- 講義：女性史・男性史とジェンダー、グローバル経済とジェンダー、文化メディアとジェンダー、アートとジェンダー、宗教文化とジェンダー、クィアとジェンダー、政治・政策とジェンダー、開発とジェンダー、テクノロジーとジェンダー

複数プログラム選択履修制度

学生一人ひとりが選択する多様で主体的な学び

専門教育課程では、学生一人ひとりの意欲やニーズに柔軟に対応できるシステムを提供しています。主プログラム・強化プログラム・副プログラム・学際プログラムの4つから、学生自身がプログラムを選択し組み合わせることで、自らの学びを主体的にデザインすることができます。

* 文教育学部芸術・表現行動学科及び生活科学部食物栄養学科は、上記とは異なる4年一貫の専修プログラムにしたがって学修します。



■ 主プログラム

各専門領域の基礎的な知識や技能を、一貫的、調和的に修得するためのプログラムです。所属学科の開設するプログラムから選択します。文教育学部と生活科学部人間生活学科の学生は、主プログラムを1年次終了時に選択します。理学部と生活科学部心理学及び共創工学部の学生は入学時点で決定しています。なお、第2・第3のプログラムは全学部とも2年次修了時またはそれ以降に選択します。主プログラムまたは専修プログラムを選択した学生が所属し、専門教育を学んでいく足場となる教育組織が学科、またはコース・講座です。

■ 強化プログラム

各専門領域のより高度な科目群からなり、専門領域に特化した深い専門性を培うためのプログラムです。主プログラムと同一名のプログラムを履修します。

■ 副プログラム

学生の多様な能力・適性及び学修意欲に応え、専門とは異なる分野の幅広い学修機会を提供するためのプログラムです。所属学部及び他学部のプログラムから、主プログラムと異なる分野のプログラムを履修します。

■ 学際プログラム

新たな領域融合型または学際的専門領域に即応し、先端研究分野で要請される新しい専門人材養成に対応するプログラムです。所属学部及び他学部の開設するプログラムから履修します。

他学科、他学部の提供する副プログラムや学際プログラムからも選択できるため、学問領域を横断して学びたい場合に有効です。第2のプログラムで選択したもの以外に、もう一つの副プログラム・学際プログラムを学ぶことができます。

■ 副プログラム

他学部のプログラムも選択できます。

■ 学際プログラム

他学部のプログラムも選択できます。ただし、理学部提供のプログラムを、文系学科所属の学生が履修することはできません(心理学科を除く)。

* グローバル文化学を主プログラムとする履修者は、必修プログラムとしてグローバル文化学主プログラムを選択し、第2のプログラムとして所属学科のいずれかの提供する副プログラム又は教育科学・子ども学学際プログラムを履修します。
* 選択可能なプログラムは、本学Webサイトをご覧ください。

目的別プログラム選択例

文教育学部

「NGOや国連など国際的な場で活動したい」 国際情勢など幅広い視野を身につけて、世界の国や地域について造詣を深め、国際協力に従事することを目標にプログラムを選択	主プログラム グローバル文化学	+	副プログラム 英語圏言語文化	+	副プログラム 日本語教育
「中学校・高校の先生になりたい」 中学校・高校の教員（社会・地理歴史）を目指して、教科の専門分野とともに、教育科学の知識を学べるようにプログラムを選択	主プログラム 比較歴史学 地理環境学など	+	学際プログラム 教育科学・子ども学	+	教員免許 取得課程

理学部

「高校の生物の教師になりたい」 高校の生物教師になることを目標に、生物学を重点的に学べるプログラムを選択	主プログラム 生物学	+	強化プログラム 生物学	+	教員免許 取得課程
「ICT（情報通信技術）関連のグローバル企業で活躍したい」 希望進路に必要な情報通信の専門的知識に加え、自身の知識の幅を広げるためにゲノム研究について学べる学際プログラムを選択	主プログラム 情報科学	+	学際プログラム 生命情報学		

生活科学部

「行政や企業で消費者に関するエキスパートとして働きたい」 社会科学の基礎的な考え方を学ぶとともに、消費生活アドバイザーの資格取得も目指してプログラムを選択	主プログラム 生活社会科学	+	学際プログラム 消費者学		
「子どもの発達に詳しい心理専門職を目指す」 公認心理師の受験資格に必要な単位を取りながら、子ども学についても学べるプログラムを選択	主プログラム 心理学	+	強化プログラム 心理学	+	副プログラム 教育科学・子ども学

共創工学部

「身のまわりの課題を理工学的に考えてみたい」 研究や進路の幅を広げられるように、人間と環境とともに情報技術についても学べるプログラムを選択	主プログラム 人間環境工学	+	強化プログラム 人間環境工学	+	副プログラム 情報科学
「情報技術やAIで新しい文化を生み出したい」 文化のイノベーションに貢献できる人材になるために、文化情報工学のプログラムにおいて、人文学とデータサイエンス、情報工学の基礎から応用までを学ぶとともに、人文学の専門性を強化できる副プログラムを選択	主プログラム 文化情報工学	+	副プログラム 比較歴史学、地理環境学、 グローバル文化学などから選択	学際プログラム	

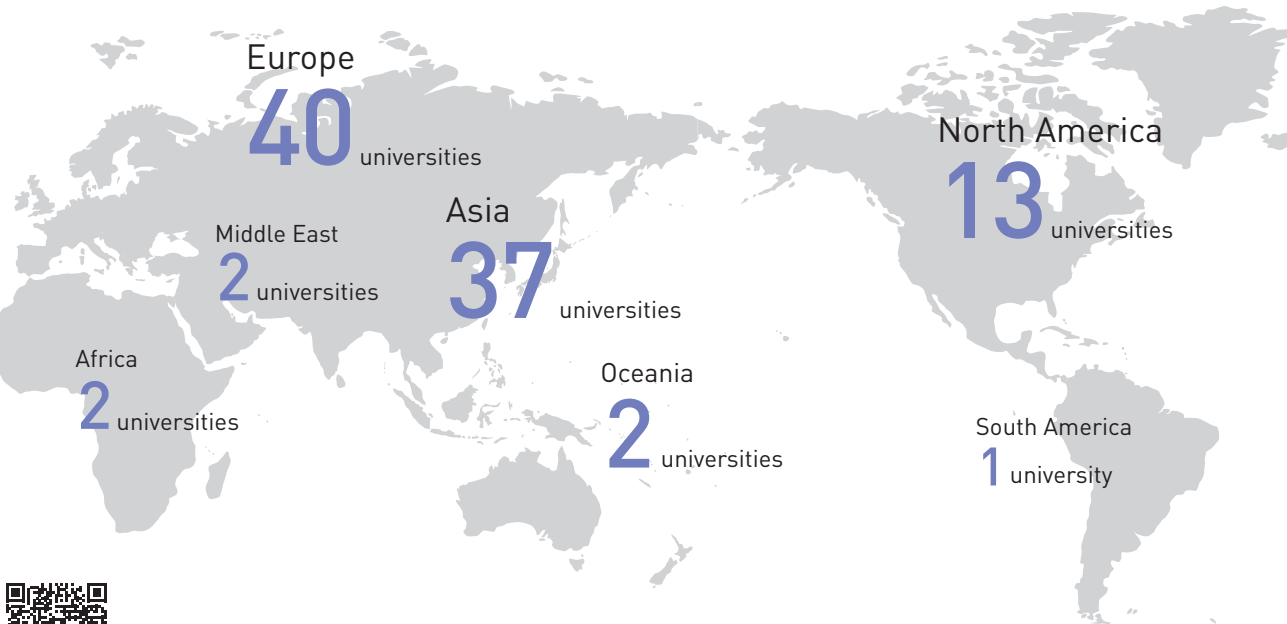
グローバル教育

世界を知り、世界へはばたくグローバル女性リーダーへ

多様な留学機会と外国語力強化を重視し、サマープログラムや留学生との交流を通して多文化理解を深めます。実践的な国際経験を積みながら、国際社会で活躍できる力を着実に育成します。

大学間交流 協定大学（33の国・地域、97大学）

協定大学所在地



協定大学一覧はこちら
<https://www.ocha.ac.jp/intl/900/header-menu/partners/index.html>

サマープログラム

「英語によるサマープログラム」は、生きた英語を通して専門的内容を学ぶ夏期集中講義です。2026年度は、以下の3つの専門コースに加え、「プロジェクトワーク」や日本文化を学ぶ授業を実施します。

プログラムの概要

- ・Exploring and Creating Fulfilling and Healthy Human Life in Modern Society
- ・Five Elements of Natural Science
- ・Current Issues in Japanese Culture and Society under Globalization

プログラムの特徴

- ・約4週間にわたり実施される集中型プログラム
- ・英語による講義やディスカッションを通じ、実践的な英語力を育成
- ・本学在學生に加え、国内外の協定校から約70名の学生が参加
- ・英語による交流会やディスカッションを多数実施し、学生同士の新たなつながりが生まれる機会を提供
- ・日本文化を深く理解するためのカルチャーイベントも開催



交換留学

海外の協定校に1年以内で留学するプログラムです。現在、33の国・地域、97大学と交流協定を締結しており、留学希望者は、学内選考を経て、協定校の求める要件（志望動機、語学能力試験、学業成績など）を満たせば、留学することができます。在学したまま留学ができ、派遣先大学での授業料は原則として免除され、留学先で修得した単位は互換制度により卒業単位として認定されます。一方、学内ではアジア、中東、ヨーロッパなどの協定校からの交換留学生を含む多くの留学生が学んでいます。

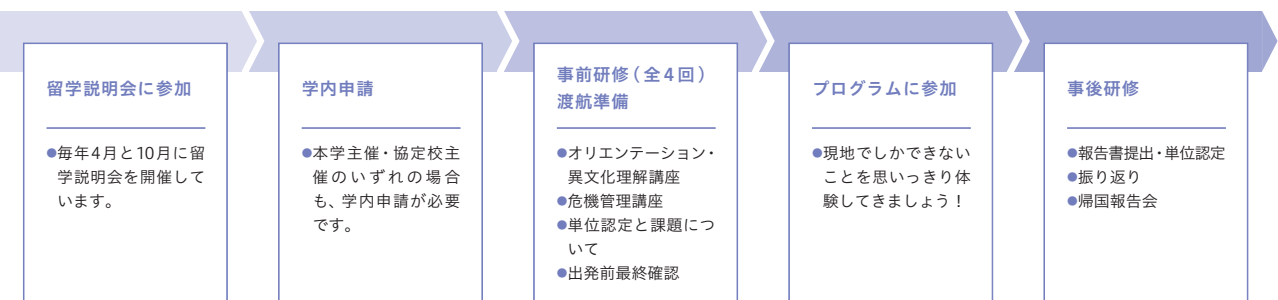
留学スケジュール例（2年次に通年交換留学の場合）

	4月～7月	夏季休暇	9月～10月	11月～1月	2月～3月
1年次	- 留学説明会参加 - 国際イベント参加 - 国際教育センターへの個別留学相談	- 留学に関する情報収集 - 留学目的の明確化・具体化 - 語学能力試験受験	第1次選考（書類選考）	- 第2次選考（面接選考） - 推薦候補者として決定	留学先大学への応募書類の提出→受入許可
2年次	- 事前研修出席 - パスポート・ビザ取得、渡航準備	留学開始	留学		
3年次	留学		- 留学先での単位認定 - 帰国報告書の提出 - 帰国報告会で発表	国際交流活動など	
4年次					

海外短期研修

大学の休暇期間を活用し、2～6週間の海外短期研修プログラムを実施しています。海外協定校での授業や、世界各国から集まる研修生との交流、インターンシップ、ホームステイや学生寮での生活など、短期間ながらも充実した学びの機会を提供します。現地での実践的な語学研修に加え、多言語・多文化に触れる貴重な体験ができるプログラムです。派遣先は、韓国、台湾、タイ、アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリス、フランスなど、多様な地域に広がっています。

参加までのステップ



Future with India プログラム

文部科学省が進める大学の世界展開力強化事業の1つとして2025年度に、本学のFuture with India プログラム（「インドと共に未来を拓く：理工系グローバルリーダー育成のための最先端共同研究・高度教育連携」）が採択されました。本プログラムは、インドの主要大学協定校（インド工科大学等）と本学の理系大学院生の1学期間の研究交流と英語によるインターンシップを通じて、日印の理工系女性グローバルリーダーとなる科学技術分野の発展に貢献する人材の育成を目指しています。本学学生はインドからの理系大学院生との研究室における協働研究を通じて学術交流を深めた後、インドの主要協定大学において1学期間の留学に挑戦することができます。さらにインターンシップを含む所定の科目を修了することで、修了証（サーティフィケート）が授与されます。

途上国における海外スタディツアー

全学共通科目「国際共生社会論実習」において、履修生は①事前学習、②現地調査、③事後学習を通して、貧困、教育、地域間格差等のグローバルな課題についての理解を深めます。履修生は各自が設定した研究課題に基づき、関連機関への訪問や英語を使って人々へのインタビューを行い、課題の実態を多角的に把握します。こうした学習プロセスは、研究課題の解明に資するだけでなく、異文化理解や英語によるコミュニケーション向上にもつながっています。

外国語力強化・留学支援の取り組み

ACTプログラム

1年次から履修できる英語力を強化する教養科目（コア科目）として設けられたのが、「英語を学ぶ」だけでなく「英語で学ぶ」により英語の運用能力を向上させる実践的な上級英語プログラムです。プレゼンテーション、ライティング、ビジネス英語、資格英語などの実践的な英語科目群から構成されています。12単位以上履修することにより、プログラム修了証を取得できます。

語学学習のサポート体制

外国語教育センターでは、以下のサービスを通じて学生の語学学習を総合的にサポートしています。

01 外国語学習相談

- ・大学院進学・留学・就職に向けた語学検定（例：TOEFL、IELTS、TOEICなど）の対策相談が可能
- ・会話力向上のための指導
- ・作文（ライティング）の個別指導
- ・自分に合った学習方法についての相談も受付



02 語学カフェ

- ・学生を中心に、語学に興味のある学生が自由に参加
- ・各国のことばや文化について気軽に交流できる場
- ・異文化理解やコミュニケーション力向上にも効果



03 教材コーナー（ラーニングリソース）

語学検定対策本、海外映画のDVDなど5,000点以上の語学教材を所蔵しており、自習や試験対策に活用可能です。



04 語学学習向け自習室

専用の自習スペースを2部屋設置しています。静かな環境で集中して学習でき、自由に利用できます。



途上国研究・国際協力分野における海外調査支援

学部3・4年生および大学院博士課程（前期・後期）の学生による途上国研究、国際協力に関する現場に根差した調査研究を支援するため、公募により選定された海外調査への支援を実施しています。

TOPICS グローバル協力センター

グローバル協力センターは、国際協力・平和構築に関する教育、研究、国際貢献を推進することをめざして設立されました。「平和と共生演習」「国際協力特論」などの講義科目や、カンボジアやブータンなど途上国で現地調査（スタディツアー）を行う海外実習科目、そして「持続可能な開発目標（SDGs）セミナー」「ブータン連続セミナー」等の実施を通して、地球規模の課題について学ぶ機会を広く提供しています。学生の自主活動や研究調査の支援、関連する図書の貸出、セミナーやイベントの情報提供も行っています。また、開発途上国の女子教育支援の連携枠組みである「五女子大学コンソーシアム」（お茶の水女子大学、津田塾大学、東京女子大学、奈良女子大学、日本女子大学）の活動の一環として、合同国内スタディツアーや単位互換を通じた人材育成に取り組んでいます。さらに、JICA（独立行政法人国際協力機構）の委託を受け実施している研修「乳幼児ケアと就学前教育」により、途上国の乳幼児教育者の育成を支援しています。



サマープログラム

海外の仲間がくれた原動力

私は1年生の時に留学生と一緒にサマープログラムの授業を履修し、そこで出会った留学生と仲良くなりました。外国語に挑戦する楽しさを知り、同じ楽しさを他の人にも感じてほしいと思い、2年生の時には運営委員として携わりました。留学生も私たちと同じように学ぶ意欲にあふれた学生であり、仲間であるという気づきに背中を押され、短期留学にも挑戦することができました。海外で高い志を持って学ぶ仲間と恥じないよう日本で成長し続けることが、今の私のモチベーションになっています。

生活科学部 人間生活学科 3年
S・Sさん

第1のプログラム：生活社会科学主プログラム
第2のプログラム：生活社会科学強化プログラム

交換留学：イギリス／イースト・アングリア大学

交換留学で得た新たな学びと出会い

交換留学は中学生の頃からの憧れでした。「興味を持ったことには何でも挑戦する」という目標を立て臨んだイギリス留学では、専攻の言語教育の学習や課外活動、寮生活、お茶大に留学に来ていた友人との再会など非常に充実した時間を過ごしました。何よりも、今後もずっと大事にしたい友人たちとの出会いがかけがえない宝物です。留学を支えてくださった全ての方々への感謝を胸に、現在は留学に興味のあるお茶大生の支援をしています。皆さんも留学で新しい学びや友人と出会ってみませんか。

文教育学部 言語文化学科 4年
T・Hさん

第1のプログラム：英語圏言語文化主プログラム
第2のプログラム：教育科学・子ども学際プログラム



五女子大学コンソーシアム合同国内スタディツアー

異郷で見つけた、共に生きる形

唯一の外国人留学生として訪れた駒ヶ根で、私は「多文化共生」を初めて自分の身体で感じました。そこには支援する人とされる人の境界はなく、同じ地域で暮らす仲間として向き合う姿がありました。「民際」という言葉が示すのは、国境ではなく人と人の距離の近さです。母子保健支援の語りを通して、母子健康手帳を手にした女性たちが自らの身体を見つめ直していく姿を知りました。その出会いは、私自身の在り方を問い直す時間となりました。

大学院人間文化創成科学研究科 博士前期課程 2年 ジェンダー社会科学専攻
Y・Jさん



キャリアデザインプログラム科目群は、基幹科目群と関連科目群で構成されています。基幹科目群は、職業選択に関わる知識だけでなく、仕事、仕事以外の生活、その両立、関連する社会の現状、組織の仕組みについて講義や講演から考えることを目的としています。また、企業などの課題解決や製品開発などをテーマとした課題解決型学習（PBL）を行う科目、インターンシップなどの実践科目もあります。

お茶の水女子大学論、ハイカラさん講座、キャリアアプラン、ICTとコミュニケーションスキル、キャリアアプランと進路選択、コンピュータシ基礎論、女性のキャリアと経済、未来開拓入門、グローバル・リーダーシップ実習 など

時は大正デモクラシー。「ハイカウさん」は自然体で颯爽と、時代の先端を闊歩していました。そのモデルがお茶大生。女子教育の最高峰、希望の星でした。そんな気概を胸に、みんなでワクワクしながら、様々なテーマについてディスカッションします。文系・理系、さらには学年をも越えた楽しい授業の輪に、あなたも一緒に参加してみませんか？

キャリアという仕事を思い浮かべることが多いですが、仕事・働くことだけでなく、それ以外の生活部分について見通すことは、長期的に「よい状態」でいるために役立ちます。授業では今後起こりうるライフイベントに関する現状と課題を踏まえ、自分の望む卒業後を描きます。その上で、大学生活をどのように過ごすのかを考え、実行できるようになることを目指します。

自らの未来を描くための授業です。お茶の水女子大学の特色を知り、自らの将来をイメージしながら、在学期間を有意義に過ごすための基礎をつくります。学長による講演会、本学の歴史と社会的役割、卒業生やロールモデルの講演会などが組み込まれた、あらゆる学修の基盤となる講義です。



企業や官公庁、NPO、各種研究機関などでの30時間以上のインターンシップ(体験就労)で、社会に出て働くことの意味を考えます。学内でも図書館でのインターンシップ、各センターが募集する自主活動などの多様な体験学修の機会により、キャリアデザインに関連した学修課題が発見できます。



学生・キャリア支援センターでは、ガイダンス、セミナー、OG 懇談会、学内合同企業セミナー、ワークショップなどの就職や進路選択を支援するためのイベントを企画し、実施しています。また、キャリアアドバイザーが、学生の皆さんの進路やキャリアに関する様々な相談に応じています。



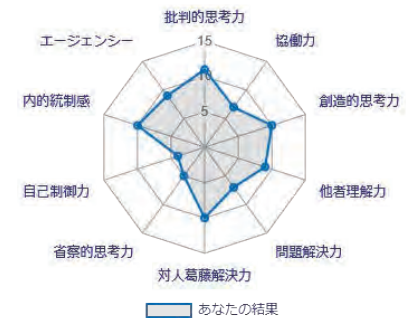
教育機関におけるコンピテンシー（社会で成果を上げる能力）育成の試みは、国内外で拡大しつつあります。本学ではこれまで、キャリア教育の枠組みにおいてそうした能力の育成を意図した授業を行ってきましたが、2024年度より規模を拡大し、全学的に授業におけるコンピテンシーの育成支援を開始しました。また、学生の皆さんがコンピテンシーの育成を計画的に行えるよう、専用システムCACICA（カシカ）の提供により、定期的な能力チェックや目標設定・振り返りを可能にしています。これまでの授業に「能力育成」という視点が加わることで、皆さんの大学での学びがより豊かに、また能動的なものになることを期待しています。

コンピテンシーとは、場面に応じて、知識やスキルを組み合わせ、適切に使いこなし、社会で成果を上げる資質や能力のことです。本学では、在学中を通じて、学生に磨いてほしい10の力を「お茶大コンピテンシー10」として定めています。

新たな価値を創造する力	対立やジレンマに対処する力	責任ある行動をとる力
批判的思考力	問題解決力	省察的思考力
創造的思考力	他者理解力	内的統制感
		自己制御力
協働力	対人葛藤解決力	エージェンシー



学生が主体的に「大学での学び」をデザインし、「お茶大コンペティンシー10」の育成を継続的に
行っていくことをサポートするWebシステムです。コンペティンシーチェックで自分の現在の状態
を可視化して把握できたり、コンペティンシーを伸ばしうる授業を可視化して確認することで履修
計画に役立てることができます。こうした活動の振り返りの登録も可能で、これは就職活動時に
問われる「学生時代力を入れたこと」の貴重な材料にもなります。



☒ 自分の強み・弱みを「可視化」する ☒ 授業で延ばせる能力を「可視化」する ☒ 成長の軌跡を「可視化」する

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次							
4 月		5 月		6-7 月		8-9 月		10-11 月		12-1 月		2-3 月	
社会で活躍する女性リーダーに求められるコンピテンシーと、卒業後の社会的・職業的自立に必要な知識やスキルを実践的に身につけ、深める				・基幹科目：卒業後について想像しながら大学で学んでいくための導入科目 ・関連科目：社会的・職業的自立に関わりの深い教養・専門教育科目									
ガイダンス系行事のほか、全学対象行事への参加を推奨	・キャリア総合ガイダンス		・留学＆就職ガイダンス										
			・コンピテンシー育成システム活用講座			・課題解決講座			・社会人基礎力疑似体験講座			・個別相談会	
	・自己理解講座 ・企業理解講座 ・業界研究講座		・ES 対策講座 ・録画・動画選考対策講座 ・適性検査理解講座／SPI 受検会 ・面接対策講座 ・業界／企業研究セミナー	・企業研究セミナー ・デザイン思考対策講座 ・グループディスカッション対策実践講座 ・出版社業界研究セミナー			・企業研究セミナー	・就活総点検講座 ・面接ビジネスマナー講座 ・グループディスカッション対策実践講座	・本選考直前対策講座				
	・教員採用試験ガイダンス					・教員採用試験ガイダンス							
	・公務員ガイダンス					・公務員試験ガイダンス							
	・インターンシップ／オープン・カンパニー等ガイダンス					・インターンシップフォローアップ講座							
			・外国人留学生対象ガイダンス				・外国人留学生対象ワークショップ						
			・メイクアップ講座				・メイクアップ講座						

教員免許等資格取得課程

教職や各種資格の取得は、卒業後の活躍の場をより確かなものにします。お茶の水女子大学では下記の表に示す資格を取得できます。所属学部（科）によって取得できる免許状や資格が異なり、取得には卒業要件科目のほか、指定科目の履修が必要です。

※この情報は2026年5月現在のものです。変更等の可能性もありますので、最新の情報は本学Webサイトでご確認ください。

各種教育職員免許状・資格取得

		文教育学部					理学部					生活科学部			共創工学部			
		人文学科	言語文化学科	人間社会科学科 (教育学・子ども学コース)	人間社会科学科 (社会学コース)	芸術・表現行動学科	数学科	物理学科	化学科	生物学科	情報科学科	食物栄養学科	人間生活学科	心理学科	人間環境工学科	文化情報工学科		
取得免許・資格	教育職員免許状	幼稚園教諭一種免許状			●													
		小学校教諭一種免許状	*	*	●	*	*	*	*	*	*			*				
		中学校教諭一種	国語		●													
			社会	●		●	●											
			数学						●			●						
			理科							●	●	●						
			音楽					●										
			保健体育					●										
			家庭												●			
		英語		●														
		高等学校教諭一種	国語		●													
			地理歴史	●														
			公民	●		●	●											
			数学						●			●						
			理科							●	●	●						
			音楽					●										
			保健体育					●										
			家庭												●			
		情報										●						
		英語		●														
		栄養教諭一種免許状											●					
	学芸員	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
	社会調査士	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
	GIS学術士	●														●		
	地域調査士	●														●		
	栄養士											●						
	食品衛生管理者 ^{※1}											●						
	食品衛生監視員 ^{※1}											●						
受験資格	管理栄養士											●						
	一級建築士														●			
	公認心理師													●				

※●印のある学科で資格を取得できます。
※文教育学部言語文化学科及び芸術・表現行動学科の学生は、選択するプログラムによって、取得可能な教員免許状の教科が異なります。
※文教育学部人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科の学生で、グローバル文化学プログラムを主プログラムとして選択する学生は教員免許状を取得できません。
※*のある学科では一定の要件のもとに小学校教諭一種免許状を取得することができます（入学後要確認）。
※人文科学科のGIS学術士は、地理環境学主プログラムに限ります。
※地域調査士資格取得、一級建築士受験資格の詳細に関してはお問い合わせください。
※公認心理師については、心理学科のページ（P077）をご覧ください。
※1 必要な職権に就いた時、その任に就くことができる任用資格です。

学際交流

四大学未来共創連合

2025年7月、お茶の水女子大学は東京外国語大学、東京科学大学、一橋大学と共に四大学未来共創連合（Future Leading Innovation Partnership (FLIP)）として、憲章を締結しました。

お茶の水女子大学は、この憲章に基づき、「複合領域コース」に2026年4月から参加することとなりました。

この制度は、所属大学在学中に複合領域コースで定められた履修科目の所要単位を修得し、かつ卒業要件を満たした場合にコース修了を認定するものです。

複合領域コースは、特定のテーマのもとに、協定大学が提供する、各大学の特色を活かした授業科目を学ぶことで、課題を多角的に捉え、総合的に解決策を構想する力を育み、こうして培った柔軟な思考力と俯瞰的な視野を、社会の多様な場面で新たな価値を生み出す力として発揮することができる人材の育成を目的としています。

お茶の水女子大学で履修できる複合領域コース

FLIP 国際協力コース

国際社会の持続的発展に貢献できる力を育むことを目的としています。国際協力に関わる諸課題を多面的に学ぶことで、学生は開発、環境、言語、文化、ジェンダーなど多様な視点から世界の現状を理解し、課題解決を考える力を養います。各大学の特色ある授業を通して、地域や分野への関心を広げ、自らの専門を国際的な文脈で捉える力を培います。将来、国際協力や地域社会での協働・実践に生かせる基礎的素養を身につけることを目指します。

※2026年4月に設置されたのは「FLIP国際協力コース」のみです。今後、順次コースを増設する予定です。

国内他大学との単位互換協定

お茶の水女子大学は、下記の大学と交流協定を結び、単位互換制度を実施しています。協定先大学が開講する授業科目を「特別聴講学生」として履修することができ、修得した単位は卒業に必要な単位に含めることができます。

学部学生交流協定校一覧

協定先	受入・派遣学生の条件					履修可能学部
	対象学年	文教育学部	理学部	生活科学部	共創工学部	
東京科学大学	2年生以上	○	○	○	○	
東京芸術大学	—	○	○	○	×	音楽学部
共立女子大学	—	×	×	○	×	家政学部
東京外国語大学	2年生以上	○	○	○	○	言語文化学部／国際社会学部／国際日本学部
東京海洋大学	—	×	○	×	×	海洋生命科学部／海洋資源環境学部
一橋大学	2年生以上	○	○	○	○	商学部／経済学部／法学部／社会学部
早稲田大学	4年生	×	○	×	×	先進理工学部
中央大学	—	○	○	○	○	理工学部
奈良女子大学	—	○	○	○	○	
津田塾大学	—	○	○	○	○	

就職・進学実績

学部卒業生の進路状況（2025年度）

学部・学科		卒業者数	進学者数	就職希望者数	就職者数			就職希望者に 対する内定率	その他
					企業	官公庁	教員		
文 教 育 学 部	人文科学科	58	10	46	36	8	0	95.7%	5
	言語文化学科	87	14	66	55	10	1	100.0%	7
	人間社会科学科	48	10	32	21	4	7	100.0%	6
	芸術・表現行動学科	28	11	7	6	0	0	85.7%	11
	小計	221	45	151	118	22	8	98.0%	29
理 学 部	数学科	18	8	9	7	0	2	100.0%	1
	物理学科	23	13	9	9	0	0	100.0%	1
	化学科	20	18	2	1	1	0	100.0%	0
	生物学科	26	22	4	4	0	0	100.0%	0
	情報科学科	38	32	6	6	0	0	100.0%	0
生 活 科 学 部	小計	125	93	30	27	1	2	100.0%	2
	食物栄養学科	37	27	9	9	0	0	100.0%	1
	人間・環境科学科	26	8	8	8	0	0	100.0%	10
	人間生活学科	46	4	41	35	6	0	100.0%	1
	心理学科	29	7	18	16	2	0	100.0%	4
学部合計		484	184	257	213	31	10	98.8%	47

※人文科学科の進学かつ就職の学生はどちらにも計上しています

学科別就職先一覧（2025年度）

※就職者が5人未満の所属に関しては個人が特定されないよう2年分記載しています。

文教育学部

人文科学科（哲学・倫理学・美術史）
グレイスコミュニケーションズ株式会社
コムスマ株式会社
トヨタ車体株式会社
一般社団法人共同通信社
一般社団法人日本損害保険協会
株式会社オノンワード櫻山
山梨県
東京都北区
国立研究開発法人科学技術振興機構
日鉄ソリューションズ東日本株式会社

人文科学科（比較歴史学）
アズビル株式会社
ソウルアウト株式会社
パーソルエクセルHRパートナーズ株式会社
株式会社SUBARU
株式会社オーイーシー
株式会社シティ・コム
株式会社ジャパングスエナジー
株式会社ホルルクス
森ビル株式会社
株式会社電通総研
埼玉県
上田市
千葉県
全国共済農業協同組合連合会
東映アニメーション株式会社
東京都
東京労働局
富士フィルム株式会社
株式会社サンゲツ

人文科学科（地理学）
ソフトバンク株式会社
株式会社NEXCOシステムソリューションズ
株式会社NTTデータ
株式会社ナビタイムジャパン
株式会社ビジョン・コンサルティング
株式会社構造計画研究所
東京海上日動火災保険株式会社
国土地理院
金日本空輸株式会社
地方公共団体情報システム機構
日本工営株式会社

言語文化学科（日本語・日本文学）
KPMGコンサルティング株式会社
NECソリューションイノベータ株式会社
エキサイトホールディングス株式会社
エムトラスト株式会社
カシオ計算機株式会社
株式会社Z会
株式会社クスリのアオキ
株式会社一迅社
サントリーパブリシティサービス株式会社
ソニーグローバルソリューションズ株式会社
デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社
野田市
フューチャーアーティザン株式会社
一般財団法人リモート・センシング技術センター

株式会社公文教育研究会
株式会社アーテック
株式会社アルファシステムズ
コムスマ株式会社
株式会社ナガセ
株式会社小田急電鉄
株式会社中川製作所
鎌倉市
国立国会図書館
文京区
北日本放送株式会社
郵船ロジスティクス株式会社

言語文化学科（中国語圏言語文化）※
ITX株式会社
エヌシーアイ総合システム株式会社
株式会社NSD
株式会社アヴアンサート
株式会社セレブリックス
栃木県教育委員会
日本郵便株式会社
文京区

言語文化学科（英語圏言語文化）
ANAあきんど株式会社
株式会社NSD
株式会社高知新聞企業
株式会社しまむら
株式会社トゥモロランド
株式会社日本総合研究所
株式会社星野リゾート
北広島市
国立国会図書館
埼玉県教育委員会
滋澤倉庫株式会社
日本航空株式会社
富士フィルムシステムサービス株式会社

言語文化学科（仏語圏言語文化）
エヌシーアイ総合システム株式会社
株式会社伊藤楽器
株式会社コミチ
東京国税局
日鉄物産株式会社

人間社会科学科（教育科学）
JICA海外協力隊
PwC Japan 有限責任監査法人
みやま市教育委員会
学校法人慶應義塾
株式会社LITALICO
株式会社オープンハウス
株式会社丸井グループ
積水マテリアルソリューションズ株式会社
株式会社日本アクセス
岩手県労働基準監督署
二菱地所株式会社
東横化学株式会社
東京ガス株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
NTT東日本株式会社

アビームコンサルティング株式会社
株式会社インテージ
株式会社きょうせい
株式会社ロッテ
株式会社三井住友銀行
株式会社三菱UFJ銀行
株式会社商船三井
東日本高速道路株式会社
富士通株式会社
東京都
栃木県
日本マスタートラスト信託銀行株式会社

人間社会科学科（子ども学）
NECソリューションイノベータ株式会社
株式会社LITALICO
株式会社アトレ
社会福祉法人 恩賜財団母子愛育会 愛育幼稚園
東京都教育委員会

芸術・表現行動学科（舞踊教育学）※
SideKicks株式会社
アデーメント株式会社
サントリーホールディングス株式会社
株式会社ビーワークス
株式会社NHKエンタープライズ
アルファテック・ソリューションズ株式会社
株式会社セキユア
一般財団法人テレビ朝日クリエイト
株式会社講談社
有限責任監査法人トーマツ

芸術・表現行動学科（音楽表現）※
SBCメディカルグループ株式会社
一般社団法人 日本音楽著作権協会（JASRAC）
株式会社こだわり
株式会社河合塾マナビス
株式会社三井住友銀行
国立大学法人東京大学
創英国際特許法律事務所
日本放送協会

グローバル文化学環
AGC株式会社
JX金属株式会社
NTTドコモソリューションズ株式会社
SocioFuture株式会社
TM1 総合法律事務所
株式会社船井総合研究所
株式会社JALスカイ
株式会社クスリのアオキ
株式会社ゼンリンデータコム
株式会社丸井グループ
積水マテリアルソリューションズ株式会社
株式会社日本アクセス
岩手県労働基準監督署
二菱地所株式会社
東横化学株式会社
東京ガス株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
日本航空株式会社

理学部

数学科
キヤノン電子テクノロジー株式会社
ドコモ・サポート株式会社
株式会社システムサポート
株式会社ベイカレント・テクノロジー
広島ガス株式会社
江戸川女子中学校・高等学校
江府大学第一高等学校
東急不動産株式会社
日本銀行

物理学科
株式会社NTTドコモ
株式会社Speee
株式会社TBSテレビ
株式会社野村総合研究所

サントリーホールディングス株式会社
住友生命保険相互会社
トヨタ自動車株式会社

化学科※
PwCコンサルティング合同会社
株式会社きらばし銀行
株式会社ライトワークス
株式会社MTG
株式会社インターサーブ
埼玉県

生物学科※
アクセンチュア株式会社
株式会社K & G
株式会社ジャパンチケットホールディングス

株式会社ベネッセコーポレーション
株式会社日立製作所
群馬テレビ株式会社
埼玉県
栃木県国民健康保険団体連合会

情報科学科※
びあ株式会社
マッキンゼー・アンド・カンパニー・ジャパン
株式会社NTTデータグループ
株式会社ナビタイムジャパン
株式会社フロシッパ
日本精工株式会社
株式会社野村総合研究所

生活科学部

食物栄養学科
エスビー食品株式会社
株式会社LEOC
株式会社シノロ
株式会社タカキベーカーリー
株式会社バンダイナムコフィルムワークス
三栄源エフ・エフ・アイ株式会社
全国農業協同組合連合会
大塚食品株式会社
日清製粉株式会社

人間・環境科学科
SCSK株式会社
株式会社LIXIL
東京建物株式会社
住友商事株式会社
住友林業株式会社
都築電気株式会社
東急建設株式会社
東京都住宅供給公社（JKK東京）

人間生活学科（生活社会科学）
日本電気通信システム株式会社
アイディホーム株式会社
エヌシーアイ総合システム株式会社
オイシックス・ラ・大地株式会社
茨城県
株式会社BFT

株式会社irodas
株式会社ISSリアライズ
株式会社NTT ExCパートナー
株式会社NTTデータ
株式会社Works Human Intelligence
株式会社アークウィズコンサルティング
株式会社ジェーシービー
株式会社ベネッセスタイルケア
株式会社九州博報堂
株式会社総合資格
株式会社読売新聞
株式会社日本総合研究所
小原化工株式会社
川越市
草加市
東京都
東日本旅客鉄道株式会社
独立行政法人住宅金融支援機構
日鉄ソリューションズ株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本ヒューレット・パッカード合同会社
日本電気株式会社
防衛省

人間生活学科（生活文化学）
イトキン株式会社
さいたま市
株式会社アドバンテッジリスクマネジメント

株式会社ヴァリユーズ
株式会社カネカ
株式会社トゥモロランド
三菱商事パッケージング株式会社
DAIKEN株式会社
日本銀行

心理学科
EY新日本有限責任監査法人
GMOペイメントゲートウェイ株式会社
KDDI株式会社
キッセイコムテック株式会社
パーソルビジネスプロセスデザイン株式会社
一般財団法人BOATRACE 振興会
楽待株式会社
JFEシステムズ株式会社
株式会社LITALICO
株式会社TBSスパークル
株式会社クオカード
株式会社三越伊勢丹
株式会社電通デジタル
株式会社日本ビジネスマネージ
中央法規出版株式会社
東京家庭裁判所
東京都
日本年金機構

大学院修了者の就職先情報

比較社会化学専攻
FARE株式会社
NECソリューションイノベータ株式会社
株式会社ふくおかフィナンシャルグループ
クラブツーリズム株式会社
国立大学法人東京大学
一般財団法人ヤマハ音楽振興会
加藤学園晴秀高等学校
株式会社SUGo
株式会社アイヴァンリテリング
株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社岩手日報社
株式会社電通
株式会社東京會館
株式会社野村総合研究所
合同会社デロイト トーマツ
清真学園高等学校・中学校
東京都教育委員会
株式会社読売新聞東京本社
日本タタ・コンサルタンシー・サービス株式会社

人間発達科学専攻
こども家庭庁
フナコ株式会社
愛知県
一般財団法人あしなが育英会
横浜市
株式会社Gakken
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
株式会社ネクストビート
岐阜県教育委員会
世田谷区
千葉県教育委員会
鳥取県教育委員会
鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園
東京メトロポリタンテレビジョン株式会社
東京都
法務省矯正局
法務省中国矯正管区

ジェンダー社会科学専攻
NTT株式会社
野村アセットマネジメント株式会社
マンパワークグループ株式会社
みずほ証券株式会社
ミネベアミツミ株式会社
ルートインジャパン株式会社
株式会社cinra
株式会社オープンハウス
株式会社三菱総合研究所
三井物産株式会社
総務省
第一三共株式会社
富山県教育委員会
法務省

ライフサイエンス専攻
NECソリューションイノベータ株式会社

アスザック株式会社
アルー株式会社
アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業
イーエス株式会社
エイツーヘルスケア株式会社
楽天グループ株式会社
株式会社野村総合研究所
キュービー株式会社
吉林大学
シミック株式会社
ソフトバンク株式会社
東京慈恵会医科大学
獨協医科大学
ヤマサ醤油株式会社
横浜市立大学
一般財団法人電力中央研究所
KDDI株式会社
株式会社NTTデータグループ
株式会社NTTドコモ
カゴメ株式会社
株式会社シジュージャパン
株式会社ノースサンド
株式会社ビックカメラ
株式会社ブリヂストン
株式会社伊藤園
株式会社資生堂
株式会社新日本科学
株式会社大和総研
株式会社朝日新聞社
株式会社日清製粉グループ本社
株式会社日立ハイテック
株式会社理研イノベーション
玉川大学農学部生産農学科
三菱重工業株式会社

ソニー株式会社
ミヨシ油脂株式会社
ラクスル株式会社
学校法人河合塾
学校法人平田学園 国府台女子学院
楽天グループ株式会社
株式会社ADEKA
株式会社AppBrew
株式会社HACARUS
株式会社NTTデータ
SCSK株式会社
株式会社インターネットイニシアティブ
株式会社ヤプリ
株式会社ログラス
株式会社三井住友銀行
出光興産株式会社
株式会社電通総研
株式会社日立製作所
株式会社文藝春秋
株式会社本田技術研究所
株式会社野村総合研究所
古河電気工業株式会社
埼玉県教育委員会
三菱ガス化学株式会社
三菱ケミカル株式会社
住友生命保険相互会社
西日本旅客鉄道株式会社
静岡県教育委員会
帝國インキ製造株式会社
日鉄ソリューションズ株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本マイクロソフト株式会社
日本銀行
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
日本電気株式会社
日立テラヘルズソリューションズ株式会社
日百合学園中学高等学校
富士フィルムメディア会社
富士通株式会社
本田技研工業株式会社

生活工学共同専攻
NTTドコモソリューションズ株式会社
株式会社サザンウィッシュ
株式会社ノジマ
株式会社丹青社
経済産業省特許庁
国立研究開発法人 産業技術総合研究所
山九重機工業株式会社
積水ハウス株式会社
東急不動産株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
日鉄ソリューションズ株式会社
日本航空株式会社
理工学専攻
AGC株式会社
NTTドコモソリューションズ株式会社
SOLIZE PARTNERS株式会社
アクセンチュア株式会社
アセンテック株式会社
アマゾンウェブサービスジャパン合同会社
株式会社NTTドコモ
株式会社アイヴィス
株式会社日本総合研究所
キャンオン株式会社
ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社

文教育学部			
人文学科	哲学・倫理学・美術史プログラム	哲学・倫理学・美術史は、「真・善・美」を柱とする学問です。感性と批判的思考力を磨きながら、基礎となる理論を体系的に学び、学んだ知を社会や文化の理解へと応用する力を身につけます。	p. 30
	比較歴史学プログラム	歴史学は人類の多様な文化を掘り起こしていく学問です。日本史・アジア史・西洋史を比較の視点から学び、史料にもとづいて問いを立て、論理的に考察する力を養います。	p. 32
	地理環境学プログラム	空間・場所・地域に注目し、自然・社会・人間を総合的に捉えるのが地理学です。フィールドワークを重視し、地図や統計資料を読み解きながら、地域の課題を分析し解決策を考える力を養います。	p. 34
言語文化学科	日本語・日本文学プログラム	身近な日本語を見つめ直し、日本文学の世界を探究します。古典から現代文学、日常で使われることばから、文法・語彙・音韻といった理論まで体系的に幅広く学びます。	p. 36
	中国語圏言語文化プログラム	現代語学、現代文化、古典文学、古典思想の4つの領域から、中国社会と文化を幅広く学びます。将来につながる実践的な語学力を養います。	p. 38
	英語圏言語文化プログラム	教養水準を超えた英語運用能力や、学術的な英語によるプレゼンテーション力を身につけます。英語という言語の本質と、英語圏の社会・文学・文化を総合的に学びます。	p. 40
	仏語圏言語文化プログラム	フランス、カナダ、アフリカ諸国などのフランス語圏に加え、ドイツ語圏を含むヨーロッパの多様な社会と文化を理解します。日本とフランスの文化的な影響関係などを通して、異文化交流への理解を深めます。	p. 42
人間社会科学科	教育科学プログラム	人はどのように学び成長していくのか、理論と実践の両面から探究します。多様な研究方法を用いて、人間発達に関する基礎科学と、現場の課題解決を目指す実践科学を学びます。	p. 44
	社会学プログラム	理論と実証をもとに、人間の行動や意識、社会の構造や変化を探究します。文献研究から現地調査まで多様な方法を用い、社会が抱える様々な課題について考えていきます。	p. 46
	子ども学プログラム	「子ども」という視点から、人間や社会、文化がどのようにつくられていくのかを学びます。学内外の教育・保育現場と連携し、子どもの姿に触れながら実践的に学ぶことを大切にしています。	p. 48
芸術・表現行動学科	舞踊教育学専修プログラム	舞踊を中心に、スポーツや日常の動きまで、人間の身体活動や表現を多角的に学びます。舞踊を通して、芸術・教育・学術につながる力を育てる新しい学びの分野です。	p. 50
	音楽表現専修プログラム	演奏学と音楽学の二つの視点から音楽を専門的に学びます。実践と理論を合わせた独自のカリキュラムで、総合大学ならではの幅広い視点から音楽を捉えます。	p. 52
人文学科・言語文化学科・人間社会科学科	グローバル文化学プログラム	文教育学部の3学科から志望できるプログラムです。文化の違いを理解・尊重し、それを越えて協働できる力を育み、グローバル時代を担う人材を育成します。	p. 54

理学部			
数学科	数学プログラム	大学の数学では、答えを出すだけでなく、その背景にある理論や考え方も学びます。数学的な思考力を身につけながら、代数・幾何・解析といった現代数学の基礎を学びます。	p. 58
物理学科	物理学プログラム	1年次から専門的な物理学を学びます。基礎から応用まで幅広い分野に触れながら、理論と実験の両面から物理現象を学び、直感的かつ論理的に理解する力を養います。	p. 60
化学科	化学プログラム	化学は、物質をつくる原子や分子のはたらきから、自然や先端科学を理解する学問です。実験を重視したカリキュラムを通して、確かな基礎力と専門性を身につけます。	p. 62
生物学科	生物学プログラム	多種多様な生命現象を科学的に解析する力、幅広い知識に基づいた柔軟で論理的な思考力の構築を目指します。幅広い分野の講義と豊富な実習で、現代生物学の基礎から最先端までを学びます。	p. 64
情報科学科	情報科学プログラム	情報は、私たちの意思決定を支える重要な基盤です。情報技術の理論的な背景から、社会で求められる実践的な知識までを体系的に学び、幅広い視野と高い応用力を身につけます。	p. 66

生活科学部			
食物栄養学科	食物栄養学専修プログラム	食と栄養、そして人の健康や医療、社会との関わりまで幅広く学びます。実験や実習を通して実践力を身につけ、食で人の健康を支える食の専門家を育成します。管理栄養士受験資格が得られます。	p. 70
人間生活学科	生活社会科学プログラム	私たちの暮らしの中にある社会問題を、生活者の視点から考えます。法学・政治学・経済学・社会学といった社会科学の手法を用いて、問題の背景を分析し、解決策を探究します。	p. 72
	生活文化学プログラム	服飾史、比較生活文化論、生活造形論、民俗学、保育学などを横断し、多角的な視点で古今東西の文化と歴史を読み解きます。学芸員資格を取得する学生が多いことも特徴です。	p. 74
心理学科	心理学プログラム	生活の様々な場面における人のこころと行動を、心理学として科学的に探究します。基礎的なプロセスと機能への理解を深め、課題の発見と問題解決に生かす力を養います。	p. 76

共創工学部			
人間環境工学科	人間環境工学プログラム	暮らしに直結する課題に工学で挑む学科です。健康と安全、住まい・建築のデザイン、都市の衛生と持続可能な環境、生活を支える材料を対象に、モノや仕組みを設計します。	p. 80
文化情報工学科	文化情報工学プログラム	文化情報工学は、人文知と工学を結び付け、文化の課題解決に挑む、新たな工学です。文学・言葉・芸術・歴史・地理・人間行動などのデータを、情報技術で収集・生成・分析し、課題解決に活かします。	p. 82



Faculty of Letters and Education

文教教育学部

■人文科学科 ■言語文化学科 ■人間社会科学科 ■芸術・表現行動学科

文化は、生き方です、
社会です、情報です
世界をミクロに、マクロに、
学問してみませんか

文教教育学部には、人間をとりまくマクロな社会や環境から、ミクロな個々人の思想や言語、文学・美術や音楽・舞踊といった芸術まで、多彩な研究分野があり、そこでは「生きている」人間とその文化や社会への関心が核となっています。人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科の4つの学科で13の専門教育のためのプログラムを提供しており、学生の関心に沿って広く学修ができるように、自由度の高いカリキュラムを組んでいます。一つの専門を深めることも、複数の専門分野を広く学ぶこともできます。専門という自分の鏡を磨き、さらに他の鏡と合わせることで、虚と実が交錯する複雑な人間社会の全体像を映し出すことができます。人間と自然とが複雑にからみあう現代では、一つの現象を多方面から分析し、多くの人々と理解しあい行動することがますます重要になっています。文教教育学部では、人生の様々な場面で生きる、多面的な「物事の捉え方」(文化)を学ぶことができます。

学部 Web サイト
<https://www.li.ocha.ac.jp/index.html>



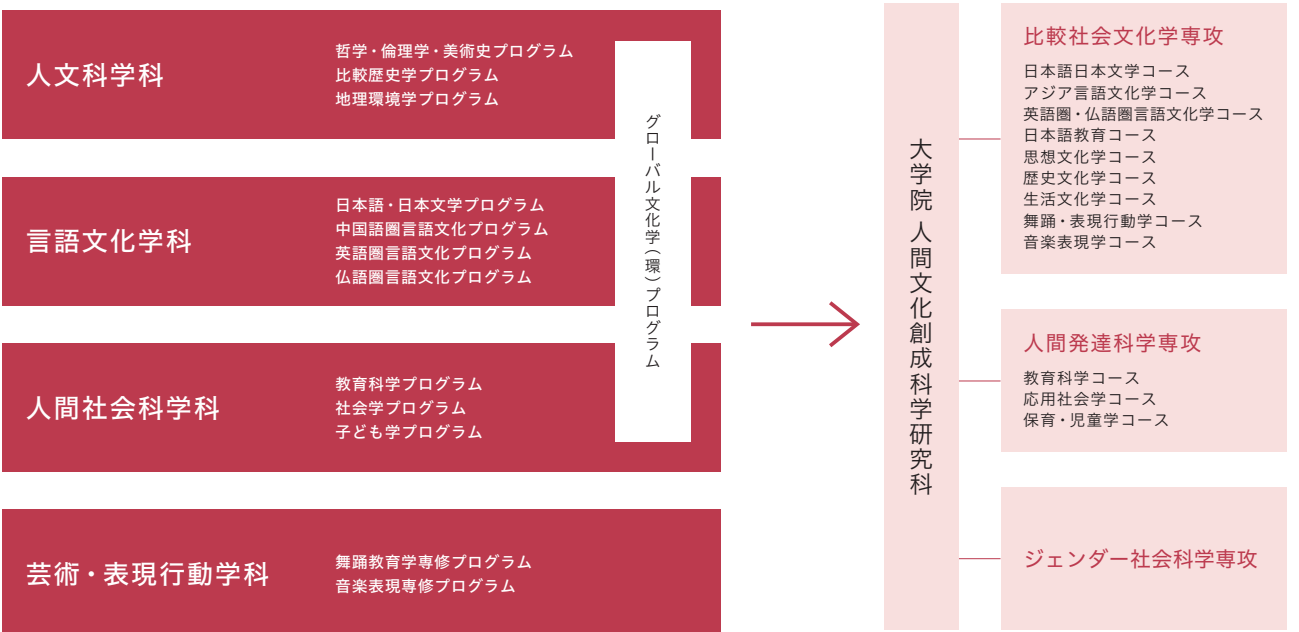
【アドミッション・ポリシー】

文教教育学部は、人間と文化と社会に迫る、人文・社会系の総合的な学部です。人間は、過去から現在に至るまで地球上の様々な地域で、言語をはじめとする文化や科学技術を創造し、政治、経済、教育などの諸社会組織を発展させてきました。人間と文化と社会を理解するためには、時間軸と空間軸の上に現代社会を位置づけ、マクロからミクロに至る多角的なアプローチが必要です。

高校での学習は、その後の人生を「よく生きる」ためのものです。本学部志望者には、高校において文科系の科目はもちろん理数系の科目まで幅広く、同時にどん欲に深く学習することを望みます。

様々な領域や場で、リーダーが求められています。人間の思考や行動、表現に強い関心を持ち、意欲と能力と個性に富んだ皆さんが志望することを期待します。

文教教育学部から進学実績が多い大学院専攻課程



※文教教育学部を卒業する際に学士（人文科学）が授与されます。
※人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科の学生は、2年次よりグローバル文化学プログラムを主プログラムに選択することもできます。
（人間社会科学科の場合、入試出願時に「人間社会科学科」を選択した学生のみが対象です。詳しくは本学Webサイトに掲載している「人間社会科学科出願時の注意事項」を確認してください。）

文教教育学部の特徴

人間の歴史と知恵、世界の文化と社会

文教教育学部は、人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科という4つの学科からなります。各学科は複数のプログラムを提供しており、また学科の枠を越えた学際的なグローバル文化学プログラムもあります。人間が長い歴史のなかでつくりあげてきた文化や社会のあり方を研究するとともに、グローバル化する世界のなかで、生きる力を身につけるための教育を提供します。企業、官庁、学校、そして大学・研究機関など、社会の様々な場で、卒業生たちが活躍しています。

多様な研究ときめ細かな少人数教育

本学部の最大の特徴は多様性です。教育や研究の対象は、古代から現代へ、日本から世界へと広がり、誕生から死まで人間の一生を追いかけます。三千年前の中国古典文学から現代世界の社会問題まで、多様な研究分野と研究方法の教員がいます。他学科の副プログラムを選んだり個々の授業に参加したりしやすいのも特色の一つです。
もう一つの特徴がきめ細かな少人数教育です。一人の教員あたりの学生数が少なく、時には一つの授業に学生が数人という贅沢な環境が提供されます。その分、ただ受動的に講義に出ればよいという姿勢では学生はやっていけません。講義でも演習でも、十分な準備をして主体的に参加することが求められます。教室の授業だけでなく、実習や学外での研修が組み込まれているプログラムもあります。

主プログラムを自分で選ぶ

入学試験は学科を単位として行い、学科に入学します。人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科の学生は、2年次に進む時に主プログラムを選ぶ制度になっています。主プログラムは、自学科のいずれか、またはグローバル文化学を選びます。芸術・表現行動学科の学生の場合は、その学びの専門性を活かすために1年次より4年一貫の専修プログラムを履修します。

1年生向けに専門の基礎科目や入門科目が置かれており、主プログラムの選択の参考にすることができます。そして、1年生の時には、それらの科目や文理融合リベラルアーツ・基礎講義などで広い視野から多角的に問題を見ることを学びます。
主プログラムを選択できる上限人数はゆるやかに設定されていますので、ほとんどの場合は希望するプログラムを履修することができます。上限を大幅に超えた場合や各プログラムで定められた条件を満たしていない場合は、一定の方法で選考を行います。

プログラムの組み合わせを自分で選ぶ

自分で選んだ主プログラムが、専門の学修の主軸となります。この主プログラムにどのプログラムを結合させるか、第2のプログラムを選びます。主プログラムでの学修を徹底するなら関連する強化プログラム、学際研究を目指すなら、異なる学問分野の副プログラムが学際プログラムを選びます。さらに第3のプログラムとして、文教教育学部あるいは他学部のプログラムを履修することもできます。なお、芸術・表現行動学科の学生も第3のプログラムを選択して履修することができます。

グローバル文化学プログラムと日本語教育副プログラム

グローバル文化学主プログラムを履修する場合は自分が在籍する学科のいずれかの副・学際プログラムを組み合わせず学修します。人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科の学生は、第2のプログラムとして、グローバル文化学学際プログラムを選ぶことができます。また、言語文化学科では日本語教育副プログラムが提供され、日本語を母語としない人の日本語教育やコミュニケーションのあり方を学ぶことができます。このような多彩なプログラムにより、学生一人ひとりの関心と目的にあった学びを構築し、将来のキャリアに活かすことができます。



◀ 詳細はこちら
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/hum/philart/index.html>

人間の叡智が息づく知的遺産の森 深遠な世界の奥底に潜む 新しい価値に出会う

哲学、倫理学、美術史は、真・善・美という価値を主軸にしなが、すべての学問や知のあり方を問い直すことで、私たちが生きる現在の様々な問題を根本的に考えます。哲学は考え方の多様性を知り、考える可能性を拡大することを学びます。倫理学は、人間はどうあるべきかという普遍的な問いと、自分はどうあるべきかという特殊的・個別的な問いにより、人間のあり方について考えていきます。美術史は、人間が創造した美術作品など視覚表象の機能や意味を巡る考察力や実証的な探求力を養い、人間の考え方や時代を捉えています。社会で生きるために必要な「感じる力」「考える力」「行う力」を養い、人生をより豊かに生きる応用力を育みます。

目的 感じ、考え、行う

それぞれの学問を深く学ぶことで、体系的知識と実践的応用力を身につけることを目指します。ものごとを感じ、考え、適切に判断し、柔軟にコミュニケーションする力や、日常を取り巻く視覚情報を的確に受け取る力を養います。哲学では、他の文化や時代の人がどのようなことを問題に議論や解答を重ねてきているか体得することで、物事を多角的で自由に考える力を養います。倫理学では、人間のあり方についての古今東西の先哲の説をよりどころに、人間はどうあるべきかを探り、社会や人生の現実的な諸問題について考え、主体的に実践する力を養います。美術史では作品と歴史的・社会的な文脈を踏まえて向き合うため、実証的検討や理論的分析を行う力を養います。民間企業への就職者や公務員・教員のほか、美術館・博物館の学芸員や専門研究者も多数輩出しています。

特徴 普遍的、批判的視点の養成

本プログラムを選択すると同時に研究分野を選びます。哲学では、西洋の伝統的な哲学的議論を現代の文脈のなかで受け止め、実地に解釈して展開させ、現代に通じる論理性や明快さを基本に議論や解答の多様性を学びます。倫理学では、西洋と日本の倫理思想を手がかりに、人間はどうあるべきかという普遍的な問題と自分はどうあるべきかという特殊的・個別的な問題をともに見据えながら、「よく生きる」ことの内実を探っていきます。美術史では絵画、彫刻、写真、装飾から広告まで、多様なイメージと向き合い、対話を重ねることで意味を的確に引き出し、自らの視点で捉える力を磨きます。それぞれの分野を専門的に探究することも、文教育学部の他の副・学際プログラムと組み合わせて固有のアプローチで他領域を探究することも可能です。

THE VOICE OF A STUDENT

哲学・倫理学の楽しさ

検索で簡単に“答え”が見つかるいま、哲学が与えてくれるのは検索結果のどこにもない、「わたし」を出発点とした知識であると思います。わたしたちが知ろうとする世界は、わたしたちが生きる世界そのものです。ぜひ本コースで、自己を念頭に学ぶ楽しさを味わってください。

S・Yさん 4年
第1のプログラム：哲学・倫理学・美術史主プログラム
第2のプログラム：哲学・倫理学・美術史強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

「人生の日曜日」に学ぶということ

ある哲学者いわく、哲学と交わることは人生の日曜日である。世間が日々せわしく回る中、哲学や倫理学は、そこから一步身を引き休息をとることを勧めます。人生や世界を根本から語り直す言葉は、そこからのみ紡ぎ出されるからです。大学で、そのような一時を共にしてみませんか。

池松 辰男 准教授
研究分野：西洋哲学史



カリキュラム（主＋強化プログラム）

分野	哲学	倫理学	美術史
基礎	哲学基礎論（1年）→ 1 哲学概論Ⅰ・Ⅱ（1～3年）→ 2	倫理学基礎論（1年）→ 4 倫理学概論Ⅰ・Ⅱ（1～3年）→ 5	美術史基礎論（1年）→ 7
発展	理論分析論Ⅰ・Ⅱ（2～4年）	西洋倫理思想史資料講読（2～4年） 日本倫理思想史資料講読（2～4年）	西洋美術史AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ・BⅢ（2～4年） 東洋美術史AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ・BⅢ（2～4年）
	哲学研究指導A・B・C（2～4年） 哲学演習AⅠ～AⅥ・BⅠ～BⅥ（2～4年）→ 3 哲学A～H（2～4年） 他	倫理学研究指導（4年） 倫理学演習A・B（2～4年）→ 6 倫理思想史演習A・B（2～4年） 倫理学特殊講義A～F（2～4年） 倫理思想史特殊講義A～F（2～4年） 他	美術史学研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（2～4年） 形象分析学演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB（2～4年）→ 8 形象分析学特殊講義ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB（2～4年） 美術史学演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB（2～4年） 美術史学特殊講義ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB（2～4年）→ 9 他
	卒業論文（4年）	卒業論文（4年）	卒業論文（4年）

科目紹介

1 哲学基礎論：自己、他者、心、身体、言葉、社会、存在、人生の意味等、哲学上の重要問題について、主要な学説を概観しつつ、哲学的思考の基礎を習得することを目指す。

2 哲学概論：哲学研究の現代的・世界的潮流、ターゲットとなる主要問題およびその歴史的背景、哲学が伝統的に育んできたスキルである論証などについて解説と演習を行う。

3 哲学演習：古典や現代の文献の解釈を元に、哲学的問題をめぐる問いや思考のプロセスを理解しつつ、吟味、討論する。それを通じて、哲学研究の基礎を習得することを目指す。

4 倫理学基礎論：倫理とは何かといった基礎的な事柄と、倫理思想の古典テキストを読む基本的な方法について講義する。

5 倫理学概論：幸福、苦しみ、死、悪、性格、愛、社会という生きることと密接に関わるテーマについて倫理的に考察する。

6 倫理学演習：倫理学の基本文献の講読を通して、人間のあり方について考え、自分自身のあり方についても振り返る。

7 美術史基礎論：美術史とは何かについて、西洋・日本の美術史とその研究方法を概観し、美術を学術的に検討する上での関心を広げることを目指す。

8 形象分析学演習：日本・東洋美術に関する知識を深め、美術史を研究するための実際的なスキルを磨くことを目指す。文献講読を通じて美術史研究の理論と方法を知り、その実践へとつなげる。

9 美術史学特殊講義：西洋を中心に近・現代の視覚表象を巡る諸問題を取り上げ、ジェンダーやポストコロナリズムなどの多様な視点から具体的な事例を通じて考察する。

教員の研究分野

教授	宮下 聡子	倫理学（主に西洋）
准教授	土谷 真紀	日本美術史
准教授	池松 辰男	西洋哲学史
講師	内山 尚子	西洋近現代美術史
助教（兼任）	佐藤 有理	現代英米哲学と認知科学・AIの学際研究
助教	長野 邦彦	日本倫理思想史

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（社会）
高等学校教諭一種免許状（地理歴史、公民）
学芸員
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状・資格取得の表をご確認ください。

TOPICS | 哲学・倫理学・美術史の学びを通じて人間について深く考える



哲学、倫理学、美術史は、それぞれ独自の学問分野ですが、認識・思想・規範・イメージといった人間の精神の働きや産物を研究の対象としているという点では共通しています。このプログラムの特徴は、3つの分野が独立しつつも緩やかにつながって1つのプログラムをなしているところにあります。

それぞれの分野での主題や研究対象ととことん向き合うことで、人間とは何か、人間はどこから来てどこへ行くのか、という大きな問いへの答えにつながる何かをつかむことができるでしょう。

時空を超え、タイムマシンが始動する
過去を見つめて未来へつなぐ、
心躍る知の世界

比較歴史学の対象は、この広い地球上に展開された人間の営みすべてです。人は自己のルーツの解明をしたいという強い本能に導かれながら歴史を探索してきました。そして、歴史のなかに時代が直面する困難への対処法を見出しながら歩んできました。グローバル化時代を迎えた今、人類の多様な文化を掘り起こし、世界のなかの日本人の軌跡を見据えることは、より強く求められるようになっていきます。比較歴史学では、日本史、アジア史、西洋史の3つの領域を柱にしています。地域や時代による様々な比較を行い、歴史をタテ・ヨコ・ナナメに歩きながら新しい世界史像を追求します。

目的 領域のクロスオーバー

比較の視点から歴史を見ることを目指します。それには二つの方法があります。一つは、民族や文化の相互交流を明らかにすること。日本と中国・朝鮮、ヨーロッパとイスラム世界など、様々な交流によって「世界」が形づくられました。もう一つはテーマによる比較。祭り、家族など世界には時代を超えて共通する事象があります。これらの比較から、人類共通の問題と個々の地域や時代の特性が浮かび上がります。比較の視点を身につけるためには、様々な地域の人々と交流することも大事で、留学生と交友関係を持つことはもちろん、自分から海外に出ることもよい経験になります。

広く民間の企業、たとえば金融・マスコミ・IT関係、公務員、教職への就職、大学院への進学が主な進路です。

特徴 文字と言葉とモノに挑む

歴史学で用いられる主な史料は文字ですが、決してそれだけではなく、遺跡、建築物、絵画・写真、生活用具など、様々なものが使われます。多種多様な史料を集めて整理・分析し、明らかになった事実を組み立てて、筋道が立つかどうか、何度も考えます。

また使われる言語も多種多様です。漢文、くずし字、中国語、アラビア語、英語、ドイツ語、フランス語、ラテン語……。自分で史料が読めてこそ楽しいのです。

20～30人の学生に8つの演習（ゼミ）。徹底した寺子屋方式です。1年経つと、難解な史料が怖くなくなるから不思議です。読み解いた史料をもとに当時の社会の姿を再現し、教室にいながらにして世界各地の歴史ヘトリップします。



◀ 詳細はこちら
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/hum/history/index.html>

THE VOICE OF A STUDENT

居城を持たない「歴史」という
学問の魅力

「歴史」と聞くと遠い昔のことを研究すると思われがちですが、数千年前からついこの間まで私達が生きていた「平成」までもが研究対象となります。その地域もテーマも自由。本コースでは望めば全てが研究対象です。教科書には載っていない歴史の世界へ一緒に飛び込んでみませんか？

Y・Kさん 4年
第1のプログラム：比較歴史学主プログラム
第2のプログラム：比較歴史学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

歴史と今をつなぐ

過去について振り返る営みは現在の政治や社会の状況を映し出します。私が研究対象とする20世紀は戦争が多くの人々の心身を破壊した時代であり、その記憶をめぐる歴史的文脈は複雑です。過去の出来事がどのように記憶され、残されてきたのかについて、一緒に考えてみましょう。

松本 祐生子 助教
研究分野：西洋史、ロシア近現代史

カリキュラム（主＋強化プログラム）

分野		日本史		比較・領域横断型		外国史	
主プログラム	初級 （1年次）	日本史概説 日本文化史概論➡1 日本史入門講読		比較文化史 比較社会史		アジア史概説 西洋史概説 外国史入門講読Ⅰ・Ⅱ➡3	
	中級 （2・3年次）	日本史研究法 日本史講読 日本史論文講読	古文書学 歴史史料学	歩いて学ぶ比較歴史Ⅰ・Ⅱ グローバル・ヒストリー		アジア史研究法➡4 西洋史研究法 外国史論文講読	アジア史講読 西洋史講読➡5
	上級 （3・4年次）	日本古代史演習Ⅰ・Ⅱ 日本中世史演習Ⅰ・Ⅱ 日本近世史演習Ⅰ・Ⅱ 日本近代史演習Ⅰ・Ⅱ	日本古代史料演習Ⅰ・Ⅱ 日本中世史料演習Ⅰ・Ⅱ 日本近世史料演習Ⅰ・Ⅱ 日本近代史料演習Ⅰ・Ⅱ	卒業論文		東アジア史演習Ⅰ・Ⅱ➡6 東アジア史料演習Ⅰ・Ⅱ 西アジア史演習Ⅰ・Ⅱ	西洋政治史演習Ⅰ・Ⅱ 西洋社会史演習Ⅰ・Ⅱ 西洋社会経済史演習Ⅰ・Ⅱ
強化プログラム	講義 （3・4年次）	日本古代中世政治史➡2 日本古代中世文化史 日本古代中世社会経済史 日本古代中世史特殊講義	日本近世近代政治史 日本近世近代文化史 日本近世近代社会経済史 日本近世近代史特殊講義	都市社会史 比較ジェンダー史 歴史情報論 歴史学文献講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	考古学通論Ⅰ・Ⅱ 歴史史料調査Ⅰ・Ⅱ 歴史現地調査Ⅰ・Ⅱ	東アジア政治史 西アジア政治史 東アジアの歴史と文化 西アジアの歴史と文化 比較アジア社会史論Ⅰ・Ⅱ 比較アジア文化史論Ⅰ・Ⅱ	西洋政治史 西洋文化史 西洋社会史 西洋近現代史 フランス史 西洋史学の探求

科目紹介

1 日本文化史概説：16世紀までの日本の歴史（古代史・中世史）を、「都市」をゆるやかなテーマとしながら概観する。都市の歴史を通じて日本通史における時代の特徴を掴むことが目的。

2 日本古代中世政治史：10～12世紀の平安時代史について論じる。摂関政治を中心に、天皇制、政治システム、宮廷文化、都市性、地方政治、国際関係などについて多面的に考察する。

3 外国史入門講読：外国史の基礎的な文献（日本語）を出席者全員で輪読しながら、現在外国史の学問世界でどのようなテーマの研究が行われているのかについて具体的に学ぶゼミ形式の入門型授業。

4 アジア史研究法：中東・イスラム世界の仕組みについて、地理・環境・宗教・家族・教育・政治・経済・法・社会秩序などのテーマを取り上げ、史料を基に考察し、その研究方法を学ぶ。

5 西洋史講読：西洋近現代史に関する英語文献を講読する。研究文献の読み方やレファランスの使用法に慣れ、基礎的な読解力を身につけることを目的とする。

6 東アジア史演習：中国史の漢文史料を自力で読解する能力を養う。清代の学者、趙翼の史論『廿二史劄記』を題材に輪読、語彙や人名の検索方法を学び、問題を掴みだす能力を養う。

教員の研究分野

教授	安成 英樹	西洋史、フランス近世国制史
教授	神田 由築	日本史、特に近世の文化史や社会史
教授	大藪 海	日本史、特に中世の政治史や寺院社会史
准教授	戸川 貴行	アジア史、中国古代史
准教授	湯川 文彦	日本史、特に近代国家形成史
准教授（兼任）	阿部 尚史	アジア史、イラン近代史
准教授（兼任）	遠藤 みどり	日本史、特に古代の政治史
助教	松本 祐生子	西洋史、ロシア近現代史

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（社会）
高等学校教諭一種免許状（地理歴史）
学芸員
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状・資格取得の表をご確認ください。

TOPICS 書を捨て、街に出よ！「歴史の現場に立つ」多彩な授業群



大学付近の博物館・史跡などをまわるフィールドワーク中心の授業である「歩いて学ぶ比較歴史」、さらに範囲を広げて関東近郊の博物館・史跡をめぐるつつ、新2年生を迎えオリエンテーションを兼ねて行われるコース旅行、世界遺産などを訪ねる「歴史現地調査」、貴重な生の史料に触れる「歴史史料調査」など、実際の歴史の舞台に立ったり、歴史を今に伝える「証人」たちと対話したりするための授業が用意されています。どの「現場」も多くのドラマを秘めて待っています。



◀ 詳細はこちら
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/hum/chiriog/index.html>

知的に地球を生きるために

「場所」から文系と理系の知識を結びつける

今、自分は地球上のどこにいるのか。自分のいる位置がわかれば、次はどのような場所にいるのか知りたくなります。どのような社会と自然がそこにあるのか、どのような原理で形成されているのか等々、疑問は次々と新しい関心と呼び覚ましていきます。地球と人類に関する興味・関心は、知的に世界を生き抜くために不可欠です。それを、世界の誰もが共有できるように、それぞれの知る場所を通じて明らかにしていくのが地理学です。空間、環境、景観、地域などをキーワードに、各人が特定の場所に強い関心を持って、自然・社会・人間を捉え考察する地理学には、文系・理系の枠を超えた広大なフィールドが広がります。人々を外部世界に誘い出し、歩きながら考えさせる学問です。

目的 ローカルな知識と実践力の育成

地理学は、大学の教育・研究において文系と理系の知をローカルな場所で考え、結びつける総合科学であり、さらに社会生活においては現実的な諸問題に解決策を与える応用科学・政策科学としての特徴を持ちます。地理環境学プログラムでは、現実的な諸問題（経済振興、地域計画、都市問題、少子高齢化・福祉問題、防災、環境問題など）の解決のために、ローカル、ナショナル、グローバルの地理的マルチスケールのセンスと知識を育みます。

卒業生の多くは専門を活かした分野へ進みます。公務員では地域計画・交通計画の部署、民間企業ではマスコミ、鉄道、百貨店、建設・不動産、情報システム、地図作製、シンクタンクなどです。地理学の実践的、応用的なスキルが力となります。

特徴 幅広いテーマとスキルの尊重

地理環境学プログラムでは、経済、社会、都市、環境などの地理学の知識を講義や演習を通じて広く学びます。さらに、地理学独自の分析視点や方法を学ぶため、フィールドワーク（東京近郊と日本各地）、地図・GIS、地域統計分析、アンケート調査、自然観測などの授業を履修します。これによって、地理学の基礎的なスキルを学ぶとともに、地球と人類に関して人文科学・社会科学・自然科学のそれぞれの分野が問題とする諸現象の場所性・地域性について考えるための地理的センスを身につけます。卒業論文では、授業を通じて学んだ知識・スキル・センスを活かして、学生の一人ひとりが任意の地域で設定したテーマに基づき研究に取り組みます。地理学の卒業論文では、多様なテーマ設定が可能です。

THE VOICE OF A STUDENT

過去を知り、未来を創る

「現在」は、人間が積み重ねてきた文化や営みの集大成です。本学科では、歴史・空間・思想から「過去」を深掘り、「未来」に繋げていく学びが詰まっています。学問に対する志の高い仲間や素敵な先生方と共に、興味の赴くまま探究できる環境がここにはあります。

K・Mさん 4年

第1のプログラム：地理環境学主プログラム
第2のプログラム：地理環境学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

世界に1つしかない「場所」

世界には本当にいろいろな「場所」がありますが、果たして同じ「場所」は存在するのでしょうか。また、「場所」をつくり出すものは何でしょうか。街をぶらぶらと歩いたり、旅行に行ったりするのが好きな方。地理環境学プログラムで、一緒に「場所」への関心を深めてみませんか。

倉光 ミナ子 教授

研究分野：地誌学、文化地理学、オセアニア地域研究

カリキュラム（主＋強化プログラム）

分野	地理学共通	人文地理学分野	自然地理学分野
基礎 (1～2年)	地理学フィールドワーク ➡1 地誌学 ➡2 地図学 地理学分析基礎演習Ⅰ・Ⅱ ➡3	人間と空間 経済地理学 社会地理学 都市地理学 ➡5 福祉の地理学	自然と人間 ➡6 自然地理学
発展 (2～4年)	地理学フィールドワーク（発展） フィールドワーク方法論 測量学 地理情報学 ➡4 地理情報学演習	人文地理学フィールドワーク 地域分析学演習Ⅰ 社会地理学演習Ⅰ 都市地理学演習Ⅰ	自然地理学フィールドワーク 自然地理学演習Ⅰ ➡7 環境地理学演習Ⅰ
	地理環境学演習Ⅰ～Ⅳ 地理学研究法演習 地理学卒業演習 卒業論文	地域分析学演習Ⅱ 社会地理学Ⅱ 都市地理学演習Ⅱ	環境地理学演習Ⅱ

科目紹介

1 地理学フィールドワーク：理論やスキルを学んだら、教室を出て現実を眺め、考える。自然環境・歴史・経済・文化など多様な側面から地域を考察するフィールドワーク。

2 地誌学：特定の地域を総体的に記述するのが地誌である。古今東西の地誌書や各種文献による地域の描写を検討し、地域の個性とその記述スタイルについて考える。

3 地理学分析基礎演習Ⅰ・Ⅱ：地理学の調査・分析に必要な、文献・資料収集の方法、地域統計に関する知識と扱い方、統計分析の基礎、主題図作成の技法について学ぶ。

4 地理情報学：地理情報システム（Geographic Information System）を用いた地理情報解析について学ぶ。また、代表的なGISについて基本的な使用方法を修得する。

5 都市地理学：グローバル化の進展とともに変貌する都市空間を理解し、都市住民のライフコースと生活を考察するための地理学的な視点を学ぶ。

6 自然と人間：自然環境内で人間が活動することによって起こる環境問題を取り上げ、それを理解するためのアプローチを実践的に学ぶ。さらに、自らの環境観の構築を目指す。

7 自然地理学演習Ⅰ：自然環境を自ら測ることを通して自然の摂理を理解する。さらに、様々なデータ（自ら観測したデータや全球規模の膨大なデータなど）を図化し分析できる能力を身につける。

教員の研究分野

教授	長谷川 直子	自然地理学、地理教育
教授	倉光 ミナ子	地誌学、文化地理学、オセアニア地域研究
准教授	申 知燕	都市地理学、移民研究
教授（兼任）	宮澤 仁	福祉地理学、地理情報学

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（社会）
高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）
学芸員
GIS学術士、地域調査士
社会調査士
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状・資格取得の表をご確認ください。

TOPICS | 実践的なフィールドワークを通じて地域情報を生きた知識へ



一人の人間が見聞できる範囲は限られますが、地図・GISはそれを補います。他方、地図・GISを使って表現された情報は、現場で確かめることによって、はじめて生きた知識になります。場所・地域の状態をそこに住む人々のあり方を通して知ることにより、人間の活動と社会をよりリアルに捉えることが可能になるのです。地理環境学のプログラムでは、現場で情報を収集・理解するフィールドワークを重視しています。フィールドワークの学習過程を経ることで「地域調査士」資格取得への道も開けます。



◀ 詳細はこちら
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/llc/jpn/index.html>

言葉がきらめく文学の森で 日本文化の「本質」と今を見極める

私たちはいつの間にか「日本語」をしゃべっていますが、それはいつ、なぜ、このような言葉になったのでしょうか。自分たちが知っているようで知らない、言葉のしくみや働きを理解したいと思いませんか。遥か昔の、万葉びとたちの歌が、いま生きている私たちにも「わかる」と思えるのは、なぜでしょうか。それぞれの時代の日本人が、自分の思いを託し、洗練し続けてきた言葉。文学作品はその宝庫です。遠い古代から現代に至る、広大な文学の森に分け入ってみましょう。学問は的確なコンパスとなって、あなたを導いてくれるはずです。

目的 作品に迫る！

日本語・日本文学を学ぶために十分な基礎力を身につけ、言葉というものに対する洞察を深めるとともに、文学作品に対する分析手法を学びます。

研究の方法は様々です。和紙に墨で書かれた古写本を読んだり、平安時代の人物の生涯を細部まで復元したりするほか、最新の文学理論を応用して作品に迫ったり、大量の言語データをパソコンで統計処理するようなこともします。しかし、結局のところ、文章をじっくり、深く読むこと、自分で突き詰めて考えることがいちばん大事だとわかってくるでしょう。

卒業後は専門を活かして教職やマスコミ関係に進む人、一般企業に就職する人、公務員になる人のほか、大学院に進む人も少なくありません。

特徴 幅広く学ぶ！

文学関係では、奈良時代以前から現代まで、各時代の文学史を中心に広く学ぶようになっています。語学関係では、文法論や語彙論といった基礎理論から、実際に話されている日常会話の分析まで、幅広く学びます。他の大学では、自分の興味のある所だけを勉強しても卒業できてしまう場合がありますが、本プログラムではオーソドックスな体系的学修が重要であると考えています。幅広く学んでみて、初めて自分の好きなものの位置がはっきりしてくるのです。

授業は文学史や概説・通論のような科目から、作品を深く読む講読科目、自分で調べ、考えて発表する演習科目などからできていて、これらを組み合わせて学修していきます。最後は、自分の力で大きな卒業論文をまとめることになります。

カリキュラム（主＋強化プログラム）

分野	主プログラム		強化プログラム
	日本文学	日本語学	日本文学・日本語学
1 年次	日本文学概説 日本古典文学史論（上代、中古）→ 1 日本文学論講読Ⅰ～Ⅳ→ 8 日本言語文化論Ⅰ・Ⅱ	日本語学通論 日本語語彙論→ 2	書道Ⅰ
2 年次	日本古典文学史論（中世、近世）→ 1 日本古典文学論基礎演習Ⅰ 日本古典文学論特殊研究（上代～近世）→ 6 日本近代文学論特殊研究（近代、現代）	日本語文法総論 日本語音声表現論→ 3 日本語文章表現論 日本語学特殊研究 日本語史特殊研究	書道Ⅱ 日本語学基礎演習 日本古典文学論基礎演習Ⅱ
3 年次	日本近代文学史論（近代、現代） 日本古典文学論演習A～C・Ⅰ・Ⅱ→ 4 日本近代文学論演習A・B・Ⅰ・Ⅱ→ 5 日本古典文学論特殊講義Ⅰ～Ⅲ 日本近代文学論特殊講義Ⅰ・Ⅱ→ 7	日本語学演習（日本語史、近・現代語）Ⅰ・Ⅱ 日本語学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	※注 本カリキュラムの強化プログラムは、主プログラムに設置された科目群をより多く履修することを基本とする。ここでは主プログラムに含まれない科目のみを掲げた。
4 年次	卒業論文	日本文学研究指導・日本語学研究指導	

※科目の年次配置は標準的な履修年次により掲げるものであり、必ずしもこの年次以外に履修できないわけではありません。

科目紹介

1 日本古典文学史論（上代）：『万葉集』『古事記』『日本書紀』『風土記』など、上代（奈良時代まで）の文学作品について、基礎知識や読み所、研究方法の歴史と現在について講義する。

5 日本近代文学論演習A・B：近現代文学の代表的作家とその作品について資料を参考に調査・分析し、レジュメを作成する。口頭発表と討議を経験することで、近現代文学の研究方法を修得する。

2 日本語語彙論：古典語から近代語、そして、新語や流行語を含む現代語に至る日本語を通時的・共時的に見て、その起源や構成、意味などについて、語の〈まとまり〉という観点から捉える方法を講義する。

6 日本古典文学論特殊研究（近世）：西鶴作品などの近世小説を取り上げて読解し、素材・趣向や作者の関歴に焦点を当てて講ずる。また、近世の出版文化のなかで文学作品が形成され、流布した様相も跡付ける。

3 日本語音声表現論：古代語から現代語までの日本語の発音について学ぶ。口の動きを観察して発声の仕組みを考えるだけでなく、方言や過去の文献を手がかりにして発音の歴史の変遷についても考える。

7 日本近代文学論特殊講義Ⅰ：モダニズムと呼ばれた戦前日本の文化現象について、当時の社会状況や歴史的文脈、あるいは言葉と物の関係をめぐる哲学的議論などを踏まえつつ、その可能性を総合的に考察する。

4 日本古典文学論演習B：中世の作品の一つを取り上げ、学生が諸種の参考文献を精査して作品に注釈を加え、本文の理解を深めると同時に、テーマ設定やその方法を考察する。

8 日本文学論講読Ⅰ：平安時代の『伊勢物語』『源氏物語』『大鏡』などから作品を選んで読み解く。表現の特徴や歴史・思想・文化等の背景に注意して精読し、物語とは何かを考える。

教員の研究分野

准教授	松岡 智之	中古日本文学
教授	浅田 徹	中世日本文学
教授	藤川 玲満	近世日本文学
教授	谷口 幸代	近代日本文学
准教授	加藤 夢三	現代日本文学
准教授	竹村 明日香	日本語史
准教授	石井 久美子	現代日本語

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（国語）
高等学校教諭一種免許状（国語）
学芸員
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状・資格取得の表をご確認ください。

TOPICS | いざ、言の葉の森へ



1000年以上前に書かれた詩歌や物語を辞書なしで10代の若者が読める。これは世界中の言語をみても稀なことで、日本語が連続と受け継がれてきたことの証です。本コースでは古代から現代に至るまでの数多くの文学・語学作品を紐解き、言の葉の森に分け入ります。書物だけでなく文学関係の史蹟を訪れることも重視しています。思考と五感を使ってこの森とともに探索しませんか。

THE VOICE OF A STUDENT

「時代を読む」ということ

文学作品を「学問」として読む行為は、「読書」とは少し異なります。当時の時代的要素を考慮しながら、文学と社会がどのように向き合っていたかを紐解くことが一つの鍵です。日本の言語文化を幅広く学べる本コースで「文学」を志す皆さん、一緒に「読書」の先へ行きませんか？

K・Nさん 4年
第1のプログラム：日本語・日本文学主プログラム
第2のプログラム：日本語・日本文学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

「当たり前」にも歴史がある

平仮名の濁点（・）は右上につける。「輝く」はカガヤクと読む。そんなのは当たり前前だと思いませんか？日本語史を学ぶと、濁音を表す符号が左上や左下にあり、「輝く」をカカヤクと言っていた時代を知ることができます。一緒に日本語の歴史を旅してみましょう。

竹村 明日香 准教授
研究分野：日本語史

「子曰」から「你好」まで 中国三千年の歴史が織りなす 豊かな言語世界

中国語は現代世界でもっとも重要な言語の一つです。中国は、国内に様々な矛盾を抱えながらも、政治的・経済的に急速に世界におけるプレゼンスを増しています。一方で、三千年の昔から文学の歴史を持ち、世界に広がる強固なネットワークを有する国でもあります。彼らが使う中国語は、深い思索の言葉として遥かな時空間を超え、今、この瞬間に使われているリアルな言葉でもあります。中国語圏言語文化プログラムでは、様々な意味において豊かな中国文化に言葉を通じて切りこみます。人々の考えや感情に言葉を通じて触れていく学びの旅は、社会で生きていく時に大きな力となってくれます。

目的 全球的に活躍するアジア人

国際社会で活躍するための言語として中国語はとても大きなスキルとなります。欧米の国々では義務教育段階から中国語の教育をする学校も出現しているほど、重要視されています。中国語圏言語文化プログラムでは、専任教員が現代語学、現代文学、古典語学・文献学、古典文学の4つの領域をカバーし、さらに中国語を母語とする外国人講師が中国語の運用能力を養成する授業を担当し、言語から文化論まで幅広い知識と認識を提供しています。授業外でも、中国に直に触れる中国語学研修、最新の研究成果に出会えるお茶の水女子大学中国学会など、様々な学びのチャンスを提供しています。

卒業後の就職先は官庁、地方自治体、放送出版、商社、金融、メーカーなど様々で、専門研究者も多数輩出しています。

特徴 少人数の多彩なゼミ

中国語圏言語文化プログラムは1学年6～7人です。お茶の水女子大学のなかでも、もっとも小規模な所帯です。授業も少人数のゼミ形式が大半で、授業の準備は大変ですが、それだけに力もつきます。カリキュラムは中国語の実践的運用能力を修得するための科目群を基礎とし、その土台の上に、中国現代文化、中国現代語学、中国古典文学、中国古典思想という4つの研究領域を設けています。またそれぞれの領域に、基礎的知識を修得するための概論、研究方法を学ぶための講義、さらにそれを向上させるための演習という、3つのレベルの授業を用意しています。

行事の合宿やコンパには2年次から大学院の博士課程の学生までが一緒に勉強したり楽しんだりします。



◀詳細はこちら
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/llc/chn/index.html>

THE VOICE OF A STUDENT

中国語で世界を拓く

短い言葉の連なりの奥に無限の世界が広がる漢文に魅せられ、中国語を専攻しました。北京への長期留学やHSK6級の取得、中国語弁論大会全国優勝など、入学前に想像した以上に濃密な経験ができたのは、挑戦を後押ししてくれる先生や仲間たちの存在があったからに他なりません。

K・Mさん 4年

第1のプログラム：中国語圏言語文化主プログラム
第2のプログラム：日本語・日本文学副プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

言語と表現の世界へ

私の専門は物語論、および文体論という分野で、主に中国語と日本語の小説でどのように言葉が用いられているのかを研究しています。言葉とは何なのか、言語表現とは何なのか。そしてそれは言語によってどう違うのでしょうか。大学生のうちに、ぜひ考えてみてください。

橋本 陽介 准教授

研究分野：中国現代文学



カリキュラム（主＋強化プログラム）

分野	専門中国語 中国語学	現代文学 現代文化	古典文学 文献学
基礎 (1～2年)	中国語ヒアリング基礎 → 8 中国語ヒアリング演習 中国語作文基礎演習 中国語学概論 日対照言語学	中国現代文学史 中国語講読 → 1 中国文化論 → 7	中国古典文学史（先秦～唐） 中国古典文学史（宋～清） → 4 中国古典文献講読入門 中国古典文献講読基礎
発展 (2～4年)	中国語会話演習 中国語コミュニケーション・スキル → 9 中国語作文応用演習 中国語統語論 → 5 中国語文法論	中国現代作家論 → 3 中国現代作品論 中国事情 → 6	中国文学古典講読 中国文学古典演習 中国古典詩講義演習 中国語学文献講読 → 2
	中国現代文化特別演習 中国現代語学特別演習 中国古典文献特別演習 中国古典文学特別演習 卒業論文		

科目紹介

1 中国語講読：同じ漢字を用いながらも、中国語と日本語には微妙な差異がある類義語がたくさん存在している。その違いを学びながら中国語への理解を深める。

2 中国語学文献講読：古代東アジアのベストセラー、白居易の詩を読む。『白氏文集』の講読を通じて中国古典研究の基礎能力を身につけ、漢詩さらに中国文化への認識を深める。

3 中国現代作家論：主として中華民国から中華人民共和国の時代の文学を扱う。それを通じて中国を巡る現代的問題を考える際の手がかりを得て、各人が自らの中国像の構築を目指す。

4 中国古典文学史（宋～清）：宋代以降の文人たちは、それまでに形成された詩文の規範を受け継ぎつつ、復古と革新を繰り返しながら各時代の精神を表現しようとした。詞・元曲・白話小説など新興ジャンルの隆盛とともに、時代ごとの価値観・思想と文学の関わりについて理解を深める。

5 中国語統語論：中国語の文法構造をいろいろな観点から考える。中国語を学ぶ、というよりは、中国語という宝の山から面白い現象を見つけ出すと言えるかもしれない。他の言語との比較なども考えていく。

6 中国事情：現代中国の社会と文化を学ぶ。文字テキストだけでなく、映像資料を用いたり、時には中国人から話を聞いたりして、多面的に今の中国を知り、考える。

7 中国文化論：中国文化について学ぶと同時に、中国に関する情報の収集・取り扱いの方法について学ぶ。

8 中国語ヒアリング基礎：中国語の聞く力を鍛える授業。発音された音を正確にキャッチし、正確な発音で会話することを目指す。

9 中国語コミュニケーション・スキル：中国語運用能力向上を目指す。

教員の研究分野

教授（兼任） 伊藤 さとみ 中国現代語学・言語学
准教授 橋本 陽介 中国現代文学

准教授 富 嘉吟 中国古典文学
助教 平澤 歩 中国思想史

TOPICS | 北京の語学研修で言葉を学ぶ、中国を体験する



毎年夏、中国語短期海外研修を実施しています（研修先は北京外国語大学）。期間は2週間と本当に「短期」で、効果が上がるはずないと思いかもかもしれませんが、中国語力が格段に向上することが検定試験の結果等から確かめられています。同時に、あるいはそれ以上に、中国の人々や社会の生の姿に触れる貴重な機会になります。図書館ホームページのTeaPotに掲載の報告書で、過去の参加者の感想を読んでみてください。研修の成果は単位として認定されます。また、学生支援機構や本学独自の奨学金を受けることができます。

未来の世界を担う共通語
言語としての英語、
文化としての英語を学ぶ

古くは中世・ルネサンスの時代から、多くの世界的文学作品を生み出してきた英語は、現在世界でもっとも広く通用する言語として、国際化が進む世界の未来そのものを担う言語となっています。本プログラムでは、英語の言語としての特質やその運用・修得のあり方を学ぶと同時に、英語を母語とする人々が、その思考や感情や想像力の表現として生み出してきた文学や文化表象を、分析の方法論と併せて学びます。高度な英語運用能力と専門知識を身につけ、思考力・発信力・表現力を同時に磨くことで、深く思考し、自信を持って世界に発信できる人材となることを目指します。

目的 世界に発信できる力をつける

本プログラムでは、英語と英語圏の文学・文化をグローバルな視野で総合的に理解することを目指します。教養レベル以上の英語運用能力を確実に修得すると同時に、学術的成果や深い思想を英語で正確に表現し、自信を持って世界に発信できる能力の修得を目標に、専門知識と技能の両面から広く深く学びます。

また、英語学や英語圏文学を専門に学ぶための高度な英会話・英作文の専攻科目、卒業論文を英語で作成するための科目も組まれています。さらに英語圏の社会や文化を学ぶ科目により、英語圏言語文化のトータルな理解を目指します。卒業後は、英語力を活かし、教員、翻訳、商社、公務員、出版社など様々な分野で活躍する一方で、大学院に進学して専門分野の研究を続ける人もいます。

特徴 思考力・発信力・表現力を磨く

英語と英語圏の文学・文化について効果的に学ぶため、1年次には文法に関する基礎的な講義を履修し、2年次には英文法演習、英語音声学演習、英語学概論などを基礎から積み上げ、じっくり高度な実力を身につけていきます。2～3年次には、英語圏文学・文化、英語学・英語教育学のなかから自分の専攻する領域を選んで演習や講義を受け、さらに専門知識を深めることができます。英語学では、特別演習（言語研究方法論）と各種の英語学特殊講義を、英語圏文学では、英文学史、特別演習（英米文学研究方法論）、英文学特殊講義などを履修します。いずれの場合も4年次には、語学・文学別に組まれている特別演習と各種の特殊講義を引き続き履修して専門知識を深め、英語による卒業論文を作成します。



◀ 詳細はこちら
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/llc/eng/index.html>

THE VOICE OF A STUDENT

英語の背景に迫る

英語は世界で広く使用され、その学習の需要は年々高まっています。本コースでは言語学や教授法の授業を通して、国際語である英語を多角的・体系的に学んでいます。英語を一つの言語として捉え、その仕組みや運用について専門的な視点から深く学べる点に魅力を感じています。

M・Mさん 3年
第1のプログラム：英語圏言語文化主プログラム
第2のプログラム：英語圏言語文化強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

ことばの仕組みの奥底へ

人のことばを「形と意味を結びつけるシステム」と考えた時、その中身はどうなっているのか。日本語と英語、その姿も歴史も大きく違えど、奥底にある抽象的な仕組みはさほど変わりません。表層的な現象の背後にある隠れた規則性を探ることは、まさに言語学の醍醐味の一つです。

水野 輝之 助教
研究分野：英語学・言語学（形式意味論・語用論）

カリキュラム（主＋強化プログラム）

分野		主プログラム			強化プログラム
		英語運用能力	英語学・英語教育学	英語圏文学・文化	英語力・英語学・英語圏文学
基礎	1年次	英文法Ⅰ（Ⅰ）（Ⅱ）・Ⅱ	言語学入門Ⅰ（Ⅰ）（Ⅱ）・Ⅱ	英語圏言語文化入門（Ⅰ）（Ⅱ） 英語圏言語文化研究Ⅰ	英米文学演習（中級） 英米文学演習（上級）（Ⅰ）（Ⅱ）
	2年次	英作文演習（初級）→1 英会話演習（初級） 英作文演習（中級） 英会話演習（中級） 英語圏事情（Ⅰ）（Ⅱ）→2	英語学入門（Ⅰ）（Ⅱ） 英語学概論→5 英語音声学演習 英文法演習→4	英米文学演習（初級） 英語圏テキスト研究入門（Ⅰ）（Ⅱ） 英文学史Ⅰ（Ⅰ）（Ⅱ）・Ⅱ 英文学特殊講義Ⅰ～Ⅷ 英語圏言語文化研究Ⅱ・Ⅲ	
発展	3年次	対照表現学演習Ⅰ（Ⅰ）（Ⅱ）・Ⅱ→3	特別演習（言語研究方法論）Ⅰ（Ⅰ）（Ⅱ）・Ⅱ 英語学特殊講義Ⅰ～Ⅷ 第二言語教授法研究Ⅰ～Ⅳ	特別演習（英米文学研究方法論）Ⅰ（Ⅰ）（Ⅱ）・Ⅱ 米文学史Ⅰ（Ⅰ）（Ⅱ）・Ⅱ→7	英作文演習（上級） 英会話演習（上級）
	4年次	卒業論文	特別演習（言語資料分析）	特別演習（作品分析）→6	

※科目の年次配置は標準的に履修を開始できる年次により掲げています。

※本カリキュラムの強化プログラムは、主プログラムに設置された科目群をより多く履修することを基本とします。ここでは主プログラムに含まれない科目のみを掲げています。

科目紹介

1 英作文演習（初級）：In this class, students will improve their ability to plan, organize, write, and revise their English essays. Students will also expand their vocabulary knowledge through reading academic texts.

2 英語圏事情（Ⅰ）（Ⅱ）：The aim of this class is to familiarize students with the cultural similarities and differences between the U.S.A., the U.K., and other English-speaking countries.

3 対照表現学演習Ⅱ：卒業論文の書き方を学ぶ。テーマの選定・文献調査方法・先行文献の引用方法・英文30ページ以上に及ぶ卒論の構成を扱い、授業内議論による吟味を踏まえて各自の卒業論文の基となる英文レポートを作成する。

4 英文法演習：最近の理論言語学の知見に基づき、特に文構造の問題に焦点を当てて、英文法の知識を深め、統語論の基礎知識を身につける。

5 英語学概論：言語の規則性・普遍性を意味の面から考察し、意味論の基礎知識を身につける。

6 特別演習（作品分析）：作品選択、テーマ設定、方法、資料収集等、卒業論文執筆に至る実践的研究方法を学ぶ。

7 米文学史Ⅰ（Ⅰ）（Ⅱ）：植民地時代から現代に至るアメリカ合衆国の文学を今日の視点から概観する。

教員の研究分野

教授	野口 徹	英語学・言語学（文法理論、統語論・意味論のインターフェイス） ※2026年度末で定年退職予定。
教授	山腰 京子	英語学・言語学（第一言語習得）
教授	高桑 晴子	英文学（主に19世紀のイギリス・アイルランド小説）
准教授	デイビット・アレシ	心理言語学・応用言語学・第二言語習得
准教授	ロバート・瀧澤ロウ	英語教育学・応用言語学
准教授	丸谷 徳嗣	米文学（アメリカ南部文学、20世紀アメリカ文学）
助教	水野 輝之	英語学・言語学（形式意味論・語用論）
助教	新居 達也	英文学（中英語詩・近代初期の詩）
助教	与良 美紗子	英文学（20世紀イギリス小説・英語圏女性文学）

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（英語）
高等学校教諭一種免許状（英語）
学芸員、社会調査士
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状・資格取得の表をご確認ください。

TOPICS | Disce gaudere (Learn how to rejoice)



本プログラムでは少人数の演習授業が多く、積極的な授業への参加が求められます。時間をかけて準備を行い、自主的に学ぶことで、英語の運用能力を高めていくとともに、英語をはじめとする言語そのものや英語圏の文化を理解していきます。授業はその学びの過程と成果を共有する場であり、その中で大切な人間関係も育まれていきます。知的な興味を探索することの喜びを知り、そしてそれを友人と分かち合うという体験をすることは何にも代えがたい大学時代の財産となるはずです。



◀ 詳細はこちら
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/llc/tra/index.html>

フランスから見た欧州、欧州から論じるフランス 移民問題から現代思想まで、 仏語圏を食べ尽くす

フランスは、17世紀以来、ヨーロッパの政治と文化の中心でした。20世紀の後半になって、フランスはドイツとともに欧州連合（EU）の創設に深く関わり、現在でもヨーロッパ全体に大きな影響力を発揮しています。したがって、フランスの文化と社会を考える時にはヨーロッパ全体を視野に入れること、逆にヨーロッパ全体の問題を考える時にはフランスを一つの中心核とすることは大きな意義があります。また世界各地のフランス語圏の国々の文化や社会にも視野を広げ、狭い意味での言語文化だけではなく、映画から思想まで、ファッションから移民問題まで、幅広く学んでいきます。

目的 グローバルな視野を持つ人材の育成

フランス語の実践的運用能力を身につけること、フランス語で営まれている様々な言語文化やフランス語圏の社会事情に深い理解を持つこと、さらにはドイツ語圏文化などヨーロッパの他の言語文化や世界の仏語圏の文化にも視野を広げて異文化交流にも関心を抱くこと。そのような能力と知的好奇心を備えた人材の育成が目的です。

卒業生はグローバル化した現代社会の要請に応え得る人材として、商社・金融などの民間企業や、官庁、マスコミ界など様々な分野で活躍しています。

特徴 フランス語圏の言語、文化や社会を学ぶ

1・2年次には可能な限りたくさんのコア科目のフランス語に関する授業を履修して、フランス語の基本的な知識や能力を身につけます。2年次以降はプログラムの専門科目において、作文や会話の力を伸ばすとともに、時事フランス語やビジネスフランス語から文学や思想のテキストまで、多様なフランス語を学びます。また、文学・思想から映画・美術まで、食文化から移民問題まで、幅広く仏語圏の文化と社会に関する専門的な知識を深めていき、視野の広い柔軟な思考を養います。

4年次に必修として課されている卒業論文は4年間の勉学の総決算となるべきものです。自らの関心に応じてテーマを選び、様々な文献・資料をもとに思索を重ねて論文を書き上げるという経験は、将来の大きな財産になることでしょう。

THE VOICE OF A STUDENT

言語から広がる私の世界

フランス語を入りに、文学・文化・社会を横断的に学べる点が本コースの魅力です。様々な授業を通して、多角的な視点からフランス語圏を学ぶうちに、日常生活や価値観を自分なりに見つめ直すようになりました。三年間の学びを通して自分の世界が大きく広がったと実感しています。

M・Mさん 4年
第1のプログラム：仏語圏言語文化主プログラム
第2のプログラム：教育学・子ども学学際プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

フランス語で広がる世界

フランス語は世界の様々な地域で話され、多様な文化や社会を結びつけています。私はとくにカナダのフランス語圏を研究し、言語と文化の関係を探っています。フランス語を学ぶことで、新しい視点から世界を見ることが出来ます。皆さんもその魅力を体験してみませんか。

小松 祐子 教授
研究分野：仏語圏文化、フランコフォニー研究、仏語教育学

カリキュラム（主＋強化プログラム）

分野	仏語圏の文化と社会	フランス文学	フランス語
基礎 (1年)	仏語圏言語文化基礎演習 →1	ヨーロッパ言語文化論Ⅰ・Ⅱ →11	基礎フランス語Ⅰ～Ⅳ 基礎フランス語（応用）Ⅰ～Ⅳ 基礎フランス語会話Ⅰ・Ⅱ
発展 (2～4年)	欧州文化論Ⅰ～Ⅳ 西欧社会文化論Ⅰ～Ⅳ →4 仏語圏社会言語論Ⅰ・Ⅱ 仏語圏言語文化論Ⅰ～Ⅳ →3 フランス社会文化論Ⅰ～Ⅳ →2 ドイツ語圏文化論Ⅰ～Ⅲ	近代仏文学演習Ⅰ～Ⅲ 近代仏文学特殊講義Ⅰ～Ⅱ →5 現代仏文学演習Ⅰ・Ⅱ 現代仏文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ →6 仏文学特殊研究 独語圏文化講読演習Ⅰ～Ⅳ ドイツ語圏文学史Ⅰ～Ⅲ →7	発展フランス語Ⅰ～Ⅳ 基礎仏作文演習Ⅰ・Ⅱ 中級仏作文演習Ⅰ・Ⅱ →8 基礎仏語学演習Ⅰ・Ⅱ 中級仏語学演習Ⅰ・Ⅱ
	仏語圏言語文化研究指導 →10 卒業論文		

科目紹介

1 仏語圏言語文化基礎演習：フランス語圏言語文化研究の基本となる知識を身につける。フランス語圏諸地域の歴史と現状、言語文化に関わる諸問題を理解し、自らの関心に照らして論じる能力を養う。

2 フランス社会文化論Ⅱ：フランスではフランス生まれの移民の子にもよるテロ事件やスカーフ問題などが起こっているが、この「移民の子どもたち」はどういう存在なのか。彼らが直面している問題、とくに学校適応について社会的・教育的に理解を深めていく。

3 仏語圏言語文化論Ⅳ：カナダにおけるフランス語教育（主に第二言語としてのフランス語教育）について学ぶ。カナダで生まれたイマージュ教育や神経言語学的アプローチ（ANL）について、その背景、意義、方法、現状、課題などを確認する。

4 西欧社会文化論Ⅳ：近代的な産業システムが確立される19世紀から現代に至るまでのパリ・モードの変遷と、それを取り巻く社会的・文化的背景を理解し、今日に続く「モードの都パリ」という都市イメージがどのように作られたかを考える。

5 近代仏文学特殊講義Ⅰ：近現代フランス文学を代表する作家や詩人の作品の抜粋を講読する。文学作品の読解能力を高めながら、フランス文学史に関する知識を深めることを目標とする。

6 現代仏文学特殊講義Ⅱ：『シンデレラ』などフランス起源のおとぎ話の謎に踏み込むとともに、サン＝テグジュペリの『星の王子さま』を取り上げ、おとぎ話の現代メディアにおける変奏の問題を考える。

7 ドイツ語圏文学史Ⅰ：近現代のドイツ語圏の文学について、各作品の解釈に踏み込みながら講義していく。

8 中級仏作文演習Ⅰ・Ⅱ：2年次をおもな対象として、フランス語の作文の指導を行う。毎回、文法問題、翻訳問題を解くとともに、作文を書いて文章力を向上させていく。

9 上級仏語コミュニケーション演習Ⅰ～Ⅳ：3・4年次をおもな対象として、フランス語での意見の発表や議論などの指導を行う。DELF B1の口頭試験の対策も行う。

10 仏語圏言語文化研究指導：卒業論文作成のための事前指導。各自の関心にしたがいフランス語圏言語文化に関する研究テーマを設定し、参考文献や資料を集約し、構想発表を行う。

11 ヨーロッパ言語文化論Ⅰ：中世から近代までのフランス文学の歴史を概観する。美術や音楽など他ジャンルの芸術との関係にも注目しながら、文学史の基礎的な知識を身につける。

※授業内容は年度により変更がある場合がありますのでご了承ください。

教員の研究分野

教授	小松 祐子	仏語圏文化、フランコフォニー研究、仏語教育学	准教授	ジェホム・ル・ボワ	比較文化論、フランス語教育、歴史学
教授	田中 琢三	フランス文学、比較文学			

TOPICS | 「仏語検定試験」を受けよう フランス語圏に留学しよう



「実用フランス語技能検定試験（仏検）」は、自分のフランス語力を客観的に証明してくれる手段です。在学中にできるだけ高い級の合格を目指しましょう。なお、本コースは、そのフランス語教育への貢献が認められて、仏検を主宰する「フランス語教育振興協会」より2015年度の「文部科学大臣賞団体賞」を授与されました。仏検と並行して、フランス国民教育省が認定する国際資格DELF・DALFの試験にも積極的に挑戦することをお勧めします。

本コースでは、フランス政府留学局が提供する夏季・春季の4週間のフランス短期語学研修プログラムへの学生派遣を行っています。さらに本学と協定を結んでいるフランス語圏の大学に留学すれば、卒業年度を遅らせることなく大学を卒業することも可能です。留学は語学力を向上させるだけでなく、その国の人々の生活や習慣を直接の体験で知ることができることから重要です。

「なぜ人は育つのか」を問い続ける4年間 教育科学は、人間を知るいちばん広い学問だ

ヒトはいかにして人間になるのか。この命題に教育科学は迫ります。人間発達とは、狭い学問領域にとどまらず、およそあらゆる科学の成果と方法を結合してはじめて理解することができるものです。教育科学は、人類の究極の謎である私たち自身の人間形成や発達の過程に、多彩な研究方法を駆使して理論的・実践的にアプローチする総合的な人間科学です。単に知識を得て蓄えていくのみの既存の知識の受容者から、自らの視点と理論によって創造的知識の生産者へ。高等教育人材にふさわしく変身し、教育現場で社会諸領域でその能力をいかに発揮できるための基礎力と応用力を獲得できることを目指します。

目的 7領域で実践的知性を磨く

問題を発見する洞察力、事象を的確に観察・分析する方法論と能力、それらを実践的処方箋へと深める実践的知性の育成を目標としています。

教育科学プログラムは、人間発達に関する基礎科学と、人間発達に関わる諸問題の解決を志向する実践科学の7領域で構成され、それぞれに専任教員を配しています。

基礎科学：教育思想、教育史、教育社会学、教育・発達心理学

実践科学：教育方法学・課程論、教育開発論、特別支援教育

発達に関する多様な学問領域に触れることで、卒業後には研究者の世界が、そして幅広い職業世界が広がります。卒業生の約5分の1が大学院へ進学、およそ5分の1が教職につき、5分の3が公務員、マスコミ、一般企業へと就職します。

特徴 現場で学び、個性を拓く

学科共通科目（1年次に履修）は、教育研究への招待状です。人間の発達に関する関心とセンスを磨いてください。専門講義は1年次から概論を中心に開設され、教育科学の基礎を学んで各自の関心にあったアプローチを発見し、2年次から始まるゼミでそれを深めます。自主的に取り組む少人数ゼミは自分の個性を発見するチャンスでもあります。

2年次には、学校や教育施設など、教育に関する多様な場を実際に観察することによって、人間発達に対する視野を広げます。学生生活の集大成としての「卒業論文」は、自己の関心にもとづき教育科学の多様な領域・多様な方法で執筆されています。



◀詳細はこちら
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/hss/edusci/index.html>

THE VOICE OF A STUDENT

教育の「想い」をみつめる

皆さんが今まで受けてきた教育はどのようなものだったでしょう。誰もが当たり前を受けてきた「教育」は、様々な「想い」によって変容し、今なお変わり続けています。それらの「想い」を見つけ、共有し、対話する教育の「科学者」たちが、この場所であなを待っています。

I・Mさん 4年
第1のプログラム：教育科学主プログラム
第2のプログラム：教育科学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

教育の課題に挑み、 社会の未来を拓く

人間が社会で生きる上で必要不可欠な教育という営為が世界中で様々な問題に直面しています。私が研究対象としている日本の学校教育もその例外ではありません。複雑で解決が難しい問題ばかりですが、皆さんが経験してきた様々な場面での被教育経験をもとに一緒に挑んでみませんか？

富士原 紀絵 教授
研究分野：教育方法学、教育課程論

カリキュラム（主＋強化プログラム）

分野		基礎的 教育科学	実践的 教育科学	教職科目
(1) 2年次	主プログラム	人間と発達 教職概論 社会学総論 人間科学論 子ども学総論	教育方法学概論 教育課程概論 教育開発概論 → 5	生涯学習概論 教育制度概論 特別支援教育概論 → 7
		教育思想概論 → 1 教育史概論 → 2 教育社会学概論 教育・発達心理学概論		
(2) 4年次	主＋強化プログラム	教育人間学特殊講義 教育史特殊講義 学校社会学特殊講義 発達心理学特殊講義	教育方法学特殊講義 教育課程特殊講義 比較教育特殊講義 教育制度特殊講義	総合的な学習の時間の理論と方法 道徳教育の理論と方法 特別活動の理論と方法 生徒指導と進路指導の理論と方法 学校カウンセリング 初等科教育法（各教科） （小学校）各教科教育論 教育実習 教職実践演習
		教育思想演習 教育史演習 教育社会学演習 → 3 教育心理学演習 → 8	教育方法学演習 → 6 教育課程演習 教育開発演習	障害児教育特殊講義 学校インターンシップ → 4 比較教育演習 教育制度演習 特別支援教育演習
		卒業論文		

科目紹介

1 教育思想概論：様々な教育思想を通覧し、教育を多角的に検討するための基礎の獲得を目指す。本講義の目標は、代表的な教育思想のあらましを説明できることと自身の教育観を論理的に説明できることである。

2 教育史概論：江戸時代から現代までの教育の変遷を概説する。近代化と教育、学校制度の構築、新教育実践、戦争と教育、政治・経済と教育の関係、学歴主義の形成、教育の荒廃現象、などがテーマとなる。

3 教育社会学演習：教育社会学の諸理論と先行研究を学ぶ。教育現象を「社会的に」捉えることのできる知識と視角を身につけることを目指す。適宜、社会学で用いられる理論などを参照する。

4 学校インターンシップ：附属小・中・高校にて、週1回程度活動に取り組む。教員の日常業務を観察・体験することを通して、学校の教育活動と児童・生徒への理解を深めることを目標としている。

5 教育開発概論：教育開発の理論、国際機関の役割、発展途上国の教育の現状と課題、国際協力、教育開発の今日的課題、国際理解・平和のための教育、ESD、日本の教育開発経験等について学ぶ。

6 教育方法学演習：国内外の教育方法に関する理論や実践記録の検討を通して、「学校」や「授業」を規定している諸要因を学ぶ。自身の経験によって形成された「教師像」「授業」などの柔軟な捉え直しを目指す。

7 特別支援教育概論：特別支援教育の理念や仕組みを学び、発達障害や身体障害などの様々な障害や、その他の特別な教育的ニーズをもつ子どもの指導や支援を行うために必要な知識や方法を身につける。

8 教育心理学演習：教育心理学に関する基礎的な文献講読を行う。文献や他の参加者との議論を通じて、教育や学習に関わる心理について知り、理解を深め、自分なりの考えを持てるようになることを目標とする。

教員の研究分野

教授	池田 全之	教育思想、人間形成論史研究
教授	浜野 隆	教育開発学、社会科教育論
教授	富士原 紀絵	教育方法学、教育課程論
教授	大多和 直樹	教育社会学
准教授	武藤 世良	教育心理学、発達心理学
准教授	齊藤 彩	特別支援教育
助教	渡邊 真之	教育史
講師	植原 督詞	社会科教育学、社会科指導法

取得できる主な教員免許・資格

小学校教諭一種免許状
幼稚園教諭一種免許状
中学校教諭一種免許状（社会）
高等学校教諭一種免許状（公民）
学芸員、社会調査士
※教員免許の詳細はP022各種教育教員免許状・資格取得の表をご確認ください。

TOPICS | 教育への視野を広げる教育の現場に参加する



教育とは人間の実践的な行為であることから、教育科学コースでは教育の現場から学ぶことを大切にしています。教育科学プログラムでは大学での学修を机上にとどめず、大学で学んだことを現場で問い直したり、そこで新たな発見を得ることを目的としています。参観先は学校のみならず、教育と深く関わる展示を行っている博物館なども含まれます。教員と学生がお互いの交流を深めることも目的の一つです。参観体験をもとに皆と語らいながらともに過ごす時間は、自身の抱えている教育観を広げる上で貴重な経験となることでしょう。

疑う、観る、分析して問題解決の糸口をつかむ
社会と人間の行動を
トータルに捉えて研究する

社会学は、人間の行動と意識の社会的な側面及び組織や社会の構造・機能とその変動を研究する学問です。社会学プログラムでは、社会のなかに埋め込まれた個人のパーソナリティ、人と人との相互関係、そこから生み出される文化、制度や社会全体の仕組みなどを対象に学んでいきます。具体的な研究領域としては、自分探し（アイデンティティ）、家族、マス・メディア、コミュニケーション、エスニシティ、環境、企業、職業、消費、非行・犯罪、余暇、階層・階級、青年文化、学校、社会福祉、地域開発、都市、法などがあります。最新の時事や社会現象などに主題を見つけ、理論を立て、実証することで、社会を見る新しい視点を養います。

目的 理論に基づき事実を解明する

理論と実証の2つの基礎を学び、社会科学的な考え方と分析手法を身につけます。そのうえで、コミュニケーション、メディア、福祉、高齢者、環境、ジェンダー、家族などの領域で生じる具体的な社会現象を分析します。さらに人間の社会生活を巡る問題意識を育て、社会の様々な問題の背景や原因を分析し、問題の解決に向けて自主的・積極的に取り組む能力を身につけることを目指しています。

卒業生はその専門知識をもとに、マスコミ関係、官公庁、非営利団体、国内・海外の調査機関、一般企業の人事・広報、コンピュータ関連企業などで活躍しています。大学院へ進学し、より専門的な知識を身につける人も多く、多くの大学で教壇に立ち、研究者として精力的に研究活動を行っています。

特徴 方法論と演習、隣接諸科学の重視

社会学の概論的講義の「社会学総論」、社会調査の全過程を修得する「社会調査法Ⅰ・Ⅱ」を必修として、教育社会学や地理学、生活科学など隣接分野の授業科目も含んだ幅広いメニューで社会学と文化人類学の基礎を修得します。学外からの非常勤講師も迎え、多様な研究領域に触れられる多彩な授業科目が用意されています。

研究方法も、文献中心の理論研究、地域社会でのフィールドワーク、コンピュータを駆使した計量研究など様々です。企業や自治体、コミュニティなどで社会の現実を的確に解明する手法として“質的”または“量的”な社会調査法を重要なものと位置づけています。

講義で吸収した知識をもとに、演習での活発な討論に力を入れており、その集大成として卒業論文の作成を重視しています。



◀詳細はこちら
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/hss/socio/index.html>

THE VOICE OF A STUDENT

日常を問い直す

私たちは社会の中で生きています。社会学コースでは、身近な出来事を「当たり前」とせず問い直します。なぜそうなのなのか、誰のためのものなのか。その問いを重ねることで、社会を多角的に捉える視点が養われます。日常の「なぜ？」を社会学で紐解いてみませんか。

○・Aさん 4年
第1のプログラム：社会学主プログラム
第2のプログラム：日本語・日本文学副プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

歴史と実践から、
新たな可能性をひらく

進学・就職・結婚・出産というライフコースは、いつの間にか「幸せ」の物語として語られてきました。しかし、それは唯一の幸せの道でしょうか。世界の多様な歴史と実践を手がかりに、その「幸せ」を相対化し、新たな可能性を構想することが、文化人類学の魅力だと思っています。

Iris Isсен 助教
研究分野：文化人類学、ジェンダー、移民、クィア

カリキュラム（主＋強化プログラム）

分野	人間社会科学	社会学	隣接分野
基礎 (1～2年)	人間科学論 人間と発達 社会学総論◎→1 子ども学総論	ジェンダー社会論→5 現代社会論 現代生活論 社会政策論Ⅰ→3 社会調査の設計と実施 質的研究法→6 調査データの基礎集計→8 社会統計学基礎	フィールドワーク方法論 応用生活統計学 人間と空間 都市地理学
	教育社会学概論 教育社会学特殊講義 学校社会学特殊講義 子ども社会学概論	社会調査法Ⅰ・Ⅱ◎→4 社会意識論→2 比較社会論 社会政策論Ⅱ→3 文化人類学概論 文化人類学特殊講義 民族誌学特殊講義	社会福祉学 老年学 地域社会論 児童福祉論 社会統計学Ⅰ
発展 (3～4年)	教育社会学演習 学校社会学演習 子ども社会学演習	ジェンダー論演習Ⅰ・Ⅱ 社会意識論演習Ⅰ・Ⅱ 社会政策論演習Ⅰ・Ⅱ 社会保障論演習Ⅰ・Ⅱ 現代生活論演習Ⅰ・Ⅱ 現代社会論演習Ⅰ・Ⅱ 文化人類学演習Ⅰ・Ⅱ→7 社会学方法論演習Ⅰ・Ⅱ	家族社会学
		社会学研究指導Ⅰ◎ 社会学研究指導Ⅱ◎ 卒業論文◎	

※ ◎は必修科目

科目紹介

1 社会学総論：社会学の基本的知識と、それを基盤とした現代的な諸問題、諸現象へのアプローチがテーマ。社会学を学ぶ準備段階として、社会学における古典的・典型的な知見を得る。

2 社会意識論：人々の間で共有される規範や意識を、社会・文化・歴史的側面から具体的に検討し、それを通じてアクチュアルな社会現象についての理解を深める。

3 社会政策論：社会政策（社会保障、社会福祉、住宅政策、教育政策等）の仕組みと現代的課題、さらには、その背景にある社会の在りようを理解し、当事者として考察できるようになることを目指す。

4 社会調査法：大規模標本調査を念頭に置き、目的の設定・明確化／調査の企画・設計／調査票の作成／調査の実施／調査結果の集計・分析／レポート作成まで、一連の過程を実習する。

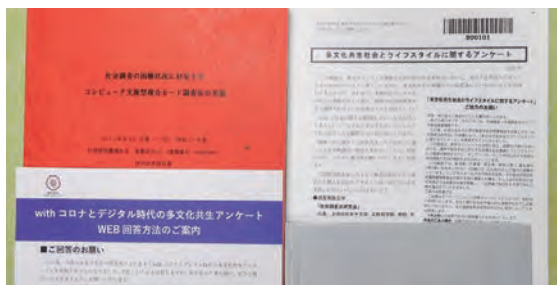
教員の研究分野

教授	杉野 勇	社会調査法、法社会学、社会科学方法論
准教授	宝月 理恵	歴史社会学、医療社会学、近代家族論
准教授	三宅 雄大	社会政策、社会保障、社会福祉学
助教	Iris Isсен	文化人類学、ジェンダー、移民、クィア

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（社会）
高等学校教諭一種免許状（公民）
社会調査士・学芸員
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状・資格取得の表をご確認ください。

TOPICS | 高度情報化したメディア社会の必須リテラシー、「社会調査士」



社会調査の知識と技術を用いて、世論や社会意識、生活実態などを的確に捉える専門家が社会調査士です。（一社）社会調査協会が認定する資格で、認定科目の履修と学部卒業が必要です。企業のマーケティングや自治体の住民調査など、現代社会の様々な部門で科学的な調査を企画・実施して適切なエビデンスを形成し、それに基づいて社会設計を行うことが重要になっています。のみならず、我々がメディアなどから受け取る無数の“情報”に含まれる“調査結果”の妥当性を正しく識別するためにも、社会調査方法論の知識は不可欠です。

「子ども」という人間存在の原点から、
理論・実践・対話を通して、
人間・社会・文化の生成過程を探究する

「子ども」という視点から考えるとき、私たちは社会の中で当たり前と思われている「大人」基準を超えて、人間・社会・文化のあり方を、新たな眼で見通すことができます。こうした「子ども学」の知を生かすことで、教育の場、企業や官公庁、学術研究の世界、そして地域に、今までになかった新しい貢献が可能になります。子ども学プログラムでは、「子ども」という人間存在について、保育学・教育学・心理学・社会学・歴史学など、学際的な理論的探究を深めるとともに、保育・教育の場でのフィールドワーク等を通して、実際の子どもの姿に触れることで、リアルな学びを目指します。

目的 「子ども」という視点を通して、
人間・社会・文化を根本から探究する

子どもは人間の原点であり、その世界は深く広大なものです。また子どもは未来の作り手であり、その学びと成長を支えることは、持続可能な社会を築く上で不可欠です。時代の最先端を生きる子どもたちは、現代社会の複雑な課題に直面しています。こうした社会的課題に取り組むための知識や研究が求められている今こそ、「子ども」という視点をもつことによって、その課題を新たな形で捉え直し、打開していくことが可能になります。

子ども学プログラムでは多角的なアプローチを通して、人間・社会・文化の生成過程と構造を探究することを目的としています。学際的な研究とともに、保育・教育の場などにおいて、実際の子どもの姿に触れて知ることが、こうした探究を人間的でリアルなものにしていきます。

特徴 理論・実践・対話による多様な学び

子ども学プログラムでは、「子ども」や保育・教育に関する理論を、多様な専門領域の観点から多角的に学びます。子どもとその成長を根本から考える保育・教育思想、その実践にかかわる保育学、子どもの発達やその内面を理解する心理学、マクロな視点から子どもが生きる世界を俯瞰する社会学、そして子どもや保育・教育を支えている制度、時空を超えてこれらの変遷をたどる歴史学など、学びは多彩です。また、同じキャンパス内にあるナースリー（乳児保育所）・こども園・幼稚園など、0歳からの子どもたちが生活する場に臨み、フィールドワークやインターンシップを通して実践的に学びます。

これらの学修で大切にしたいのは「対話」です。学生／教員／子ども／保育者／自己など、それぞれの間でなされる対話の積み重ねが、学びの深化をもたらします。2年次後期からの演習でも、学問的対話を大切にしながら自身の問題関心を深め、4年間の集大成としての卒業論文につなげていきます。



◀詳細はこちら
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/hss/child/index.html>

THE VOICE OF A STUDENT

子どもを通して見える社会

目の前にいる子どもは社会を映す鏡なのかもしれません。歴史や制度、環境を学び、実際に子どもを観察し、仲間と議論を重ねていくうちに、自分の中の子ども観だけでなく、社会の見方も変わったことを実感しています。私たちと一緒に、奥の深い「子ども」について学んでみませんか。

H・Tさん 4年
第1のプログラム：子ども学主プログラム
第2のプログラム：社会学副プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

子どもと人間の研究を深める

子どもたちはいつでも、大人の予想を超えた姿を見せてくれます。保育の場を訪れるたび、嬉しい発見や困難に向き合う中で、私自身が以前とは少し違った自分になっていることを感じます。そんな体験が、子どもと人間に関する研究を触発し、深めていく手がかりになっています。

西 隆太郎 教授
研究分野：保育学、臨床心理学



カリキュラム（主＋強化プログラム）

分野		主プログラム						強化プログラム	
		学科共通科目	概論科目	演習系科目	幼稚園教職課程の科目	実習系科目	特殊講義系科目	隣接領域科目	
基礎	1年次	子ども学総論→1 人間と発達 社会学総論 人間科学論 教職概論	幼児教育方法学概論 幼児教育課程概論→3 子ども社会学概論→4 幼児教育制度概論	保育内容総論（子どもと遊び）→5	保育5領域に関する専門科目 幼児理解と教育相談			社会学の基礎科目 教育学の基礎科目 児童福祉論 発達臨床心理学 臨床心理学概論	
	2年次						子ども生活論 人間関係論 子ども文化論 子ども学特殊講義 幼児教育学原論 心理臨床と教育・保育	学校インターンシップ	
発展	3年次			幼児教育学演習 保育学演習 子ども社会学演習 サステナビリティ幼児教育演習 幼児教育制度演習→6 子ども発達環境論演習 乳幼児心理学演習 子ども学調査法演習 子ども学研究指導 卒業論文	保育内容指導法（健康・人間関係・環境・言葉・表現） 事前指導 教育実習 事後指導 教職実践演習	子ども学フィールドワーク→2 子ども学インターンシップ		教育学の演習科目	
	4年次								

科目紹介

1 子ども学総論：子ども学を学ぶ上で基本的に必要な思想・文化・制度について、多角的に学ぶ。さらに、現代における子どもの教育・支援に関わる多様なアクターについての理解を深め、現在生じている子どもに関する諸問題に対して実践的に活動するために求められる視点・課題について考察する。

2 子ども学フィールドワーク：大学内にある附属幼稚園、いずみナースリー、お茶大こども園などの乳幼児の施設を訪問し、実際の子どもの姿に触れ、観察の視点を学ぶことを通して、子どもに関する理論・知識や、子どもに対して抱えているイメージを捉えなおす機会とする。現場で子どもと関わる保育者などの専門家とも話し合い、保育・教育について考える。

3 幼児教育課程概論：人生の基礎となる乳幼児期、目覚ましい成長を遂げていく子どもたちと、保育者はともに歩む。日々の遊びや生活が充実し、一人ひとりが生かされる上では、信頼関係と豊かな環境が重要である。多様な子どもたち・家族と保育者が織りなす保育の過程を、いかに触発し、計画し、理解していくのか、国内外の研究と具体的な保育事例・映像を通して学ぶ。

教員の研究分野

教授	西 隆太郎	保育学、臨床心理学
准教授	辻谷 真知子	保育学、発達心理学、教育心理学
講師	橋本 有子	ダンス教育、ソマティクス
講師	松島 のり子	幼児教育学、保育制度
助教	光橋 翠	幼児教育学、サステナビリティ教育、子ども社会学

取得できる主な教員免許・資格

幼稚園教諭一種免許状
学芸員、社会調査士
※小学校・中学校・高等学校教諭一種免許状は人間社会科学科各プログラム等で開講される所定の教職科目の履修により取得可能です。
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状・資格取得の表をご確認ください。

TOPICS | 子どもと出会い、子どもに学び、子どもから考える 広がり深まる子ども学の世界



本学のキャンパスには、附属幼稚園、いずみナースリー、こども園という3つの保育・教育の場があります。子ども学プログラムの専門科目として開講している「子ども学フィールドワーク」では、こうした保育・教育の場を訪ね、子どもの姿や保育の実際を直に学ぶことに重きを置いています。子どもたちの姿に接し、観たことを書き留め、振り返るなかで、子ども観や保育・教育観に気づき、見詰め直す機会にもなります。また「子ども学インターンシップ」では、学内外の保育・教育施設のご協力を得て、定期的に通って実際に子どもたちと関わったり、環境を整えたりし、より実践的に子どもについて学ぶ体験を重ねていきます。これらに加えて教職課程履修者は、教育実習で保育・教育の実践を深く学ぶことができます。

子どもたちと時間をともにしながら、学生自身も育まれています。



◀ 詳細はこちら
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/geijutsu/buyou/index.html>

「芸術の母」と称される身体表現—舞踊— 人間の根源的な表現行動を 実技と理論で探求する

「舞踊は芸術の母である」と称したのは、音楽・舞踊学者のクルト・ザックスでした。舞踊教育学専修プログラムでは、舞踊を中心にスポーツや日常動作にわたる人間の身体活動や表現について、実践を通してながら多角的、総合的にその意義と特性を追究していきます。4年制国立大学のなかで「舞踊」という名称がついた専門コースがあるのは本学だけ。まだ歴史が浅い分野だけに、あなた自身が新しいパフォーマンスや学問領域を開拓することも可能です。これまでに巣立った先輩たちも、芸術・教育などの様々な分野のパイオニアとして活躍しています。

目的 表現行動を多角的に学ぶ

本プログラムはプロのダンサーやスポーツ選手の養成所ではありません。舞踊やスポーツについての歴史と地理的広がり、その構造や思想・美意識、社会的意義と今後の展望、さらに人間の身体のしくみや運動の生理、日常動作を含めた身体運動の動作特性といった内容を学び、研究していくことを目的としています。

また、本プログラムでは中学・高校の保健体育教員免許が取得できます。「陸上競技」、「器械体操」、「球技」、「体づくり運動・武道」といった、中学・高校の保健体育教員免許を念頭においた科目が開設されています。卒業後の進路としては、教職のほか、一般企業（近年はマスコミ、運輸旅行業などが多い）への就職、大学院への進学などが挙げられます。芸術・学術専門職や、舞踊家として公演・教育活動に携わる人も増えてきました。

特徴 実技と理論からのアプローチ

本プログラムの研究分野は、人文・社会・自然科学と多岐にわたっており、多様な講義、演習、実技科目が開設されています。それらの研究分野を縦横に行き来しながら、舞踊を身体、運動、表現、コミュニケーションなどの観点から追究しています。

講義としては、人間と舞踊の関わりを探究する「臨床舞踊論」、理論と実践の両面から研究する「舞踊芸術学」、文化の視点から舞踊を研究する「民族舞踊論」のほか、「スポーツ人間学」「体育原理」「動作学」といった内容の授業を開設しています。実技としては、「モダンダンス・テクニク」「民族舞踊実習」「舞踊上演法実習」「舞踊表現法実習」「舞踊創作法実習」「舞踊教育法実習」に加え、「バレエ実習」「日本舞踊実習」など多様なジャンルの舞踊の実技授業を開設しています。

THE VOICE OF A STUDENT

舞踊から広がる新しい世界

舞踊を実技と理論の両面から捉え、体系的に学問として追求することで、未知の舞踊の世界へと視野が広がり、知的好奇心が一層刺激されています。また、背景の異なる個性豊かな同期15人と創作活動を行う日々は、新しい発見の連続です。大切な仲間と出会えたことに感謝しています。

A・Hさん 3年
第1のプログラム：舞踊教育学専修プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

舞踊の文化的背景を学ぶ

私の研究分野である民族舞踊学では、舞踊がいつ、どこで、誰によって、どのような目的で踊られるのかという文化的背景について研究します。実際の踊りを観察し、時には自身の身体を通して体感することで、その文化特有の身体感覚や世界観を深く理解したいと思っています。

中村 美奈子 准教授
研究分野：民族舞踊学、舞踊記譜法、ダンスとテクノロジー

カリキュラム（専修プログラム）

分野	必修		選択		
	講義	演習・実習	講義	演習・実習	
1 年次		モダンダンス・テクニク（初級） 舞踊創作論実習（即興創作） 民族舞踊実習（基礎）	舞踊学概論 表現行動論Ⅰ		
2 年次	舞踊・運動科学研究法入門 舞踊芸術学 → 1 民族舞踊学（1）（2） → 2 臨床舞踊論 → 3 体育原理 → 5 動作学（1）（2）	舞踊創作法実習（舞踊構成法）	表現行動論Ⅱ 解剖学 生理学（運動生理学を含む）		
3 年次		舞踊・運動科学研究法演習 舞踊教育法実習（中等教育）		舞踊芸術学実験演習（1）（2） 民族舞踊学実験演習（1）（2） 臨床舞踊論実験演習（1）（2） スポーツ文化論演習（1）（2） 動作学実験演習（1）（2） → 4 舞踊創作法実習（舞踊上演・制作）	
4 年次		卒業論文			
1～4 年次	舞踊教育法実習（初等教育） モダンダンス・テクニク（中級Ⅰ・中級Ⅱ・上級） 民族舞踊実習（発展）	舞踊上演法実習（初級・中級・上級） 舞踊表現技法実習 舞踊学特殊講義	運動科学特殊講義 舞踊音楽構成法 球技 体づくり運動・武道	体育心理学 病理学 学校保健 器械体操 陸上競技 水泳実習 バレエ実習 日本舞踊実習	運動学（運動方法学を含む） 衛生学及び公衆衛生学 学校安全と救急看護

科目紹介

1 舞踊芸術学：舞踊を歴史的に概観し、その身体文化の考究を通して有機的統一としての形式である舞踊への理解を深める。上演芸術としての舞踊作品の表現的特性や思想も考察する。

4 動作学実験演習（Ⅰ）（Ⅱ）：動作解析や運動中の各種生理応答を調査・解析する実験演習と、動作学に関する研究論文（英文）抄読の2つを中心に進める。

2 民族舞踊学（Ⅰ）（Ⅱ）：日本と東南アジア地域の舞踊を取り上げ、その文化と社会的な背景への認識を文献講読によって高める。また、映像資料を通して舞踊鑑賞や舞踊動作分析の方法論を学ぶ。

5 体育原理：体育学の専門用語の理解を通して、体育・スポーツの教育的意義、運動文化財としてのスポーツや舞踊の機能・役割について論議できるよう自身の観点を形成する。

3 臨床舞踊論：臨床の現場（学校・病院・地域・スタジオなど）での活動観察や文献、映像資料によって、それぞれの臨床場面における舞踊活動の意義を具体的に捉え、考察する。

教員の研究分野

教授 新名 謙二 スポーツマネジメント（特にスポーツ施設の立地とスポーツ消費者行動）
※2026年度末で定年退職予定。

教授 水村 真由美 身体運動科学（特に運動生理学及びバイオメカニクス）

准教授 中村 美奈子 民族舞踊学、舞踊記譜法、ダンスとテクノロジー

准教授 岡 千春 舞踊教育学、臨床舞踊学

助教 福本 まあや 舞踊学、舞踊芸術学、身体性哲学

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（保健体育）
高等学校教諭一種免許状（保健体育）
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状・資格取得の表をご確認ください。

TOPICS 劇場での舞踊上演とダンスフェスティバルへの挑戦



舞踊教育学コースでは、モダンダンス、クラシックバレエ、日本舞踊などの様々なジャンルの実技授業、そして即興創作や舞踊構成法、舞踊上演・制作などの舞踊創作法実習等を展開しています。毎年4月には舞踊実技の成果発表、特に4年生にとっては卒業公演となる都内劇場での「創作舞踊公演」を開催しています。また、夏に開催される「全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）」においては、学生有志が毎年参加し、これまでに数々の賞に輝いています。

その旋律の背後には
いつも人間の営みがあった
音楽から世界を知り、音楽で世界を考える

音楽の学修は、単に演奏技術や理論的知識の修得にとどまるものではありません。音楽を深く理解するには、音楽の背後にある豊かな人間の営みを捉えることが不可欠です。音楽表現専修プログラムは、日本の総合大学の中でも、音楽を専門的に学ぶことができる数少ないプログラムです。「演奏学」と「音楽学」という深い関わりを持った2つの視点から学びます。人文・社会・自然科学の様々な研究との関連の中での音楽の学問的研究と演奏の実践的修得を重視し、現代に生きる私たちの音楽を、最先端の視点で捉えることを目指しています。

目的 学問と実践の高度な融合

音楽における演奏実践と学術的な探究は本来表裏一体となるべきはのですが、極度に専門分化された現在の音楽教育ではとかくどちらかに偏りがちになってしまっているのが実状です。本プログラムはこうした現状認識の下、音楽学部とも教員養成課程とも異なった独自のカリキュラムで、「音楽学」「演奏学」両方の視野で高度な基礎知識や能力を身につけたうえで専攻を選択し、卒業するシステム構築になっています。また、総合大学のなかの一部門であることから、美術・文学など他分野の芸術や、教育・社会学などについてもより深い知識を得ることが可能です。卒業後は民間企業への就職や公務員・教員のほか、海外への留学や大学院への進学も多く、専門的研究への関心が高いのが特色となっています。

特徴 深い専門性と高い現場即応力を

1・2年次で基礎的な知識や演奏技術を修得、3年次以降は各自の専門に沿った少人数のゼミと個人指導が中心となります。音楽学では、中世から現代までの西洋音楽とともに、日本の伝統的な音楽、アジアや世界のいろいろな地域の音楽について、その背景にある文化との関連のなかで、理論や歴史、美学などを考えます。音楽学の授業はほとんどが英語のテキストを用いるので、十分な英語力が必要となります。演奏学を専攻する場合には、ピアノか声楽を選択します。いずれも各レパートリーのエキスパートである教員の授業があり、プロ奏者を共演者に招聘しての器楽二重奏や、コレペティートウアによるレッスンを重視したオペラ関連科目など、現場に即した形で能力が身につくよう工夫されています。



◀詳細はこちら
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/geijutsu/ongaku/index.html>

THE VOICE OF A STUDENT

ここでしか得られない
学びと喜びがある

「音楽学研究と演奏実技を両方やるなんて大変そう…」と思う方もいるでしょう。しかし、その二つを並行して深めるからこそ、自分の中で「わかる」と「できる」が結びついた瞬間の喜びは格別です。お茶大音楽表現コースだからこそ味わえるこの喜びを、ぜひ体験して下さい！

T・Iさん 4年
第1のプログラム：音楽表現専修プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

「音楽の力」が求められる時代

音楽は言葉で言い尽くせないものを表現したり、人間の営みと深く結びついたり、分断する社会に共感をもたらす「力」を持つと言われる。それは音楽が感性だけでなく、人間の思考にも作用するからでしょう。実技と研究を通して、「音楽の力」とは何かを一緒に探究してみませんか。

井上 登喜子 教授
研究分野：音楽学

カリキュラム（専修プログラム）

分野	基本的な科目	ピアノ→4	声楽→5	音楽学
1年次	ソルフェージュ 音楽形式論 作曲原論 西洋音楽史Ⅰ→1 日本音楽史概論→2	ピアノ基礎 ピアノⅠ	声楽基礎	音楽学概論
2年次	西洋音楽史Ⅱ 民族音楽学→7 現代音楽Ⅰ	ピアノⅡ ピアノ研究演習 ピアノレパートリー研究 ピアノ特別演習 ピアノ合奏研究	声楽発展A 歌曲研究 合唱演習	音楽学研究法
3年次	指揮法 日本音楽演奏法 現代音楽Ⅱ→8	ピアノⅢ ピアノ研究演習 ピアノレパートリー研究 ピアノ特別演習 室内楽研究	声楽発展B 歌曲研究 オペラ研究→6 演奏身体論	音楽学研究演習→3 音楽学各論
4年次	卒業研究 卒業論文演習 卒業演奏研究（ピアノ） 卒業演奏研究（声楽）	ピアノⅣ ピアノ研究演習 ピアノレパートリー研究 ピアノ特別演習	声楽発展C 歌曲研究	音楽学各論

科目紹介

1 西洋音楽史Ⅰ：単旋律聖歌からルネサンスのポリフォニーまでを中心に西洋における音楽の変化を辿ることにより、従来の19世紀の音楽を基準とした音楽観を相対化する。

2 日本音楽史概論：日本の主要な伝統音楽を成立順に取り上げ、その歴史と音楽の特徴を学ぶ。並行して、楽器、音高理論、楽譜も考察する。講義を通じ、現行の伝統音楽の外観を把握する。

3 音楽学研究演習：音楽学の近年の研究成果を踏まえ、様々な音楽の概念や接近の仕方を考える。卒業論文のテーマ設定のための基礎づくりを目指す。

4 ピアノ：基礎奏法の研究を主体としたピアノ音楽の研究に始まり、音楽的、技術的向上を目指し、最後は古典から現代に至るピアノ作品を数多く研究する個人レッスン。

5 声楽：声楽基礎、呼吸法、歌唱法の講義及び演習に始まり、高度なテクニックと表現力を養い、最終的にはホールにおけるより表現豊かな演奏の研究を目指す。

6 オペラ研究：オペラ作品のスコアと台本を音楽的・演劇的・語学的・文学的・心理学的に研究・分析・考察し、歌唱・演技表現法を自ら視覚的に創造する方法論を身につける。

7 民族音楽学：世界の諸民族の音楽について、単なる知識の羅列ではなく、それぞれの音楽に関する様々な考え方、捉え方を理解し、文化的な基盤も合わせて、日本語と英語の文献を使用しつつ考察する。

8 現代音楽Ⅱ：ポピュラー音楽を含む20世紀以降の西洋音楽史の大きな流れを各時代の社会的背景とともに概観し、現代の音楽文化の基盤がどのように形作られてきたのかを考察する。

教員の研究分野

教授 小坂 圭太 ピアノ演奏学
教授 井上 登喜子 音楽学
助教 神保 夏子 音楽学

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（音楽）
高等学校教諭一種免許状（音楽）
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状・資格取得の表をご確認ください。

TOPICS | キャンパスを彩る美しい旋律 学生たちによる演奏活動



音楽表現コースは、本学内でも忙しい学科の一つとされていますが、学生の多くは時間を上手に使って演奏会を企画したり、コンクールに積極的に参加したりするなど、専門分野を活かして充実した学生生活を送っています。また、学内の附属図書館ラウンジでは、七夕やクリスマス、ホームカミングデイなど様々な場でコンサートが開かれます。オペラ公演はコースの恒例行事です。大学内外での自主的な演奏活動なども盛んです。



◀ 詳細はこちら
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/global/index.html>

Comprehension (理解)、 Communication (交流)、 Collaboration (協働)、知と実践が世界を結ぶ

私たちの日常生活は国境を越えた物・情報・人であふれています。グローバル化時代を生きるために、私たちはどのような知識や感性や態度を養えばよいのでしょうか。グローバル文化学環は、従来の専門コースとは異なり、3つの学科(人文科学・言語文化学・人間社会科学科※)のいずれからも主プログラムとして志望できるコースで、多様な専門領域にまたがる教員が所属しています。目指すのは、文化の差異を理解し、大切にしながら、その差異を超えて協働して何かをともにつくりだす、グローバル社会の新しい市民です。グローバル文化学はその先達となる人材の輩出を目指す、新たな知と実践の学問です。

目的 3つのCがキーワード

グローバル文化学では3つのCで表現される学際的なカリキュラムが組まれています。
「地域研究・地域文化」領域:グローバル化で変容する地域の社会や文化を「理解」(Comprehension)する方法を学びます。
「多文化共生・多文化社会」領域:多様な文化を持つ人たちと「コミュニケーション」(Communication)するための理論と方法に心理的・言語的な側面からアプローチします。
「国際関係・国際協力」領域:お互いの文化や価値の違いを十分に理解し、国家や文化を越えて「協働」(Collaboration)するための課題と方法を学びます。
卒業後の進路は、国際機関やNGO、企業、マスコミ、公務員、教員など多彩です。大学院へ進学し専門的技量を磨く人もいます。

特徴 多様な価値観を育てる

「地域研究・地域文化」「多文化共生・多文化社会」「国際関係・国際協力」の3つの領域の専門科目のほか、グローバル・ヒストリー、グローバル化と経済、多文化間交流論などの基礎科目も揃っています。英語での講義もあれば、ディベートやアクティブラーニングを積極的に取り入れたインタラクティブな演習、実際に国内や海外の現場に出かけて行って人々や地域のあり方を学ぶ体験型の実習なども含まれています。
そのうえで4年次では、フィールドワークや実習の経験を踏まえ、各自の個性を発揮しながら学修の成果を卒業研究に結実させます。教員・学生仲間とのコミュニケーションを通じて、国際交流・国際協力や社会の様々な場で活躍するために必要な知識や態度を学びます。

カリキュラム (主プログラム)

分野		地域研究・地域文化	多文化共生・多文化社会	国際関係・国際協力	実習
基礎	1～2年次	グローバル文化学総論 → ❶ グローバル文化学方法論 フィールドワーク方法論 文化理論研究 イスラム社会文化論Ⅰ → ❷ アジア社会とジェンダーⅠ → ❸ 文化変動論Ⅰ 中国社会文化論 アフリカ社会文化論 東南アジア社会文化論 オセアニア社会文化論 対日交流論 地域研究特論	言語と社会 言語と文化 多文化間交流論 多文化共生論 → ❹ 文化と人間関係 グローバル化と言語教育Ⅰ 表現行動論Ⅰ・Ⅱ 国際交流論Ⅰ・Ⅱ 多文化交流特論 子どもの日本語教育学概論 英語圏事情	国際関係論 政治学総論Ⅰ・Ⅱ 国際協力学 → ❺ グローバル化と経済 → ❻ 平和構築論Ⅰ 国際協力方法論Ⅰ グローバル化と労働Ⅰ 地域開発論 国際機構論 国際教育協力論 NGO/NPO 論 国際金融論 国際開発論Ⅰ・Ⅱ 国際協力特論	地域研究実習Ⅰ～Ⅱ 多文化交流実習Ⅰ～Ⅳ 国際協力実習Ⅰ～Ⅲ グローバル文化学実習Ⅰ・Ⅱ
	3～4年次	グローバル文化学特論 卒業研究	イスラム社会文化論Ⅱ → ❷ アジア社会とジェンダーⅡ → ❸ 文化変動論Ⅱ	グローバル化と言語教育Ⅱ 平和構築論Ⅱ 国際協力方法論Ⅱ グローバル化と労働Ⅱ	

※グローバル文化学プログラムは、文教育学部の人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科から主プログラムとして選択できます。
(人間社会科学科の場合、入試出願時に「人間社会科学科」を選択した学生のみが対象です。詳しくは本学Webサイトに掲載している「人間社会科学科出願時の注意事項」を確認してください。)
※グローバル文化学を主プログラムとして履修する場合は、第2のプログラムとして、所属する学科のいずれかの副プログラムを履修します。
他の主プログラムを履修する場合には、第2のプログラムとしてグローバル文化学学際プログラムを選択・履修することもできます。
※複数プログラム選択履修制度についてはP014、015を参照ください。
※詳細はグローバル文化学環のWebサイトをご覧ください。

科目紹介

- ❶ **グローバル文化学総論**: 国境と文化を越えた相互理解の必要性和、その知的解決法と態度について、歴史学、政治経済学、国際社会学、日本語教育など多様な切り口から考察する。
- ❷ **イスラム社会文化論**: 宗教としてのイスラムを構成する多面的な要素を学術的な視点から理解したうえで、中東・西アジア地域の社会と文化の過去と現在の実態を、比較と連関の視点から考える。
- ❸ **アジア社会とジェンダー**: 中国文化圏を中心に、近現代東アジア社会におけるジェンダー関係の変化を、植民地化と戦争、労働、セクシュアリティといったトピックに関連づけながら考察する。
- ❹ **多文化共生論**: 多文化社会において異文化間交流の現実を分析し、多様性の尊重と共生とは何かを探る。当事者の視点を取り入れその現状と課題を多角的に検討していく。
- ❺ **国際協力学**: 国際機関・国家・NGO等の多様なアクターの役割に注目しながら、国際協力の仕組みや開発理論・政策について学ぶ。市民による国際協力のあり方、関わり方も模索していく。
- ❻ **グローバル化と経済**: This class explores the phenomenon of economic globalization, focusing on both the global economy's historical development and the challenges it faces today.

教員の研究分野

教授(兼任)	倉光 ミナ子	オセアニア地域研究、人文地理学	准教授	キャロル・マイルズ	国際政治経済学、現代日本研究
准教授	阿部 尚史	中東研究、イラン史、家族史、文化史	講師	王 一瓊	多文化共生論、社会言語学
准教授	荒木 美奈子	開発研究、アフリカ地域研究	助教	大森 優美	平和・紛争研究、国際社会学
准教授	大橋 史恵	ジェンダー研究、中国地域研究、国際社会学			

TOPICS | 文化を越えた協働を実地で学ぶ「実習」



グローバル文化学プログラム(通称「グロ文」)の特色はなんと言っても「実習」にあります。アジアの都市や農村を訪れ、国際協力の現場を肌で感じる「国際協力実習」、多文化共生の現場の訪問や海外の学生との交流を通して、相互理解を深めていく「多文化交流実習」、日本国内を日帰りまたは数日宿泊して訪ねて、その地域が直面するグローバル化の現状や課題を学ぶ「地域研究実習」など、多彩なメニューがあり、心を揺さぶられる体験が待っています。

THE VOICE OF A STUDENT

世界を見つめ、自分と向き合う

世界で起きていることは遠い出来事ではなく、日本や私たちの生活とつながっていると実感しました。そのつながりを多様な視点から学び、自らの立ち位置を問い直すことができます。世界を他人事にせず、自分の立場から向き合いたい人にとって、多くの問いと仲間に出逢える場所です。

Y・Sさん 4年
第1のプログラム: グローバル文化学主プログラム
第2のプログラム: 社会学副プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

西アジア・中東はなぜ遠いのか?

一般的に日本では西アジア・中東は遠いというイメージが強いが、地理的な距離では欧州や北米よりもずっと近いところが多い。ではなぜ遠く感じるのか? またなぜ欧米を物差しに日本を見るのか? こうした違和感に正面から向き合って、変わりゆく世界の実態に迫っていきましょう。

阿部 尚史 准教授
研究分野: 中東研究、イラン史、家族史、文化史



理学部

■数学科 ■物理学科 ■化学科 ■生物学科 ■情報科学科

自然の原理を解き明かしていく
理学の世界
幅広い理学の教育と研究で、
科学の明日を創る

理学とは自然界の構造や現象の不思議や謎を探究する学問です。近年の先端科学であるゲノム解析、環境保全、金融工学などでは、様々な分野の協力による問題解決が必須となっています。その基礎をなすのが理学の幅広い知識です。理学部は数学、物理学、化学、生物学、情報科学の5学科で構成されています。人類の英知がこれまで蓄積してきた理論や知識を深く知り、新たな謎に挑むための「こころ」を養い、探究のための方法を学びます。自然と人間の活動に関わる様々な場面で発揮できる力を培う教育です。学内には伝統的な学問から最先端の研究に至るまで幅広くカバーする学内共同教育研究施設が整備され、学生との密接な距離を保ちながら理学の幅広い分野にわたり最先端の研究を行っています。150年にわたって理系女子の源流として多くの専門職業人や科学者、教育者を輩出してきた伝統を踏まえ、「誰もが認める優れた理系女子」を育て、その活躍を支えることで、社会への貢献を目指しています。

学部Webサイト
<https://www.sci.ocha.ac.jp/>

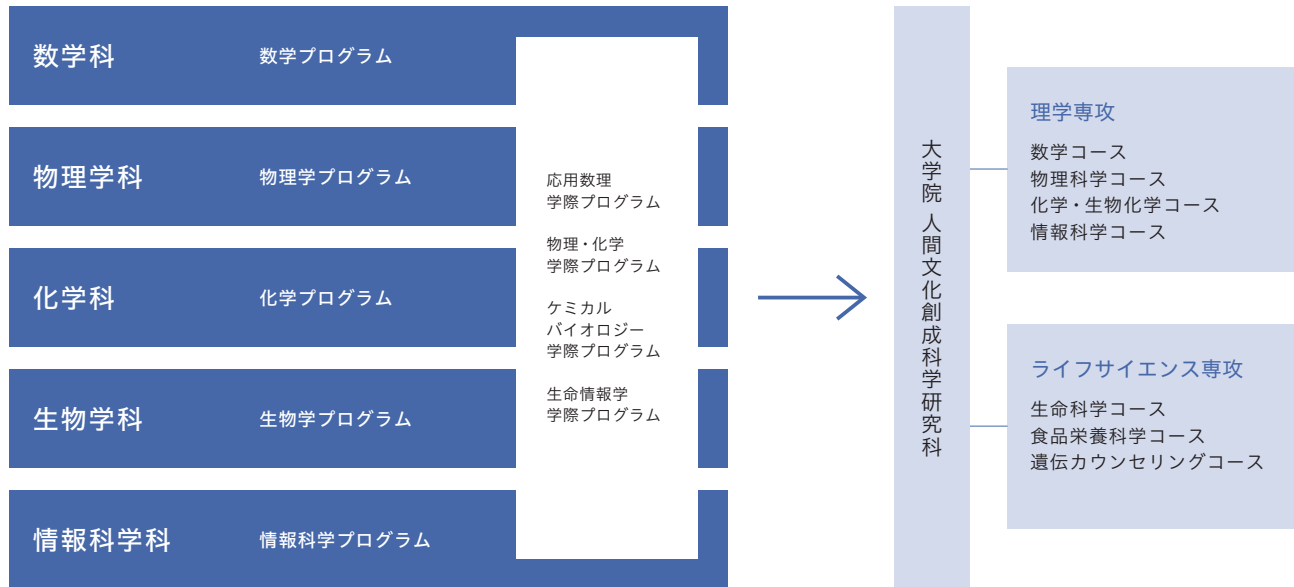


【アドミッション・ポリシー】

理学部は、基礎科学の分野を研究対象として、主に自然界の原理や法則の追究を行うところです。女子大学の数少ない理学部として、知的好奇心溢れる女性を受け入れ、次世代のリーダーあるいは中核となる人材を育成し、社会に輩出することを目指しています。

本学部志望者には、高校において、理系科目（数学、理科〔物理、化学、生物〕）を学び、論理的思考力を身につけるようにすること、及び、自然科学の基礎知識を習得しておくことはもちろんのこと、文系科目（英語、国語、社会）も幅広く履修し、筋道の立った文章が書けることなどが望まれます。「総合型選抜」「帰国生徒・外国学校出身者特別選抜」においては、志望学科に関係する各種コンテストなどで活躍した実績も評価します。

理学部から進学実績が多い大学院専攻課程



※理学部を卒業する際に学士（理学）が授与されます。

※理学領域の新たな領域融合型・学際型の専門領域に即応し、先端研究分野等で要請される新しいタイプの専門を学ぶために、以下の4つの学際プログラムが選択できます。

①応用数理学際プログラム ②物理・化学学際プログラム ③ケミカルバイオロジー学際プログラム ④生命情報学学際プログラム

ただし、文教育学部、生活科学部、共創工学部所属の学生は一部学科・コースの学生のみ履修可能です。（P087参照）

理学部の特徴

理学の専門家を育成

お茶の水女子大学理学部では、理学への入り口としての5分野（数学、物理学、化学、生物学、情報科学）を設けています。その分野の専門教育を行うために5つの学科が設置されています。各学科での教育が目指すものは、それぞれの分野において、社会が求める高度な専門知識を身につけた人材の育成です。

多様な教育システム

お茶の水女子大学の専門教育の特徴は、「複数プログラム選択履修制度」と名付けられた学修システムです。これは、専門性の深化と多様化の両方を可能にできる優れたシステムです。理学部の場合、5つの分野の入り口から入って、そこでの専門知識をとことん追求したいという人、すなわち、専門性を深化させたいという人には、各学科の「主プログラム」を学んだ後に、同じ学科の提供する「強化プログラム」に進んでもらいます。一方で、理学に含まれる多くの分野を広く学びたいという人、すなわち、多様な専門性を身につけたいという人には、「主プログラム」で一つの分野の基礎固めをした後に、他の学科が用意する「副プログラム」を選択することができます。また、複数の分野の専門家が協力して開発した「学際プログラム」を選択することで、既存の分野にはない専門性を身につけることも可能です。

このような履修プログラムと並行して、理学部独自の試みである「卒研シフト」を利用して専門性を広げることもできます。これは、自分の所属する学科の枠を超えて、別の分野の先生の指導のもとに卒業研究を行うものです。すでに多くの学生がこの制度を利用し、それぞれが自分の専門性の新たな開発に挑戦してきています。

一人ひとりが輝く教育

お茶の水女子大学理学部では、教員は一人ひとりの学生のすぐ近くにいます。少人数のクラス単位での授業（講義）は、参加者の表情を確認し、それぞれの反応を確かめながら進められます。理学部の教育

では、実習や演習がたくさん用意されていますが、そこでも、少人数ならではの濃密な指導が行われます。また、実習機材も充実しており、思う存分実験ができます。「自分の実験は自分でやる」というのがお茶の水女子大学理学部の大原則です。これに従って、最先端の機器を自分自身で操作する機会も多く体験できます。

充実した施設・設備

理学部の教育・研究を支える施設も充実しています。たとえば、情報処理システムの運営と支援を行う「情報基盤センター」、海洋生物・環境研究の前線基地としての「湾岸生物教育研究所」、物質科学や生命科学の研究を支える大型機器を管理運営する「共通機器センター」、家庭におけるコンピューター利用を研究する「ユビキタス・コンピューティング実験住宅（Ocha House）」などがあります。また、動物実験施設や、遺伝子組換え実験室等も、理学部の活動を強力に支援しています。この他にもヒューマンライフサイエンス研究所をはじめ多くの研究センターが設置されており、実際の研究の最前線に参加することで、より深化した専門性を身につけることが可能です。

さらに、様々な国立の研究機構や、国内外の多くの大学とも連携した取り組みを行っており、より広い視野に立った教育・研究を展開しています。

理系女子の源流

お茶の水女子大学理学部は理系女子の源流として、社会で先導的な役割を果たす多くの科学者・教育者を世に送り出してきました。卒業後の進路として大学院進学を選ぶ学生も多く、学部・大学院を通して卒業生は高い割合で希望する職業に就いており、その活躍分野は多岐にわたります。

また、多くの卒業生が教員となって理学部の教育に携わっています。活躍する女性として、そして科学者としてのロールモデル（お手本）を身近に感じながら自らを磨き上げることができます。

数学とは科学の世界の言葉です
発展し続ける数学の美に触れましょう

数学とは科学の世界の言葉です。自然科学はもちろん、社会科学などの諸科学においても、数量的あるいは図形的内容の表現や記述に不可欠なものです。現代数学の基礎を学び、数学的思考力を身につけ、日々発展し続ける数学の美に触れましょう。1年次から2年次前半は数学的な思考法・表現の修得と同時に、数学の面白さ・有用性を学びます。2年次後半から数学のあらゆる分野で必要になる代数・幾何・解析の基礎を本格的に学修します。3年次には幅広い分野の講義が演習とともに展開され、4年次には数学講究（セミナー）が開講されます。教員の研究分野は数学の広い範囲をカバーしています。

目的 数学的理論思考を身につけた人材の養成

数学科の目的は、教育内容を自ら構築できる教員、専門的技能を有する創造的職業人、基礎研究に従事する研究者など社会に主体的に貢献する人材の育成です。
数学を学び研究しようと志す女性に対して、現代数学の基礎教育を施し、高度な職業人や研究者として、さらには自ら学んでいける素地を育むこと、あるいは各教科、特に数学講究を通じて数学的理論思考を身につけた、社会における有為な人材を輩出することなどを目指しています。卒業生の進路は、ここ数年、就職者数と進学者数がほぼ同数ですが、大学院を目指す人が増えてきています。主な就職先は情報通信関連や金融関連の企業、中・高教員や公務員などです。就職状況は良好で、就職希望者は全員就職しています。

特徴 少人数教育による細やかな対応

専門科目の授業は1年次4月から始まります。1学年の定員は20名ですから、必修科目でも20名ほど、選択科目になればさらに少人数で行われることになり、教員は学生の様子がよくわかります。学生2～3名に対して1教員の割合で担当教員を決め、勉強や生活全般の相談にのる「スーパーバイザー制」を採用し、よりきめ細かい指導を行っています。
4年次の必修科目である数学講究では、4名以下の少人数のグループに分かれて、希望する教員のもとでセミナーを行います。年度末にはその成果を見るゼミ発表会が開かれます。論文や専門書を読み、その内容を指導教員の前で黒板などを使いながら説明・解説するというのが一般的なゼミの形態です。



◀ 詳細はこちら
<https://www.sci.ocha.ac.jp/ug/math/index.html>

THE VOICE OF A STUDENT

主体的に楽しく学べる場

大学数学は高校数学にくらべ抽象的な議論が増えますが、奥深い数学の世界は魅力的です。少人数制ならではの温かい雰囲気によって先生に質問がしやすく、数学科の友達と真剣に議論ができる環境も整っています。恵まれた環境で楽しく数学を学ぶことができます。

N・Sさん 4年
第1のプログラム：数学主プログラム
第2のプログラム：数学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

数学の世界へようこそ

数学には多くの分野があり、現在も日々研究が活発に進められています。私は結び目理論や3次元多様体論といったトポロジーの分野で研究を行い、DNAや材料科学の課題解決に応用しています。皆さんも数学科で様々な数学を学び、是非新しい発見に挑戦してください。

下川 航也 教授
研究分野：位相幾何学



カリキュラム（主＋強化プログラム）

	主プログラム		強化プログラム	
1 年次	◎ 集合論 1・2 ◎ 線形代数学 1・2・3・4 ◎ 微分積分学 1・2・3・4 初等代数学 確率序論		コンピュータシステム序論	
2 年次	◎ 線形代数学 5 線形代数学 6 ◎ 微分積分学 5 微分積分学 6 ◎ 位相空間論 1・2→4	◎ 群論 1・2→1 集合論 3 ベクトル解析 数理解析序論	数学英語 グラフ理論 数理構造特別講義Ⅵ～Ⅹ 数理逍遥Ⅰ～Ⅳ 数学演習Ⅵ～Ⅹ	
3 年次	◎ 関数論 1→2 ◎ 多様体論 1→3 ◎ 積分論 1 ◎ 環論 数学輪講	関数論 2→2 多様体論 2→3 積分論 2 微分方程式論 関数解析	微分幾何学 位相幾何学 確率論→5 組み合わせ論 体論	暗号と符号 加群と表現 計算量理論 数理統計学 数理構造特別講義Ⅱ～Ⅴ
4 年次	◎ 数学講究		ガロア理論 フーリエ解析とラプラス変換 関数論統論 数理構造特別講義Ⅰ	

※ ◎：必修 無印：選択

科目紹介

1 群論：様々な数学的対象の対称性を代数的に記述する理論が群論である。群の定義やその典型例を学び、さらに準同型定理、有限生成アーベル群の構造定理などの基本定理について学ぶ。

2 関数論：複素平面上に定義された複素数値関数、特に正則関数の基本的性質を学ぶ。Cauchyの積分定理という簡明にして強力な定理と、それに関連する諸定理を中心に扱う。

3 多様体論：曲線や曲面を一般化した概念が多様体である。その上で定義される関数、写像、接ベクトル、ベクトル場等に関する基礎的事項を学ぶ。

教員の研究分野

教授	横川 光司	代数幾何学
教授	萩田 真理子	離散数学
教授	竹村 剛一	可積分系、特殊関数
教授	下川 航也	位相幾何学
准教授	戸田 正人	幾何学周辺
准教授	大場 清	位相幾何学
准教授	久保 隆徹	偏微分方程式論
准教授	篠田 万穂	力学系理論、エルゴード理論
准教授	千葉 優作	多変数複素関数論
准教授	ツァン シンイー	群論、代数的整数論
講師	植木 潤	数論的位相幾何学

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（数学）
高等学校教諭一種免許状（数学）
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状・資格取得の表をご確認ください。

TOPICS | 時には楽しく、時には真剣に学生と教員のふれあいスペース



数学のような理論系の学問では、実験系の研究室のようなものはありません。そのため、学生と教員の交流の機会が不足しがちです。そこで数学科では学生も教員も誰でも気軽に訪れて自由に語り合える談話室と、数学議論のためのディスカッションルームを設置しました。授業の合間に、放課後に、多くの学生たちが集う、和やかなコミュニケーションスペースとなっています。

理論と実験、仮説と実証を積み重ねる
その先にある、永遠の真理を見つけるために

宇宙をつくった永遠の真理。それは時間空間を超越し、地上の至るところに多様な
たちで現れています。自然界に起こる様々な現象をモデル化・理論化し、新しい現象の予
言をし、実験で確かめることによって真理を発見する。そうして物理学は実証学問とし
て発展してきました。変わることのない真理を探究し、物質や宇宙が秘める謎を解明し、
未知のものの創造に挑む物理学の世界は、刺激的な楽しさに満ちています。物理学科で
行われている研究は、宇宙理論、物性理論・実験、統計力学理論、素粒子理論・実験の各
分野の幅広い領域をカバーし、少人数制で密度の高い教育を実践しています。

目的 物理のプロを目指して

物理学の基礎から応用に至るまでの一貫した教育・研究によって、物理現象を理論と実験の双方向から
直感的かつ理論的に探究する能力を養成します。これは、単に物理学の研究能力の向上にとどまることでは
ありません。「物事の法則を発見し、それを応用する能力」であり、人生の様々な場面で出会う問題を還元
論的・多元的な視点から見据えて問題解決できる、高い能力を身につけることを意味しています。

多彩な物理学の教育・研究を通して、社会の各分野において時代を先導する女性の育成を目指していま
す。卒業生の約7割が本学または他大学の大学院に進学し、研究者等を目指して研究を続けます。卒業後
はメーカー、情報産業、教職、出版社、大学・研究所など多彩な分野で活躍しています。

特徴 最先端の研究に触れ物理を楽しむ

1年次から専門的な物理の授業があります。2年次になると学生実験が始まり、物理学の基礎とな
る基本的事項を確認する実験を、3年次ではその応用として超伝導やカオス、原子間力顕微鏡など最
新の研究の入門的な実験を行い、実証論的な考え方を養い、しっかり基礎を固めます。4年次の特別
研究では研究室に所属し、物理をする楽しさと感動を味わいます。また、最先端の研究に早い段階で
触れることができるように、3年次の後期から研究室に所属して学ぶことができます。さらに優秀な
学生は3年次を終えた時点で本学大学院博士前期課程に進学することも可能です。

他大学との単位互換、海外の大学への留学など、より広い視野から物理を学ぶこともできます。



◀ 詳細はこちら
<https://www.sci.ocha.ac.jp/ug/phc/index.html>

THE VOICE OF A STUDENT

理論でつながる世界を学ぶ

大学の物理学では、広大な宇宙から小さな
素粒子までを理論的に探求します。日常の何
気ない現象も数式で解き明かす瞬間にこの学
問のおもしろさを感じています。少人数なら
では、先生方・学生の距離の近さにより、
学びやすい環境が整っていることも大きな魅
力です。

H・Mさん 3年
第1のプログラム：物理学主プログラム
第2のプログラム：物理学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

巨人の肩の上に立つという醍醐味

私の研究では、物性を基盤にスピンなどの
輸送変換、マイクロ・ナノでの電気機械応答
の新奇発現を実験しています。大学物理では、
先人の膨大な知識を学び、身に付け、単純な
自然法則と複雑な相関の知見で、最先端に挑
戦することになるでしょう。その醍醐味を味
わいに来てください。

高橋 遼 講師
研究分野：スピントロニクス

カリキュラム（主＋強化プログラム）				
分野	主プログラム		強化プログラム	
	講義	実習・演習	講義	実習・演習
1年次	◎古典力学 ◎解析力学 ◎電磁気学Ⅰ ◎電磁気学Ⅱ ◎物理数学Ⅰ→1 ◎物理数学Ⅱ→1	物理英語 初等解析Ⅰ 初等解析Ⅱ 初等線形代数学 宇宙・地球科学 大気・海洋科学概論	◎力学演習 ◎電磁気学演習 化学基礎実験 生物学基礎実験 地学基礎実験	
2年次	◎量子力学Ⅰ→2 ◎量子力学Ⅱ→2 ◎熱力学→3 ◎数理物理学 ◎力学系理論	◎基礎物理学実験→4 ◎量子力学演習 ◎物理数学演習	物理実験学 相対論 物性物理学序論 放射線基礎講義	
3年次	◎統計力学 ◎量子力学Ⅲ	◎統計力学演習→5 ◎物理学実験	固体電子論 素粒子物理学 基礎エレクトロニクス 宇宙物理学 流体物理学 量子光学 場の量子論 相転移物理学 連続体物理学→6 ソフトマター物理	計算物理学講義・演習 物理学基礎研究
4年次		◎特別研究	凝縮系物理学 原子核物理学 物理学特別講義Ⅰ～ⅩⅩ	

※ ◎：必修 無印：選択

科目紹介

1 物理数学：1・2年で修得する力学、電磁気学、量子力学、熱・統計
力学に関連した数学を中心に学ぶ。道具として使えることを目標に、
計算力養成、直感的理解に重点を置く。

2 量子力学：現代物理学の基礎である量子力学の基本を理解する。物
理量と状態の考え方を理解し、物理量の測定や不確定性関係、ハイゼ
ンベルグ方程式などの概念の理解を目指す。

3 熱力学：熱のやりとりを含むマクロな世界の物理化学現象を普遍的
に記述できる熱力学の基礎を論理的に展開し、熱力学の法則を学び、
エントロピーの概念と意味の理解を目指す。

教員の研究分野

教授	出口 哲生	数理物理学、物性基礎論、統計物理学
教授	小林 功佳	物性理論、固体物理、表面物理
教授	古川 はづき	強相関電子系の物性実験(超伝導、ペロブスカイト型Mn酸化物等)
教授	奥村 剛	理論物理学(特に化学物理、ソフトマター、場の理論、統計力学周辺)
教授	曹 基哲	素粒子理論
教授	河野 能知	高エネルギー物理学実験、素粒子物理学実験
准教授	北島 佐知子	非平衡量子統計力学(量子系の不可逆過程、量子通信等)
准教授	左右田 稔	固体物性実験(磁性体、マルチフェロイクス等)
講師	高橋 遼	スピントロニクス
講師	藤田 智弘	宇宙物理学
講師	赤城 裕	物性物理学(理論)
助教	梅原 利宏	物性実験(特に生体及び生体高分子のまわりの水に関して)

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状(理科)
高等学校教諭一種免許状(理科)

※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状・資格取得の表をご確認ください。

TOPICS | 学外にも広がる研究の場 他研究機関との緊密なネットワーク



物理学科では、加速器実験施設などの国内外の研究機関と連動し、広い
フィールドでの研究活動に参加できる教育・研究環境を整えています。ま
た、学内に設立されたソフトマター教育研究センターは、国内有数の研究
拠点となっています。

高速カメラに自作顕微鏡レンズを組み込んだ最先端の撮影システムによってとらえた、液気界面付近に
連なったバブルの様子(奥村研究室(当時)村野真由子さん撮影)

生命現象からコンピュータケミストリーまで 森羅万象も先端科学も、 すべては分子・原子の世界から

自然界は、様々な物質から成り立っています。化学は、物質の性質や反応を原子・分子の視点から理解し、得られた知識を体系化する学問です。私たちの身の回りにある高機能材料、医薬品、化粧品、食品などは、化学と深く関わっており、化学は新たな物質を生み出す基盤となっています。化学の基礎を修めることにより、物質科学、材料科学、生命科学など、様々な分野の先端研究へと知識を発展させることができます。きめ細かな指導のもと、化学の基礎から応用、最先端の研究へと段階的に学びを深め、主体的に研究を進める力を養います。

目的 化学の基礎から応用まで

本学科では、物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、生物化学などを幅広く学びます。座学で学んだ理論を実験で確かめ、体感しながら理解を深めていく学修プロセスが特徴です。

1年次から3年次にかけては、講義、演習、実験を通じて化学の基礎を徹底して学びます。基本的な実験操作やデータ解析の手法を身につけるとともに、研究の基盤となる知識や技術、思考力を養います。4年次では研究室に所属し、特別研究（卒業研究）に取り組みます。一人ひとりの興味関心に応じて設定される最先端の研究テーマを推進することにより、未知の課題に挑む面白さを味わい、自ら課題を見つけ解決する力を身につけることができます。教員の研究分野は理学、工学、薬学など多岐にわたっており、化学研究の広がりや奥深さを実感することができます。

特徴 分野の垣根を超えた最先端の研究

本学科では、全教員の研究内容や研究環境に直接触れる機会があり（化学特別ゼミなど）、4年間を通して最先端の研究を身近に感じることができます。また、学年を越えた在学生同士の交流や、化学科独自の同窓会組織（桜化会）を通じた卒業生との交流の機会も多く設けられており、一人ひとりに合わせた助言を受けながら、将来を見据えて勉学に励むこともできる点も特徴です。

卒業後は、大多数の学生が大学院博士前期課程へ進学します。化学の専門知識とそれを応用する実践力をバランスよく身につけ、専門を活かした化学、製薬、化粧品、エネルギーやモビリティ関連企業などの研究開発職のほか、官公庁、教育業界、情報通信業界など、多彩な分野で活躍しています。中学校および高校の理科の一種免許状や学芸員の資格取得も可能です。



◀ 詳細はこちら
<https://www.sci.ocha.ac.jp/ug/chemhp/index.html>

THE VOICE OF A STUDENT

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

分子スケールで捉える化学の魅力

身のまわりで起こる化学現象には必ず理由があります。大学では分子レベルのミクロな視点で化学を学びます。その学びが日々の生活と結びついたとき、一段と化学の面白さに気づくことができます。講義や多くの実験を通して化学の魅力や奥深さを感じてみませんか？

O・Mさん 4年
第1のプログラム：化学主プログラム
第2のプログラム：化学強化プログラム

分子の世界を見つめる

化学は、目に見える現象の背後にある分子のふるまいを探る学問です。私たちの感覚では捉えられない時間の中で、分子は絶えず動き、相互作用の中で変化を生み出しています。計算化学は、その超短時間の運動を可視化する手段です。分子の動きを手がかりに、物質の本質に迫ります。

黒木 菜保子 助教
研究分野：理論化学、溶液物理化学

カリキュラム（主＋強化プログラム）				
分野	主プログラム		強化プログラム	
	講義	実習・演習	講義	実習・演習
1年次	◎無機化学Ⅰ 基礎化学A 基礎化学B	◎基本化学実験Ⅰ→ ¹ 化学特別ゼミ→ ³		
2年次	◎物理化学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ◎分析化学Ⅰ ◎無機化学Ⅱ ◎有機化学Ⅰ・Ⅱ ◎生物化学Ⅰ・Ⅱ 化学英語→ ⁴	◎基本化学実験Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ→ ¹		
3年次		◎専門化学実験Ⅰ～Ⅴ→ ²	◎分析化学Ⅱ ◎有機化学Ⅲ ◎分子分光法 物理化学Ⅳ 無機化学Ⅲ	有機化学Ⅳ 量子化学 生物物理化学 無機化学特別講義Ⅰ 生体分子機能・反応学
4年次		◎特別研究Ⅰ・Ⅱ→ ⁶ ◎化学演習Ⅰ・Ⅱ→ ⁵		

※ ◎：必修 無印：選択

科目紹介

- 1 基本化学実験**：基本的な化学実験を通じて、専門化学実験を履修する上で必要となる基礎的な実験技術（秤量操作、器具や試薬の取り扱い、物質抽出、機器測定など）と知識を身につける。

2 専門化学実験：物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、生物化学の専門的な実験を行う。先端的な分析機器を使用した実験に加えて、物質の特性や構造に関する情報検索など、研究の基盤となる知識、技術、思考力を学ぶ。

3 化学特別ゼミ：新入生が少人数のグループに分かれ、化学科全教員の研究室を訪問し、教員毎にゼミ形式の授業を行う。化学の基礎知識を修得し、研究への関心を高める。
- 4 化学英語**：演習形式で、化学英語を身につける。化学の専門用語や化学英語ならではの表現、文法などに慣れ、英語論文の読解力の向上を目指す。

5 化学演習：研究室に配属された4年次学生が、卒業研究に関連した学術論文を読み、理解し、プレゼンテーションするゼミ形式の演習。知識を深め、専門英語の読解力を養う。

6 特別研究：各指導教員の助言を受けつつ、個別の新しい研究テーマについて、研究の背景や目的を理解したうえで、自ら研究計画を立て、卒業研究に取り組む。

教員の研究分野			取得できる主な教員免許・資格	
教授	近藤 敏啓	電気化学、界面物理化学、自己組織化	中学校教諭一種免許状（理科）	※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状・資格取得の表をご確認ください。
教授	相川 京子	細胞生化学、糖鎖科学、タンパク質科学	高等学校教諭一種免許状（理科）	
教授	棚谷 綾	超分子化学、創薬化学、構造有機化学	学芸員	
教授	矢島 知子	有機化学、有機フッ素化学		
教授	宮崎 充彦	物理化学、分子分光学		
准教授	近松 彰	固体物理化学、固体反応化学		
准教授	伊村 くらら	ナノ材料化学、コロイド界面化学		
准教授	三宅 亮介	錯体化学、超分子化学、生体関連化学		
准教授	大金 賢司	生命化学（化学生物学・化学遺伝学）、医薬化学		
准教授	桑原 拓也	典型元素化学、構造有機化学、有機金属化学		
講師	平野 泰弘	分子生物化学、高分子分光学		
助教	黒木 菜保子	理論化学、溶液物理化学		

TOPICS | 高度な大型実験装置による実験も研究のすべてを自分の手で



化学現象の本質を調べたり、合成した分子を確認するときは、様々な測定手段を用いる必要があります。小規模な学科ですが、必要な最先端の測定装置はほぼすべて揃っています。また、これら最先端の機器は、小規模ゆえ全員に操作時間を十分にとることができるため、機器操作や測定方法に関する技術を実地でしっかりと修得することが可能です。こうした基礎的な力を学生時代に積み重ねることが、研究者としての高い実力を養成することにつながります。

神秘的なまでに美しい原理がそこにある 先端の研究環境で、生命のしくみを解き明かす

生物学は、多種多様な「生き物」の複雑で多彩な生命現象を研究する学問です。その大きな特徴は、生命の本質を究明しようとするに加えて、多様性を扱うことにあります。たとえば比較生理学という生物学の分野があり、比較形態学、比較内分泌学という分野もあります。これらは、生物の機能や構造に大きな違いがあることを認めた上で、それらを比較することで生命活動の根源に迫ろうとするものです。一方で、生命の共通原理を探ることも生物学の目標のひとつです。多種多様な生命活動を可能とする原理とは何か。それを突き詰めれば、地球上の生命体の存在を再定義することになるでしょう。

目的 多様な個性を伸ばす

神秘的に見える生命現象の背後には、美しいほどの精緻な原理や理論が潜んでいます。生物学科では、この21世紀に残された宝の山とも言える生物を体系的に学べるだけでなく、最先端の研究に参加することができます。様々な生物について、遺伝子や細胞などのミクロなレベルから、個体や集団、生態系などのマクロなレベルまで、幅広く研究対象にしています。

生物学科では「学生の数だけ才能がある」を信条に、生命を深く理解するための鋭い感性、洞察力、創造力を備えた個性豊かな人材の育成を目指し、きめ細かな指導を行っています。1年次から研究室に入って研究できる制度も研究志向の学生をサポートします。卒業生のおよそ8割が大学院に進学し、修了後は企業や国公立の研究機関、大学などで研究者として活躍しています。研究職以外の就職先も、食品、医薬、銀行、シンクタンク、IT関連、教職など多彩です。

特徴 実習重視で実践力を育成

1・2年次には生物学の基礎分野の講義と基本的な実習によって核となる知識、理解力、論理力、実験手法を修得します。3・4年次では分子細胞生物学領域・生命情報学領域・多様性生物学領域の3つの領域を中心とした専門的な実習及び特別研究を通して、実践力を身につけます。実習の対象は、野外の海洋生物や植物から、顕微鏡で観察する微小な生物や細胞、さらには遺伝子やタンパク質の分子レベルにまで及び、広範囲かつ高度な内容となっています。一人ひとりが自由に使用できる顕微鏡などの実習機器と、最先端の研究設備を充実させ、学生の知的探求心をしっかりと育む環境を整えています。

教育を担当するのは、それぞれの専門分野で活発に研究を行っている教員陣です。発展し続ける現代生物学の最前線に触れることのできる講義や実習を提供しています。1年次から研究室に参加して、実践的な研究を始めることもできます。



◀詳細はこちら
<https://www.sci.ocha.ac.jp/ug/bios/index.html>

THE VOICE OF A STUDENT

生命の不思議に魅せられて

生物学を学ぶほど、分子レベルの仕組みから個体の生命活動まで、その不思議さに圧倒されます。未知の領域が多いからこそ探究の甲斐があり、生命の奥深さに魅了される毎日です。本学での学びを通じ、生命現象を論理的に解き明かす姿勢と、専門的な洞察力を培っていきたいです。

T・Mさん 3年
第1のプログラム：生物学主プログラム
第2のプログラム：生物学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

海の生き物の形づくりの不思議

地球上には多種多様ないろいろな形をした生物がいます。その形に育つ途中で、水の中を漂うプランクトンの幼生から生活が全く異なる成体へと大きく変わるものもいます。どうしてそのようなやり方が長い進化の過程で選ばれてきたのか、海の生物の形づくりの不思議を調べています。

清本 正人 教授
研究分野：発生生物学、海洋生物学



カリキュラム（主＋強化プログラム）

分野	基礎		強化プログラム	
	講義	実習・演習	講義	実習・演習
1年次	◎生物学概論－1 ◎進化生物学－2 ◎生化学－3	◎生物系統学－4 ◎遺伝学－5 ◎分子細胞生物学	◎生物学実習ⅠA・ⅠB－7 ○植物系統学臨海実習	
2年次	◎植物環境応答学 ◎動物環境応答学－6 ◎生態学 ◎遺伝子工学	◎生物学実習Ⅱ－7 ○動物系統学臨海実習 ○植物生態学実習	分子構造生物学 比較動物学 生物物理学 分子遺伝学	発生生物学 藻類学 生物系統地理学
3年次	◎生物学外書講読	◎生物学研究基礎 ◎生物学研究基礎演習 ○分子細胞生物学領域実習－8 ○生命情報学領域実習－8 ○多様性生物学領域実習－8	植物機能制御学 細胞動態学 保全生物学 動物生理学 進化遺伝学	(2～3年次) 生命情報学 水圏生態学 予測生物学 免疫学
4年次		◎生物学演習Ⅰ ◎生物学演習Ⅱ ◎特別研究Ⅰ ◎特別研究Ⅱ	(1～4年次) 生物学特別講義Ⅰ～Ⅴ 生物学特殊講義Ⅰ～ⅩⅩ	(1～4年次) 公開臨海実習

※◎：必修 ○：選択必修 無印：選択

科目紹介

1 生物学概論：生物学科で行われている研究の全体像を知り、各自が大学での学びの指針を掴むことを目指す。最初に受講する講義であり、全教員がオムニバス形式で担当する学科の入門的な科目。

2 進化生物学：生物学の広範な「なぜ」に答えるべく、生物進化の重要概念を適用して進化機構の理解と思考力の向上を目指す。生物学全般の基盤となる科目。

3 生化学：生命の活動単位である細胞の営みを分子レベルで理解するために、細胞を構成している様々な生体高分子の構造、性状、機能について基礎的知識を修得する。

4 生物系統学：生物の系統全体を俯瞰し、形態・発生・分子情報を基に系統関係を整理し、キーイノベーションや分類概念を理解することで、生物進化の全体像を段階的に学ぶ。

教員の研究分野

教授	植村 知博	植物細胞生物学
教授	清本 正人	発生生物学、海洋生物学
教授	鳶田 智	植物系統進化学、海洋植物学
教授	千葉 和義	発生生物学、細胞生物学、理科教育
※2026年度末で定年退職予定。		
教授	服田 昌之	進化発生学、サンゴ礁生物学
教授（兼任）	由良 敬	生命情報学、計算生物学
准教授	岩崎 貴也	植物生態学、生物地理学
准教授	近藤 るみ	分子進化学、進化遺伝学
准教授	佐藤 敦子	環境発生進化学
准教授	柴 小菊	細胞生物学、海洋生物学
講師	伊藤 容子	分子細胞生物学
助教	毛内 拡	脳・神経科学、生物物理学

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（理科）
高等学校教諭一種免許状（理科）
学芸員
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状・資格取得の表をご確認ください。

TOPICS | 海辺の自然の豊かな生態系に出会う 湾岸生物教育研究所（千葉県・館山）



生物学科の特色には実習プログラムが多いことが挙げられます。その拠点の一つが南房総の海沿いにある湾岸生物教育研究所です。宿泊施設完備の実験実習施設があり、臨海学習では泊まり込みで生物についての理解を深めます。造礁サンゴなども生息するこの海域の生物相は多様で、ウニやウミホタルなどの海産生物に加え、海藻や里山の植物なども対象に、フィールド採集から顕微鏡で見るミクロな世界、さらに遺伝子やタンパク質の分子レベルまで、広範囲かつ高度な実習を行っています。

21世紀の基盤技術、「情報」を科学する

20世紀にコンピュータの発達をもたらした情報技術は、今では携帯電話や家電製品にも搭載され、私たちの日常生活を大きく変えるものになっています。さらに、自然や生命のしくみ、言葉や経済のしくみを分析して予測するなど、情報科学は大きく注目されています。情報科学は、私たちの生活をよりよくする手段として、またあらゆる学問に貢献する手段として、無限の可能性を秘めています。本学科では、様々な専門で最先端に行く教員陣が理論から実践まで幅広い教育を展開し、女子大学ならではのユニークな視点から日常生活に密着した情報科学を開拓します。

目的 抜群の就職力で情報技術の前線へ

本学科では将来の研究者・技術者を養成するために、1年次から情報技術のしくみを修得するとともに、多くのプログラミング科目によりコンピュータの動作を体感します。それと同時に本学科では、情報技術の基礎となる理論の科目も充実しています。つまり、情報業界で必要とされる実践的な知識だけでなく、社会に出てからでは学ぶ機会の少ない理論的背景もしっかり学べるのが本学科の特徴です。卒業後は8割以上の学生が大学院に進学し、より高い専門性を身につけたうえで、企業や研究機関など最先端の職場で活躍しています。就職状況が非常によいのも本学科の特徴で、情報通信業界の就職力で日本一の大学と報道されたこともあります。Webサイトに就職状況の全貌が載っていますので、ぜひご覧ください。

特徴 様々な興味に応える教員とカリキュラム

1・2年次では情報科学の基礎となる数学や理論の科目を多く学びます。1年次から始まる実習科目ではプログラミングを初歩からじっくり修得でき、数学や理論の科目にも演習問題を解く時間が用意されています。少人数制ならではの親身な体制で、安心して指導を受けられます。2年次にはアーキテクチャやネットワークなどの情報基盤技術の講義も始まります。3年次からは、いよいよ情報科学の先端分野の講義が始まります。コンピュータ科学、数学、自然科学など幅広い科目群のなかから各自の興味に合わせて受講することで、情報科学の視野がぐんと広がります。4年次には各自の興味に合う研究室を選び、教員の親身な指導のもと卒業研究を行います。この研究成果を、学内外、さらには海外にも積極的に発表しています。



◀ 詳細はこちら
<https://www.sci.ocha.ac.jp/ug/is/index.html>

THE VOICE OF A STUDENT

情報科学を学ぶための理想的な環境

幅広い分野の問題解決に直結する学びに惹かれ、入学しました。海外を含め様々な場所で勉強する機会がありましたが、その中でもお茶大は特に温かい場所だと感じます。先生方の手厚いご支援のもと、志を共有しつつ個々を尊重し合える仲間と共にのびのびと学んでいます。

H・Mさん 4年
第1のプログラム：情報科学主プログラム
第2のプログラム：情報科学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

数理で探る流れの世界

空気や水など流体の運動を数式と計算で記述・解析する、数値流体力学を研究しています。現象を抽象化し、数理的に捉え、計算によって理解を深める力は、多様な分野の基盤となります。落ち着いた学びの環境で、数学を土台に理論的に考える力を磨いていきましょう。

桑名 杏奈 准教授
研究分野：数値流体力学

カリキュラム（主＋強化プログラム）				
分野	主プログラム		強化プログラム	
	講義	実習・演習	講義・実習・演習（3・4年次に履修）	
1 年次	◎線形代数学Ⅰ・Ⅱ ◎微分積分学Ⅰ・Ⅱ ◎数理基礎論→1 ◎コンピュータシステム序論→2 ◎データ構造とアルゴリズム	◎確率序論 初等代数学	◎コンピュータ基礎演習 ◎プログラミング実習 線形代数学演習Ⅰ・Ⅱ 微分積分学演習Ⅰ・Ⅱ	数値計算 ソフトウェア工学 言語理論とオートマトン シミュレーション科学 計算量理論 関数論1・2 組み合わせ論 数値計算演習 フーリエ解析とラプラス変換 情報解析学 微分方程式論 暗号と符号 数理統計学 情報倫理 情報と職業 計算モデル論 コンパイラ構成論 形式言語論 人工知能論 自然言語論 バイオインフォマティクス 環境情報論 データベース設計論 コンピュータグラフィックス→6 コンピュータビジョン コンピュータネットワークⅡ→3 ヒューマンインターフェイス 情報科学特別講義Ⅰ～Ⅴ 情報科学演習Ⅰ～Ⅴ
2 年次	◎離散数学 ◎コンピュータアーキテクチャⅠ・Ⅱ ◎コンピュータネットワークⅠ→3 ◎マルチメディア データ解析序論→4 微分積分学Ⅲ	グラフ理論 関数型言語 情報理論 位相空間論 物理学概論A・B	◎アルゴリズムプログラミング実習 ◎マルチメディアプログラミング実習→5 計算機代数演習 微分積分学演習Ⅲ	
3 年次		◎情報科学総合演習 英文講読		
4 年次		◎特別研究		

※ ◎：必修 無印：選択

※ ◎：必修 無印：選択

科目紹介

- 1 数理基礎論**：あらゆる数学の基盤であると同時に、プログラミング言語、自然言語の認識・意味・計算に関わり、電子回路の設計にも用いられる「記号論理学」を学ぶ。

2 コンピュータシステム序論：コンピュータシステムの基礎知識と、その実社会での役割について学ぶ。コンピュータの原理や仕組み、歴史、情報科学の中核となる諸技術などを学ぶ。

3 コンピュータネットワークⅠ・Ⅱ：主プログラムではインターネットを動かす仕組みであるTCP/IPを学ぶ。強化プログラムでは、あらゆる情報機器がネットワークで接続された現代社会の情報環境を知り、演習でその技術を習得する。
- 4 データ解析序論**：観察されたデータに潜む法則を発見しモデルを作る方法を学ぶ。人工神経回路網や機械学習など人工知能を代表する手法の基礎を学ぶ。

5 マルチメディアプログラミング実習：オブジェクト指向の概念の理解と活用を目的に、Java言語を用いてマルチメディアプログラミングの基礎を実習する。

6 コンピュータグラフィックス：コンピュータグラフィックスによる画像生成の基礎理論と先進技術を学ぶ。プログラミングによる自由制作を課題とする。

教員の研究分野			
教授	浅井 健一	プログラミング言語	准教授（兼任） 坂田 綾香 統計的機械学習・統計物理
教授（兼任）	伊藤 貴之	可視化、マルチメディア	講師 神山 翼 気象学、物理気候学、大気海洋データ解析
教授（兼任）	小口 正人	ネットワークコンピューティング、データ工学、セキュリティ	講師 室屋 晃子 プログラミング言語理論・プログラム意味論
教授	小林 一郎	人工知能、自然言語処理	
教授	戸次 大介	数理言語学、計算言語学	
教授	工藤 和恵	統計物理学、量子コンピューティング	
准教授	五十嵐 悠紀	ヒューマンコンピュータインタラクション、グラフィックス	
准教授	オベル 加藤 ナタナエル	DNAコンピューティング、最適化	
准教授	長尾 篤樹	計算量理論、離散最適化	
准教授	桑名 杏奈	数値流体力学	

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（数学）
高等学校教諭一種免許状（数学、情報）
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状・資格取得の表をご確認ください。

TOPICS | 多彩な卒業研究で新しい情報科学を切り拓く



情報科学が担う社会的役割はとても広く、それに対応できるよう情報科学科では理論から応用までの多種多彩な研究テーマを取り揃えています。セキュアな通信技術、文章が持つ「意味」の解析、パズルやゲームの最適戦略といった基礎理論から、スマホの新しい操作方法、子供に優しいプログラミング教育といった身近な視点、台風の進路予測、人流やウイルスの拡散のシミュレーション、音楽や歌唱・脳内情報だけでなく肌の特徴と印象の相関の解析といったデータサイエンス、そして量子コンピュータや電気にはならない新しいコンピュータという計算機の未来も見据えています。



Faculty of Human Life and Environmental Sciences

生活科学部

■食物栄養学科 ■人間生活学科 ■心理学科

文
理
融
合
の
多
角
的
・
複
合
的
ア
プ
ロ
ー
チ
に
よ
っ
て
生
活
を
科
学
し
「
よ
り
よ
い
人
間
の
生
活
と
は
何
か
」
を
問
う

生活科学部は、人間・生活・環境を多角的な視点と複合的なアプローチで探求する学部で、自然科学系の食物栄養学科、人文社会科学系の人間生活学科と心理学科の3学科で構成される、理系・文系の枠を横断する学際的なプログラムが特徴です。人の心と身体、文化と歴史、社会や環境に関わる諸問題を生活の質という視点から捉え直し、食の科学と健康、人間生活と社会、人間生活と文化、心の科学と健康に関する諸問題を包括的に科学し、生活の質を再検討していきます。さらに、時代の流れを敏感に捉えながら、人間と生活について総合的に見つめ直し、現代にふさわしい価値と基準の創出を目指し自立する女性を育てます。生活科学部は教員免許状や博物館学芸員などの各種資格に加え、管理栄養士の受験資格や公認心理師の受験資格に必要なカリキュラムを用意しています。

学部Webサイト

<https://www.hles.ocha.ac.jp/index.html>

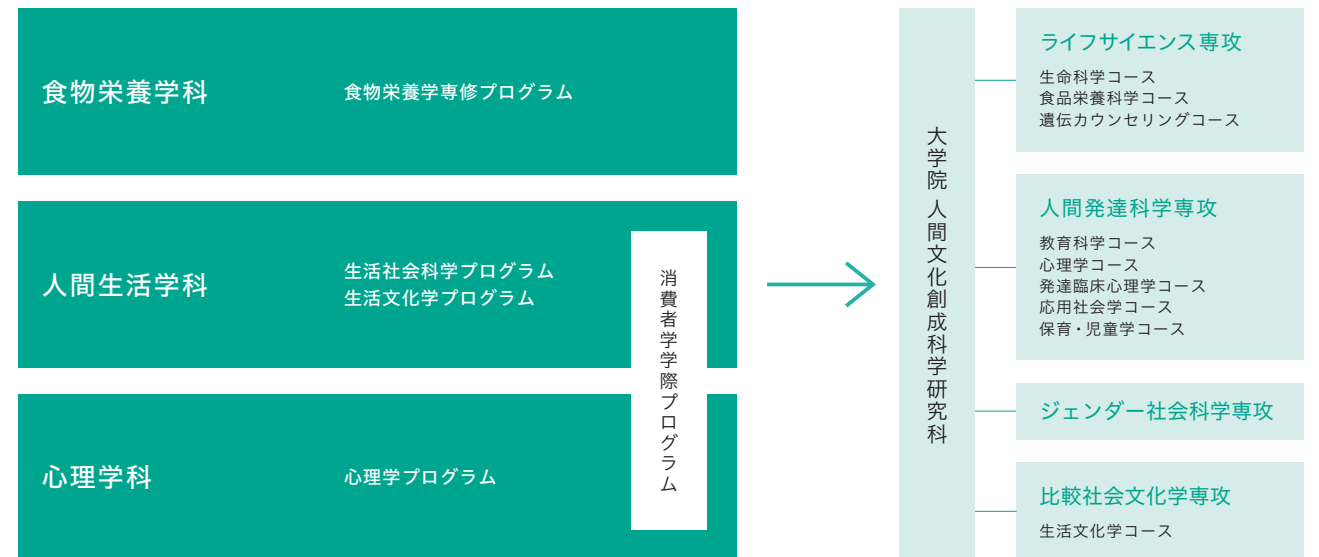


【アドミッション・ポリシー】

生活科学部は、人間生活における人間と環境との関係について、多角的な視点から見つめ直し、真にバランスの取れた人間の生活とは何かを探究する学部です。自然科学、人文科学、社会科学の3つの視点から、多面的に問題を考える姿勢を養うことが必要とされます。生活科学部では、それぞれの専門を深めるばかりでなく、文理融合の学部の特性を活かして、他の専門分野にも関心を持ち、多面的で総合的な視点から現実の人間生活の問題に取り組む力を持った、社会の多方面で活躍できる女性リーダーを育成することを目指しています。

高校における全ての科目が、大学での勉強に必要な基礎となりますので、志望学科の別を問わず、家庭科、芸術科、保健体育を含め、オールラウンドの学力を身につけておくことを期待します。

生活科学部から進学実績が多い大学院専攻課程



※生活科学部食物栄養学科、人間生活学科を卒業する際に学士（生活科学）が授与されます。心理学科を卒業する際に学士（心理学）が授与されます。

※消費者学学際プログラムは、一部の学部・学科の学生が「第2のプログラム」として選択することができます。また、全学部全学科の学生が「第3のプログラム」として選択できます。（P087参照）

生活科学部の特徴

生活科学部の歩み

生活科学部は、家政学部（1950年）を改組して、1992年に誕生しました。家政学部は、家庭生活の主要領域と目された食物、被服、児童、家庭経営・家族関係などに関する学術的研究と専門的教育を担い、大きな役割を果たしました。家政学部から生活科学部への改組は、日常の人間生活が地球規模の自然環境や世界規模の社会環境と密接に関係するようになったこと、また社会における女性の位置や役割が変化してきたことに対応して行われました。そのため、生活科学部は、家政学部に比べてはるかに広い学問領域を含んでいます。

生活科学部では、このような人間生活の諸問題に対して、人間らしい豊かで健康な生活とは何か、様々な価値観を持った人々や社会とどのように共生していくか、人間生活の質的・量的な豊かさをどう調和・統合させていくことができるかといったような地に足のついた生活者の視点から取り組む姿勢を一貫して堅持しています。

生活科学部のテーマ

現代は科学技術の発展や急速な経済成長により、物質的に豊かで、快適な生活を享受できるようになりましたが、その一方、急激な自然環境、社会状況の変化に伴う問題が噴出しています。たとえば、少子高齢化、女性の社会参加が進む中で人がどのように働き、どのような家族を形成していくのか、そのために必要な制度は何か、などが課題となります。さらに人の心とその発達、人と人との関係、これを取りまく文化や社会等の諸問題も解決すべき課題です。また、食については、過食や栄養バランスの偏った食事による生活習慣病などへの食物栄養学からのアプローチも求められています。

このように生活科学部に期待されるテーマはたくさんありますが、個々の問題解決のみではなく、生活者の視点から、環境や社会との関係の中で、総合的に、実践的に問題に取り組む姿勢が生活科学部の特色といえます。このため、各専門プログラム、及び現代の消費生活について総合的に学ぶ消費者学学際プログラムが開設されています。

食物栄養学科

“食物と人を見つめるサイエンス”をキーワードに、食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた食物栄養学の専門家の育成を目指しています。少子高齢社会を背景に、これまで以上に人間や健康との関わりが重要になっていることから、おいしさや品質といった食品を中心とする研究に加え、食物が人間に対してどのように機能するかという人間栄養学的な教育・研究も充実させています。

人間生活学科

人間生活学科では、人間の社会的・文化的活動を、生活者の視点を持って、社会科学、人文科学の多角的な側面から学び、研究を行います。政治、経済を含め、人間の社会的活動を法学・政治学・経済学・社会学を用いて、多角的な観点から仕組みを分析し、問題解決策を考える学問が生活社会科学です。服飾、住居、工芸、デザインなどの生活造形や人間生活の文化的側面を比較文化的・民俗学的・歴史学的・保育学的視点から考究するのが生活文化学です。人間生活学科は、生活者の視点から、人間生活の諸問題に取り組む、考え、行動できるような人材を養成することを目指しています。

心理学科

心理学を学び、様々な生活環境・場面における人間の心理・行動に対し、その基礎的なプロセスと機能への深い理解と科学的な見方を培い、課題の発見と問題の解決に活かす力を養います。教育プログラムは基礎・実証系心理学と臨床・実践系心理学の科目群を融合した形で構成されており、「認知・生物系」「社会・福祉系」「医療・健康系」「発達・教育系」という4つの専門領域を設置しています。

食物とヒトを 見つめるサイエンス

食物と人間及び健康は時代を問わず、社会の人々の大きな関心事です。毎日の生活に欠かせない「食」には、おいしさ、栄養や健康、製造や安全性など、様々な側面があります。食物は人間が生きてするために不可欠であり、生活にうるおいや楽しさをもたらすなど、健康を維持するには、食物についての正しい知識が必要です。食物栄養学科では、「食」に関する分野を総合的な視点で捉えます。食品化学、食品貯蔵学、調理科学、栄養化学、臨床栄養学、応用栄養学、栄養教育学、給食経営管理學、公衆栄養学など様々な学問分野において、遺伝子レベルから人間栄養学的なものまで幅広い領域を対象に、食の研究に科学的に取り組んでいます。

目的 食の専門家、管理栄養士のリーダー育成

食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた、食物栄養学の専門家の育成を目指しています。食物栄養学科では、おいしさや品質といった食品を中心とする研究に加え、食物が人間に対してどのように機能するかという人間栄養学的な教育研究も充実させています。

さらに、人と「食」の関係を考えるには科学的な視点が必要です。基礎医学、病理学、さらに医療制度、社会福祉なども教育に取り入れ、食品の安全性を評価し、トータルマネジメントする能力も養います。

卒業後は大学院への進学の道も用意されています。卒業生は、厚生労働省や自治体などの官公庁、食品会社などの民間企業、病院、学校関係など、専門を活かした広い分野で活躍しています。

特徴 広い専門性と充実した実験・実習

カリキュラムでは特に実験・実習を重視しています。1年次は専門を学ぶために必要な知識・技術や一般教養を修得し、2年次からは食物栄養学に関わる専門課程や基礎的な実験・実習を通して論理的思考を身につけます。

3年次からは管理栄養士の国家試験受験資格に必要な栄養臨床実習が始まります。3年次後半になると全員が食物栄養学科の研究室に所属し、4年次から各々が特定のテーマについて研究を進めます。

食物栄養学科には食品や栄養に関する幅広い専門分野の教員が所属し、健康や生活について総合的な教育を行っています。



◀ 詳細はこちら
<https://www.hles.ocha.ac.jp/ug/food/index.html>

THE VOICE OF A STUDENT

希望どおりの大学生活

食への関心を深め、農学部進学も検討しましたが、健康に直接関わる栄養学に強く惹かれて本学科を志望しました。食そのものや、食と人との関係等、幅広い内容を学ぶことができ、充実した日々を送っています。管理栄養士や栄養教諭など様々な資格取得を目指せる点も大きな魅力です。

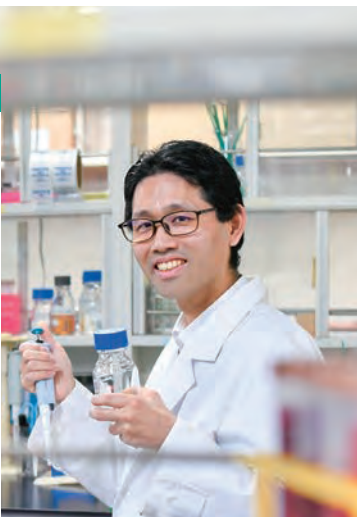
〇・Kさん 3年
第1のプログラム：食物栄養学専修プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

体が栄養素をどう利用するか科学的に捉える

ヒトは食事によって栄養素を取り込みます。栄養素は化学反応を経て、様々な生命活動のエネルギーや体の構成成分となります。これらの反応は、環境の変化に応じて巧みに調節されており、その仕組みを科学的に解き明かすことを目指しています。この面白さを一緒に共有しませんか。

小林 正樹 講師
研究分野：基礎栄養学



カリキュラム（専修プログラム）

分野	専修プログラム			
	講義		実習・演習	
1 年次	食物栄養学入門 生化学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ	調理科学 → 3 基礎有機化学	基礎調理学実習	
2 年次	細胞生化学 臨床医学総論 臨床医学各論Ⅰ・Ⅱ 生活環境学 食品製造・保存学 食品微生物学 → 4 分析化学 代謝栄養学 → 5	社会福祉学 臨床栄養アセスメント学 栄養教育論Ⅰ → 2 給食経営管理論 栄養カウンセリング論 応用栄養学 食品化学 食嗜好評価学	応用調理学実習 分析化学実験 解剖生理学実験	
3 年次	公衆衛生学 ライフステージ栄養学 病態栄養学 給食マネジメント論 食品機能論 → 1 食品衛生学	ライフスタイル栄養学 臨床栄養療法学 → 6 栄養疫学・統計 栄養教育論Ⅱ → 2 公衆栄養学 食事療法学	食品微生物学実験 食品製造・保存学実験 食品化学実験 栄養学実験 調理科学実験 臨床栄養アセスメント学実習	食物栄養管理論総合演習Ⅰ 栄養臨床実習Ⅰ 栄養カウンセリング論実習 給食経営管理実習 応用栄養学実習 公衆栄養学実習
4 年次	食物栄養学輪講		卒業論文	食物栄養管理論総合演習Ⅱ 栄養臨床実習Ⅱ

※栄養士免許および管理栄養士国家試験受験資格を取得できる4年一貫の専修プログラムを履修します。
※必要に応じて副プログラム、学際プログラムも履修できます。

科目紹介

- 1 食品機能論**：近ごろ話題の食品成分が「からだによい」とする機能性（三次機能）に関して、法律や資格、化学、生化学という多面から学び、未来への健全な利用法を考える。
- 2 栄養教育論**：食べたらいけないと思っても、つい食べてしまう。行動科学は、そのような複雑な食行動を理解するための学問である。栄養教育論では行動科学の他、栄養教育の方法論を学ぶ。
- 3 調理科学**：食品をおいしくする非加熱操作、加熱操作の基礎を学ぶ。界面現象、伝熱現象などの理論を理解することで、実際の最適な調理条件の設定へとつなげる。

- 4 食品微生物学**：人と微生物の関わりは古く、深い。微生物学の歴史や基礎知識を学ぶとともに、食品と微生物の関わりを、食品の製造（醸造）と食品の保存・安全性の両面から学ぶ。
- 5 代謝栄養学**：食物は身体の中でどのようにしてエネルギーへと変わるのか。体内で起こる食物のエネルギー蓄積・利用のしくみ、栄養素の機能を学ぶ。
- 6 臨床栄養療法学**：様々な病気に対して栄養がどのように関わっているか、医学的・栄養学的知見に基づいて学ぶ。また、科学的エビデンスに基づいた栄養食事療法についても理解を深める。

教員の研究分野

教授	森光 康次郎	食品機能化学	教授	新田 陽子	調理科学
教授	赤松 利恵	栄養教育学	准教授	清水 誠	応用栄養学
教授	飯田 薫子	病態栄養学	准教授	佐藤 瑠子	給食経営管理
教授	須藤 紀子	公衆栄養学	講師	小林 正樹	基礎栄養学
教授	市 育代	臨床栄養学	助教	野田 響子	食品貯蔵学

取得できる主な教員免許・資格

栄養士、食品衛生管理者（任用資格）
食品衛生監視員（任用資格）
管理栄養士（受験資格）、栄養教諭一種免許状
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状・資格取得の表をご確認ください。

TOPICS | 食の専門家に必要な科学的素養を身につけられる学生実験



3年次に行われる調理科学実験では、調理による食品の化学的・物理的变化を様々な実験手法により評価します。その実験結果を解析し、文献を参考に考察してまとめ、レポートを作成します。まとめた内容を発表する機会もあります。食関連の実験は5つあり、これらの実験を通じて食の専門家に求められる科学的素養を身につけられるカリキュラムが用意されています。

子育て、家族、消費者、福祉、ジェンダー論 生活者の視点で社会経済問題を解明し、 政策を提案する

私たちの身の回りでは様々な問題が生じています。派遣労働をはじめとした非正規雇用の増加、不況時の雇用の問題、少子高齢化社会における医療・介護制度のあり方、社会的・経済的格差にどのように取り組むか、家族に関わる問題など枚挙に暇がありません。IT（情報技術）の発展は私たちの生活、社会を大きく変えようとしています。私たちは生活者の視点から、家族問題、女性問題、高齢者問題、教育問題、消費者問題など生活に関わる社会・経済問題に取り組んでいきます。法学、政治学、経済学、社会学など社会科学の方法を学び、学際的なアプローチで、問題解決の方法について分析し、政策を提案していきます。

目的 社会科学の基礎・応用の学修・研究、さらに学際的研究へ

本プログラムでは、法学、政治学、経済学、社会学の基礎から応用を徹底的にマスターすることを目指しています。日常性のなかに潜む具体的な問題から出発し、問題を多角的に、かつ深く掘り下げて分析する力をつけます。たとえば、子育て支援を取り上げてみましょう。子どもが育つ家族・社会環境のあり方を解明するには、社会学の力が必要です。そして、実際にサービスを行うための費用をどのように賄うかは経済学の課題であり、それを実現する法規制や制度を考えるのは、法学や政治学の仕事です。このように私たちの身の回りの問題を考えるために、多角的、学際的な視点を養成します。卒業後の進路は、国家・地方公務員、教員、金融機関、マスコミ、IT、調査・コンサルティング、メーカー等多様で、各界に人材を輩出しています。

特徴 演習・実習中心の少人数制授業

学生が自ら調べ、考え、発表し、討論する力をつけることを重視し、カリキュラムを構成しています。少人数の講義やゼミで、法学、政治学、経済学、社会学の基礎をマスターし、考える力、読む力、調べる力、書く力、プレゼンテーション（発表）する力、ディベート（討論）する力を着実につけていきます。文献や資料の調査・講読やフィールドワークなどを通じて現実の社会に触れて観察・分析する授業のほか、社会調査の方法、統計分析の方法、コンピュータを利用したデータ解析などの授業・実習も充実しています。

3・4年次にはゼミを選択し、学生が自ら研究したいテーマについて本格的な研究を行い、成果を卒業論文にまとめます。優秀な論文には賞（生活社会科学研究会賞、花経会賞）も準備されています。知的冒険を私たちと一緒にしてみませんか。



◀詳細はこちら
<https://www.hles.ocha.ac.jp/ug/humanlife/soc/index.html>

THE VOICE OF A STUDENT

経験を思考へひらく学び

私たちの生活には、言葉にされない違和感や問いが静かに息づいています。本講座では、そうした感覚を手がかりに、社会構造や制度を多角的に読み解いていきます。社会を考える視点を育むプロセスの中で、自分の経験を思考に昇華できることは、この講座ならではの魅力だと思います。

M・Nさん 4年

第1のプログラム：生活社会科学主プログラム
第2のプログラム：生活社会科学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

より良い政策と社会をめざして

民主国家では、国民が自分たちで政治を動かして政策を決めるはずなのに、なぜ「政治が悪い」「政策が悪い」といった批判が出るのでしょうか。政治のしくみを理解し、どうすればより良い政策を実現させて、より幸せな社会に向かうことができるのか、一緒に考えていきましょう。

豊福 実紀 准教授

研究分野：政治学（日本政治、ジェンダーと政治、公共政策）

カリキュラム（主＋強化プログラム）

	主プログラム	強化プログラム			
1年次	生活社会科学概論 人間生活論 家族関係論 ジェンダー論 応用生活統計学 社会保障論	法学・政治学	経済学	社会学	ジェンダー研究
2年次	生活社会科学演習 社会統計学 生活関連法 →1 生活政治学 →2 家政経済学概論 消費者経済学 →3	生活と行政 生活法学 財産と法 労働法 刑事法 イタリア法史 など	生活経済学 →6 労働経済学総論・各論 →7 企業経営論 生活と財政 生活と金融 消費者教育論 国民経済と生活 国際経済と生活 など	社会福祉学 →8 児童福祉論 地域社会論 老年学 人口学 生活調査法 生活社会調査実習 など	ジェンダー政策論 政治とジェンダー 比較ジェンダー論 法女性学 など
3年次	演習Ⅰ 演習Ⅱ 家族法 →4 家族社会学 →5				
4年次	卒業論文				

科目紹介

1 生活関連法：憲法・民法・刑法などの基本判例を生活者の視点から検討する。グループ毎に担当判例を決め、自分たちで判決文や関連学説を調べて発表し、皆で討論する。

2 生活政治学：国民の中に様々な利害や価値観が存在する中で、一人ひとりの生活に直結する政策がどのように決められるのかを、ディスカッションを交えながら学ぶ。

3 消費者経済学：消費者に関わる諸問題（消費者保護、独占・寡占、医療・介護、環境など）を経済学の立場から研究し、社会生活で必要とされる経済学の基本を身につける。

4 家族法：家族法の基本的な知識を修得することを目的に、現代の日本社会が直面する家族法の問題をはじめ、様々な国の家族法についても具体的な事例を挙げながら幅広く分析する。

5 家族社会学：結婚・パートナーシップ、妊娠と出産、家事労働とケア、子育てなど、家族に関する様々なトピックスを社会学の視点から学ぶ。

6 生活経済学：私たちが生涯を通じて主体的に豊かに生きるために、人間の労働力が生活とどう関わっているのかを解明するとともに、未来を「豊かに生きる」方法を模索する。

7 労働経済学総論：働くことを中心に据え、個人や企業の行動を論じる。経済学の理論を学び、分析スキルを身につけることで、経済・社会で生じている現象や受講生それぞれの関心ごとを自分の言葉で説明できることを目指す。

8 社会福祉学：制度やサービス提供の仕組み、福祉専門職の労働環境、社会福祉と社会的価値・文化との関わりなどを取り上げ、福祉社会の進むべき方向を展望する。

教員の研究分野

教授	小谷 眞男	法学（生活法学、比較法文化史、イタリア法）
教授	大森 正博	経済学（消費者経済学、公共経済学、医療経済学）
教授	斎藤 悦子	経済学（生活経済学、生活経営学）
教授	申 琪榮	政治学（比較政治学、ジェンダーと政治）
教授	西村 純子	社会学（家族社会学、家族関係論）
准教授	デアウカンタラ マルセロ	法学（家族法、比較法）
准教授	豊福 実紀	政治学（日本政治、ジェンダーと政治、公共政策）
准教授	脇田 彩	社会学（社会福祉学、社会階層論、ジェンダー論、社会調査法）
助教	小前和智	経済学（労働経済学）

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（家庭）
高等学校教諭一種免許状（家庭）
学芸員、社会調査士
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状・資格取得の表をご確認ください。

TOPICS 「卒業論文」と「ゼミ」は、皆さんの創造と表現の場です



3・4年次の「ゼミ」は、学生生活で皆さんが全力を尽くして、自分を表現できる場所です。各ゼミでの研究・学修活動は、テキストの輪読と議論、グループ研究、研究に関連する公的機関、企業等を訪問見学するなど様々です。ゼミで私たちがもっとも重視しているのが、学生が自ら調べ、自ら考える自発的な研究の心です。その集大成が卒業論文であり、皆さんの研究・学修生活の最大のイベントとなります。

暮らしを見つめ、今日を捉えたその先に 未来の文化と、世界の明日が見えてくる

生活文化学は、日常生活に関わる様々な文化事象を対象として学際的に考究する学問です。文化には、美術・思想・文学・歴史など様々な分野とアプローチがあります。生活文化学プログラムでは、領域を横断するかたちで、生活に関わる「もの」と「こと」を歴史と今日的視野で探究しています。生活文化学は、衣食住からデザインや風水、恋愛・結婚や家族や家庭に関わる思想など、生活に関わる文化すべてを対象にします。真に豊かな生活とは何かという「生活の理念」を考え、利害が交錯する今日の社会で解決に向けて行動できる知性と感性を養います。生活をテーマに、新しい文化論の構築を目指します。

目的 生活を見つめる知性・感性を磨く

文化は生活の中から始まります。そして、よりよい生活には、様々な価値観の継承と発展が求められます。生活文化学プログラムでは、生活文化のよき担い手となり、それをリードする能力を養います。現代生活における諸問題を自ら発見し、それに対峙し、解決できるような幅広い知識と判断力を4年間で身につけていくための教育が行われています。

授業では、古今東西の生活文化を様々な切り口で捉えていきます。美術や文学、日本と欧米の文化、住まいと工芸と服飾、子どもを中心とした、ユニークな文化論が用意されています。

卒業後は日本と海外の生活文化の交流に貢献する人材として、民間企業への就職者や公務員・教員のほか、美術館・博物館の学芸員や研究者なども多数輩出しています。

特徴 身近なテーマ・体験を通して学ぶ

民俗学、比較文化論、服飾史、保育学の各領域の基本科目を履修し、生活文化学の基礎を学びます。さらに、各領域を深化させるために資料の分析・解釈の方法を学ぶ必修の講義科目があります。3年次から始まる演習では、文献資料や図像資料の解釈の方法を学び、また、欧米の論文、著作の講読を通して生活文化の視野を広げます。密度の濃い指導を受けられる、少人数教育です。

身体を通して生活文化学を学ぶ実習も特色です。服飾文化実習では実際に洋服や和服を制作することにより、身体を通して服飾文化を深く学んでいきます。生（なま）の生活文化を経験する野外のフィールドワークや、博物館・美術館見学などの機会も充実しています。



◀ 詳細はこちら
<https://www.hles.ocha.ac.jp/ug/humanlife/aesthe/index.html>

THE VOICE OF A STUDENT

文化の糸を紡ぎだす

すべての文化は対等で素晴らしい価値があり、その背景には人々の生活が存在します。なかには極めてささやかな生活ゆえに、そのまま埋もれていくものも少なくありません。私たちは、そういった日常のなかから、かけがえのない文化の糸を自らの視点で紡ぎだす研究をしています。

H・Mさん 4年
第1のプログラム：生活文化学主プログラム
第2のプログラム：生活文化学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

都市のフィールドワーク

民俗学というと農山漁村を対象にした伝統的な生活を研究するというイメージがあるかも知れません。私は福岡市という都市をフィールドにして、高度経済成長期からの生活の変化を研究しています。例えば、団地、冷蔵庫など家電製品の普及による変化、食生活の変化などです。

宮内 貴久 教授
研究分野：民俗学、文化人類学

カリキュラム（主＋強化プログラム）

分野	主プログラム			強化プログラム	
	講義		実習・演習	講義	実習・演習
1年次	生活文化学概論 生活科学概論 生活社会科学概論 被服学概論	児童学概論 → 1 人間生活論 生活造形論 民俗学 → 2	服飾文化概論 比較生活文化論 保育実践論		共創デザインPBL (LIDEE演習) I ※
2年次	服飾史論 服飾史資料論 → 3 比較生活文化史 I 比較生活文化史 II 民俗文化史論 歴史民俗文化論 → 4	保育デザイン論 発達と文化 服飾史 I 服飾史 II	被服製作実習	生活文化学専門英語 民俗文化史各論 環境デザイン論 美学・芸術学 生活文化論 生活造形史 工芸史 地域文化論 現代文化論 文化情報論 西洋服飾論 日本服飾論 服飾文化各論 生活芸術論 児童文化論	服飾制作実習 服飾文化実習 生活文化実習 民俗文化史実習 比較文化論演習 → 6 日本服飾史実習 保育デザイン論演習 服飾文化論演習 → 7 共創デザインPBL (LIDEE演習) II ※
3年次		比較文化論基礎演習 民俗文化史基礎演習 日本服飾史基礎演習 → 5 服飾文化論基礎演習 保育デザイン論基礎演習			
4年次	卒業論文			生活文化学論文演習 I 生活文化学論文演習 II	

※ LIDEE：Life Innovation by Design & Engineering Education ワークショップ型のデザイン演習授業。

科目紹介

1 児童学概論：学際的な視点から児童学に接近する。本学には、日本で最も歴史のある附属幼稚園を始め、いずみナーサリ－（学内乳児保育所）、認定こども園（平成28年設置）がある。この3園についても紹介し、保育という営みについて学ぶ。

2 民俗学：家族のあり方、衣食住、正月や盆などの年中行事、結婚式や葬式などの人生儀礼、民俗宗教、昔話や伝説など、日本文化、特に庶民の生活文化・民俗文化について学ぶ。

3 服飾史資料論：古代から現代に至る西洋服飾の歴史を、図像資料を中心に概観する。各時代における服飾の様式とその特徴について理解する。

4 歴史民俗文化論：人間が自らが暮らす空間をどのように認識しているか、さらに都市や村、住居をどのようにして造り上げてきたかを民俗学、文化人類学の立場から考察する。特に日本における風水の受容について論じる。

5 日本服飾史基礎演習：明治期以降の衣生活の変遷や服飾を巡る人々の価値観の変容について、具体的な事例やモノを通じて探っていく。

6 比較文化論演習：比較文化論という観点から、近代日本の「生活と芸術」の関わりについて考察する。

7 服飾文化論演習：欧米の服飾を対象とし、服飾史研究の基本となる資料分析の方法を学ぶ。文献・図像資料を通して、時代特有の感性、生活意識を探究する。

教員の研究分野

教授	宮内 貴久	民俗学、文化人類学
教授	鈴木 禎宏	比較生活文化論
教授	刑部 育子	児童学、保育学
教授	新實 五穂	服飾文化論、西洋服飾史
准教授	難波 知子	生活造形論、日本服飾史

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（家庭）
高等学校教諭一種免許状（家庭）
学芸員
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状・資格取得の表をご確認ください。

TOPICS | 街に飛び出し、現在を知る 東京そのものを学びの場として



授業が開設されるのはキャンパス内ではありません。上野・池袋・東京など、東京23区内の主要ターミナル駅へのアクセスに優れた立地を活かし、博物館や美術館、国会図書館なども生活文化学のステージになります。都内各地で開催される様々なイベントも格好の学びの場として活用されています。

今の時代に生き生きと息づく文化を目で見、肌で感じ、足を使って確かめていく。その一つひとつの体験が、明日の生活文化をつくる原動力となって蓄積されていくのです。

人をみつめ、人の不思議を理解し、
人を支えるところを科学し、
ところと向き合う力は人と社会を成長へ導く

現代社会には生活場面における判断・意思決定、対人認知、コミュニケーション、心理的問題（うつ、自殺等）、発達・健康上の問題（発達障害、高齢化等）、災害・犯罪、避難生活、非行・いじめなど、複雑で多様な問題が存在します。心理学は、人間の心理的プロセスを科学的に解明し、エビデンスに基づいて、社会的問題や課題の解決を目指す学問領域であり、人間生活の様々な場面で横断的に、様々な領域と学際的に関わる学問です。

ところを科学し、ところと向き合う力は自らの生きる力となり、人を支援する力にもなるでしょう。

目的 Scientist-Practitioner（科学者-実践家）の養成

心理学科では、心理学の基礎教育と共に、生活の実践に活かす教育を行います。つまり、様々な生活環境・場面における人間の心理・行動に対し、その基礎的なプロセスと機能への深い理解と科学的な見方を培い、それを課題の発見と問題の解決に活かす力を養います。そして、人に対するあくまでも真摯な姿勢と科学的方法を身につけ、心理系の資格を取得しながら、様々な場面で実践的役割を果たし、社会貢献を行うことができる人材、すなわち Scientist-Practitioner（科学者-実践家）の養成を学科の目的としています。

特徴 理論と実践を系統的に、段階的に学ぶ

心理学科の教育プログラムは、基礎・実証系心理学と臨床・実践系心理学の科目群を融合した形で構成されています。これにより、1) 様々な生活領域の課題から問いを立て、実証する科学的探求を志向する人材、2) 科学的実証の視点や方法論を獲得し、各種の生活領域に応用する実践的視点とスキルをもつ人材育成が可能となるのです。

さらに心理学科では、基礎・実証系心理学と臨床・実践系心理学とを融合した新たな専門領域として、「認知・生物系」「社会・福祉系」「医療・健康系」「発達・教育系」の4つの系列を設置し、それぞれに専門応用講義科目群、専門応用演習科目群を配置しています。



◀詳細はこちら
<https://www.hles.ocha.ac.jp/ug/psy/index.html>

THE VOICE OF A STUDENT

“ところ”を深める

目に見えないからこそ、移り変わるからこそ、惹かれてしまうのが“ところ”です。その一端を根拠とともに学べる手厚い環境は、日々の暮らしへの理解に大いに役立っています。多領域にまたがる対象テーマに自身の想いを照らして、“ところ”への興味をさらに深めてみませんか。

I・Sさん 3年
第1のプログラム：心理学主プログラム
第2のプログラム：心理学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

個性に寄り添う支援の探究

私は、多様な個性をもつ人が社会で出会う困難に着目し、とくに神経発達症のある人への支援の在り方を研究しています。大学での出会いや学びは将来につながります。学生の皆さんには、自分の「好き」や個性を大切にしながら、多様な経験を通して自分らしく歩んでいってほしいと願っています。

砂川 芽吹 准教授
研究分野：発達障害児・者、臨床心理学

カリキュラム（主＋強化プログラム）

分野	主プログラム		強化プログラム	
	講義	実習・演習	講義	実習・演習
1 年次	こころの科学➡ 1 心理学研究法 心理学選択基礎 認知心理学概論➡ 2	発達心理学概論➡ 3 社会心理学概論➡ 4 臨床心理学概論➡ 5		
2 年次	心理学統計法：基礎➡ 7 心理学統計法：発展➡ 7 認知神経科学 学習と言語の心理学 応用社会心理学 健康心理学	心理臨床アセスメント 発達臨床心理学 心理療法学 障害臨床心理学 コミュニティ心理学 感情・人格心理学	心理学基礎実験演習➡ 8 心理学基礎実践演習➡ 9 心理学実践演習：質問紙法 心理学実践演習：質的研究法	臨床医学概論 産業心理学 家族心理学 福祉心理学 司法心理学 学校臨床心理学
3 年次	心理臨床に関する法と制度 心理学専門英語➡ 10	認知心理学演習 認知発達心理学演習 社会心理学演習 ジェンダー心理学演習 健康心理学演習	障害臨床心理学演習 心理療法学演習 人格発達心理学演習 犯罪心理学演習 心理支援学演習	心理職の職業倫理 心理臨床実習Ⅰ・Ⅱ
4 年次	卒業論文			

科目紹介

- 1 こころの科学**：基礎・実証系から臨床・実践系まで、心理学の諸領域の基礎的知見や考え方を学ぶことにより、学問的俯瞰能力を習得する。
- 2 認知心理学概論**：人間の認知処理過程（知覚・注意・記憶・感情など）について、行動科学や神経科学の観点から学ぶ。
- 3 発達心理学概論**：発達心理学の基礎的な理論、幼少期の認知や社会性の発達、児童期の学習に関する理解を深めるとともに、思春期、青年期、高齢期の発達と課題についても学ぶ。
- 4 社会心理学概論**：自己、他者、集団、対人関係など、社会的行動に関わる様々な側面についての研究内容や研究方法を学ぶ。
- 5 臨床心理学概論**：臨床心理学の基礎的知識を習得することを目指して、臨床心理学の成り立ちや代表的理論について学ぶ。
- 6 心理学基礎演習**：心理学とはどのような学問なのか。資料収集、文献講読、専門家のインタビュー、導入レベルの外国語の専門書の講読、発表を通して、理解を深める。

- 7 心理学統計法**：不確実性の大きい人間の心理や行動の原理を読み解くうえで必須となる統計的なデータ解析について、理論と実践の両面から学ぶ。
- 8 心理学基礎実験演習**：教育心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学、認知心理学における心理測定・実験・調査の基本技術を習得する。
- 9 心理学基礎実践演習**：心理実践活動を行うための知識と技能を身につけるため、心理面接における態度や技法、心理検査の実施方法等の基本技術を習得する。
- 10 心理学専門英語**：心理学の主要領域の英語論文を講読する。各領域の研究テーマや方法論について理解を深めるとともに、心理学の国際的な研究動向について学ぶ。
- 11 心理臨床実習Ⅰ・Ⅱ**：保健医療・教育・福祉・産業・司法等の領域における心理に関する支援、多職種連携の在り方、心理職の職業倫理等について、学内外で実習を通じて学ぶ。

教員の研究分野

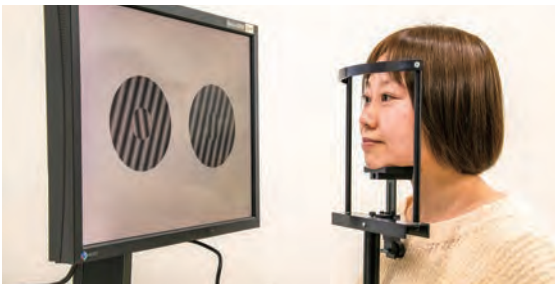
教授	石丸 径一郎	ジェンダー心理学、認知行動療法	教授	山田 美穂	身体的心理療法、援助者養成教育
教授	上原 泉	発達心理学、認知心理学	准教授	伊藤 大幸	教育心理学、発達心理学
教授	大森 美香	健康心理学	准教授	今泉 修	認知心理学、実験心理学
教授	坂元 章	社会心理学、情報教育	准教授	砂川 芽吹	発達障害児・者、臨床心理学
教授	高橋 哲	犯罪心理学、臨床心理学	准教授	平野 真理	臨床心理学、パーソナリティ

取得できる主な教員免許・資格

公認心理師※、認定心理士
社会調査士、学芸員

※在学中に「公認心理師」養成のための指定科目をすべて修め、卒業後、以下(1)または(2)のいずれかを満たすことで、公認心理師国家試験の受験資格を得ることができます。
(1)大学院に進学し、指定科目をすべて修めて修了すること
(2)厚生労働省・文部科学省が指定する機関において、指定された期間の実務経験を得ること

TOPICS | 多様なキャリアに生きる総合的な心理学の学び



心理学科では、ところに関する理論に加えて、文献を読み解く力、調査や実験を緻密にデザインする力、そして集めたデータを解析してエビデンスを見出す力を養うことができます。これらの能力は、学術的研究だけでなく、社会の様々な領域で活かされます。心理学科の卒業生は、カウンセラーなど対人援助職に限らず、データサイエンスや技術開発の分野でも活躍しています。卒業後の進路は、大学院進学、民間企業就職（コンサルティング、IT関連等）、公務員（国家公務員、家庭裁判所調査官補等）と多岐にわたります。



Faculty of Transdisciplinary Engineering

共創工学部

■人間環境工学科 ■文化情報工学科

工学と人文・社会科学の
知を協働させ、
社会と共に未来の環境、
文化を創り出す。

共創工学部は、工学と人文・社会科学を協働させ新たな技術や文化すなわちモノやコトを考案・創造することを目的とする新しいコンセプトの工学部です。自然科学を基礎とし、社会と対話しながら新しい技術を実装・普及する人間環境工学科と、データサイエンスの手法を活用し、人文・社会科学と工学を協働させて新しい文化や価値を創り出す文化情報工学科の2学科で構成されます。社会における課題を解決し、社会・文化のイノベーションを目指して、工学設計やデータサイエンス等の技能を習得するプログラムだけでなく、課題を発見し解決策を考案する力、それを具体化させ、かつ社会との対話を通じて普及させる力を涵養するプログラムを備えています。また一級建築士、二級建築士の受験資格、博物館学芸員、GIS学術士、社会調査士、地域調査士の資格取得に必要なカリキュラムも用意しています。社会と共に未来を創る、また工学に文系の知恵を併せて共に新しい技術や文化を創る、それが「共創工学部」の理念です。

学部 Web サイト
<https://www.te.ocha.ac.jp/special/>



【アドミッション・ポリシー】

共創工学部は、幅広い自然科学・人文・社会科学的教養と、工学とデータサイエンスの専門性を協働させることで、新たな価値を創出し社会でその成果を実践することを学ぶ学部です。これまで工学領域では様々な技術が開発され、その成果として私たちの生活は豊かに便利になってきました。しかし、その一方で環境負荷の増大や格差の拡大など、様々な社会上、倫理上の課題も浮上し、現在は、多様な人びとを包摂し、環境に優しい新発想の技術が社会で強く求められるようになっていきます。

この社会の要請に対し、本学部では、次のような学生を求めます。

1. 工学専門領域が連携しながら、人文・社会科学と協働し、新しい技術や文化を創り、社会との対話を通じて新たな価値を実践・普及するグローバルリーダーを目指す人。
2. 自然科学・工学と人文・社会科学の協働、データサイエンスやICT（情報通信技術）に強い興味を持つ人。
3. 科学技術を用いた社会や文化のイノベーション推進に意欲を持つ人。

共創工学部から進学が想定される大学院専攻課程

人間環境工学科 人間環境工学プログラム

文化情報工学科 文化情報工学プログラム



大学院 人間文化創成科学研究科

共創工学専攻

比較社会文化学専攻

日本語日本文学コース
歴史文化学コース
思想文化学コース

ジェンダー社会科学専攻

（地理学・社会科学分野）

理学専攻

情報科学コース

ライフサイエンス専攻

生命科学コース

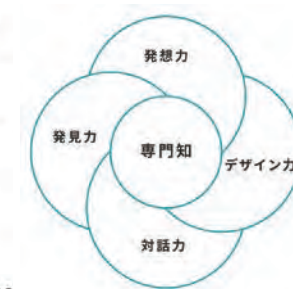
共創工学部の特徴

共創工学部の設立目的

テクノロジーは私たちの社会や文化に欠かせないものとなり、未来の創造に大きな役割を果たします。環境をはじめ、テクノロジーが取り組む課題には人文学や社会科学からの視点の重要性が増しています。共創工学部には、工学と人文学・社会科学の知が協働し、共に未来の環境、社会、文化を創るという意味が込められています。また、協働を進める上で大きな役割を果たすのがデータサイエンスです。ここで学んだ学生が将来、様々な垣根を越え、多様な人々を巻き込み、新たな意味や価値を創造していくことが共創工学部の狙いです。

共創工学と従来の工学との違い

これまでの多くの工学では分野毎に最先端の技術を進化させ極めることで豊かな生活の実現に寄与してきました。一方でこれからの未来社会の創造には生活者の多様性を考慮し、かつ持続性をもつ社会の実現が求められます。そのためには専門的な知識（専門知）が必要なのはもちろですが、社会的な課題を発見し（発見力）、解決策を考案する（発想力）だけでなく、それを具現化し（デザイン力）、社会との対話によって（対話力）普及させるための、各能力を備えることが必要です。共創工学ではこれらの能力を涵養するプログラムを備えていることが特徴です。



社会実践力を養う特色ある科目

学部の共通科目として社会実践力を養う科目を用意しています。例えば1・2年次のPBL (Project Based Learning) 科目としてLIDEE (Life Innovation by Design & Engineering Education) 演習がありますが、企業や各分野の専門家を招き、異なる様々な課題・テーマを取り上げ、学生と専門家が共に取り組む内容です。見学・実地調査・リサーチを行ったり、グループでアイデア共創に取り組みます。社会実践力として重要な発想法を学び、実行力、リーダーシップ・スキルを実践的に習得することができます。

求める人材は理系も文系も

社会的な課題に対し、設計によってモノを作り、モノを通じて課題を解決し社会を改善していくこと、それが工学です。そのためには社会の知識が必要となります。また共創工学部では、工学に基づいて新しい文化を創り出し、社会を変えていくことができると考えています。新しい文化の創造には、文系の知識が必要となります。理系はもちろん、文系を志す方々にも活躍が期待される、それが共創工学部が独自に打ち出す新しい理念なのです。例えば、文化情報工学科では一般選抜の個別試験（前期日程）において数学を選ばない受験が可能で、理系にも文系にも門戸を開き、広く人材を求めている学部です。

人間環境工学科

人間環境工学科は、人間と社会に密にかかわる課題として、人の生活・医療・健康をまもる「人間領域」、建築や都市・インフラなど安全に関わる「環境領域」、生活材料や医療で利用される材料の開発に資する「マテリアル領域」の3領域を扱います。各領域でモノや仕組みを工学的に設計するために不可欠な工学専門知と、社会に実装・普及するために必要な社会科学知の協働により、持続可能な社会の構築に向けたイノベーションを目指しています。

文化情報工学科

文化情報工学科は、人文知に工学を協働させることにより生み出される人間の文化を尊重する新しいタイプの工学です。情報・工学技術を用いて、文学、言葉、芸術、歴史、地理、人間行動などに関する多種多様な情報をデジタル化（収集・生成・可視）し、分析を行い、新たな作品や価値を創出します。工学と人文学の双方が学べる学科です。

人と環境のための新たな技術・社会の創造 持続可能で、多様性を包摂する 社会の実現のために

今、社会は大きく変化し、グローバル化とデジタル化のなかで、経済発展とともに幸せで持続可能な社会の到来が期待されています。気候変動による環境の課題や、高齢化などの社会課題に直面していて、わたしたちの身近な生活にも影響しています。こういった課題に取り組み、多様な人を包摂する社会を実現するためには、多様な人がモノづくり・コトづくりに参加し、新たな価値を発見する視点・技術が必要です。人間環境工学は、工学・自然科学を基礎として、新しいテクノロジーやデータサイエンスを用いてこれに取り組みます。多様な人々と対話しながら、デザイン思考を通して、新たなモノやコトづくり、それを普及させるために社会科学を協働させて、新たなイノベーションを推進します。

目的 人間環境工学科プログラムの目的・目標と教育研究

これまで、高度な社会基盤の形成に貢献してきた工学・自然科学を、これからはそこで暮らす様々な人々や社会にフォーカスして、安全や安心、快適性向上などに活かします。学生は、広く工学・自然科学の基礎知識を学びながら、自らの興味関心に基づいて課題を発見するために、全学、共創工学部や他学部の提供する人文学・社会科学の諸分野を学びます。その上で、特に社会との対話、様々な分野との共創、成果を社会に還元する技術を身につけるために、デザイン思考、設計技術、データサイエンスなどを学びます。さらにワークショップやインターンシップといった、多彩で実践的な演習に取り組み、コミュニケーションや社会実装について理解します。これにより「多様性の包摂」から新しいイノベーションを推進する能力を磨き、人間中心の工学技術の推進を目指します。

特徴 人と環境のデザイン・エンジニアリング

人間環境工学は、3つの工学専門領域で構成しています。1つめは人間の活動そのものを直接的に工学技術による支援対象とする「人間領域」で、人間工学、健康科学、生体医工学、生物学、人体と自然人類学などに広がります。2つめは、わたしたちを取り巻く建築から都市までを対象とする「環境領域」で、インテリア、住宅、建築の計画と設計、建物の歴史と保存、都市気候、都市デザイン、エネルギーとグリーンインフラ、水環境や資源循環などを扱います。3つめが、工学設計を材料の面から支援強化する「マテリアル領域」で、生活にかかわる機能性繊維材料や、人に触れる医薬にも利用されるバイオマテリアルなどです。社会科学を用いて持続的・包摂的な社会の在り方からスタートし、上記の互いに関連しあう工学諸分野を協働し、データに基づくデータサイエンス、デザイン思考、設計や生産を行い、「共創」して社会課題の解決につなげる力を養います。人間環境工学科で取得できる学位は、学士（工学）です。



◀ 詳細はこちら
<https://www.te.ocha.ac.jp/ug/eng/index.html>

THE VOICE OF A STUDENT

変容する社会で、最適解を導く

学びの範囲が広く、工学における多角的な視点を得られることが最大の魅力と考えています。学科はアットホームな雰囲気で、先生方との交流も多く、学修に関することを安心して相談できる風通しの良さがあります。これからの社会を生き抜いていく工学の「武器」を日々磨いています。

K・Aさん 2年
第1のプログラム：人間環境工学主プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

都市・建築空間から考える 共創のかたち

都市・建築空間は、技術だけでなく、人の行動や心理、歴史や文化といった多様な要素によって形づくられています。現代社会では、これら分野横断的な要素の関係性を読み解き、再構成する力が重要です。空間を媒介に、新たな価値を生み出す共創デザインと一緒に切り拓きましょう。

藤山 真美子 准教授
研究分野：都市・建築デザイン、デザイン工学



カリキュラム（主＋強化プログラム）

分野	共創工学共通科目	人間環境工学専門科目	
		必修科目・選択必修科目	選択科目
1 年次	共創工学総論 共創プログラミング 共創デザイン PBL(LIDEЕ 演習) I	基礎化学 工学基礎数学 データサイエンス（基礎）	工学基礎解析学 工学基礎物理学 データ計測処理演習 有機化学 身体形質と文化
2 年次	共創デザイン PBL(LIDEЕ 演習) II デザイン思考とロジックモデル 共創工学フィールドワーク 知的財産論 技術と倫理	環境心理と調査法 材料基礎実験	統計学演習 環境衛生学 センサーと人間工学 生体計測制御工学 機器分析演習 生物化学 物理化学 材料設計演習 社会共創マネジメントPBL 高分子化学 人体計測学演習 I・II BIM 演習
3 年次	共創インターンシップ I 共創インターンシップ II（建築） 共創工学特別講義	環境工学実験実習 人間工学実験実習 生活工学実験実習 デザインPBL 環境共生PBL 人間健康PBL 生活材料PBL	設計製図演習 III 生産とデザイン システム工学 デジタルファブリケーション演習 サステイナブル環境論
4 年次	卒業研究演習	共創輪講 卒業研究	

※第2のプログラムとして文化情報工学学際プログラム（共創工学部が開設）、情報科学副プログラム、生命情報学学際プログラム（理学部が開設）、消費者学学際プログラム（生活科学部が開設）を選択することも可能です。

科目紹介

1 工学の基礎科目：数学、物理、化学など自然科学の基礎知識を深めて、工学へ応用するしくみのもとになる、工学基礎数学、工学基礎解析学、基礎化学、工学基礎物理学について学ぶ。データサイエンス（基礎）では、人文・社会分野のデータを用いて統計的なものの見方や考え方を理解し、課題発見力および課題解決のためのデータ分析の実践力を身につける。

2 LIDEЕ 演習 I および II：企業や専門家を招き、異なる様々な課題・テーマを取り上げ、学生と専門家が共にワークショップで課題解決や新しい提案に取り組む。専門家の講演や見学・実地調査・リサーチなどを行った後、発想法などを学び、グループでアイデア共創に取り組む。基本的な発想や共創を学び、経験を積み、実行力とリーダーシップ・スキルを実践的に習得する演習である。

3 建築関連科目、設計製図演習：建築に関する専門科目が配置されており、所定の科目、所定の単位数を履修した場合、一級建築士・二級建築士・木造建築士の受験資格が得られる。ものづくりの基本は設計であるといわれる。設計製図演習では、環境や空間、機械などを扱う。講義科目では計画法を学びながら、同時に、住宅や公共施設、都市空間のあるべき姿を、

デザイン性、人間工学、心理学などの観点から分析し、設計する。美しさや機能に加え、ユニバーサルデザインなど社会との関連の視点も取り入れる。

4 BIM 演習：建物や都市環境をデジタルで扱う最新の技術知識にふれる。現実都市の情報をもとに仮想世界にデジタルツインを構築し、様々なシミュレーションができたらどうなるか？ 最新のドローンが都市や住まいの中を飛べるようになったら、都市や住まい、生活はどう変わるのか？ などデジタルトランスフォーメーション（DX）を加速させる技術について知る。

5 環境工学実験実習・人間工学実験実習・生活工学実験実習：環境工学、建築学、人間工学、人類学、生活工学など多岐にわたる実験・実習に取り組み、人間環境工学の基礎から応用までを習得する。

6 デザインPBL・環境共生PBL・人間健康PBL・生活材料PBL：それぞれのテーマで進行している研究プロジェクトに参加し、関連研究の調査、実地の調査の計画をたて、調査研究を実施する中で、実践的に研究の手法について学ぶ。

教員の研究分野

教授 太田 裕治	人間工学、生体医工学	准教授 秋元 文	材料設計、ソフトマテリアル	一級建築士（受験資格）・二級建築士（受験資格） 学芸員、社会調査士
教授 大瀧 雅寛	環境衛生、環境負荷低減	准教授 片桐 悠自	建築歴史意匠	
教授 小口 正人	マルチメディア、情報ネットワーク	准教授 河合 英徳	建築環境工学、都市気候	
教授 近藤 恵	自然人類、文化財科学	准教授 トリベッテ・ジュリアン	生体工学、健康科学	
教授 長澤 夏子	建築計画、建築環境	准教授 藤山 真美子	都市・建築デザイン、デザイン工学	
教授 由良 敬	生命情報、生物物理学	助教 雨宮 敏子	生活材料、高分子・繊維材料	

TOPICS | 時には楽しく、時には真剣に学生と教員のふれあいスペース



暮らしの中でどのようにIT技術を活用していくかを研究するために、2009年、大学近隣にコピキタスコンピューティング実験住宅を建造し、様々な実験を進めています。たとえば居室内の照明のコントロール、遠隔地とのコミュニケーション支援のアプリケーション、高齢者支援やセキュリティシステムの提案など。サステイナブルなエネルギー利用の検討のため、BIMモデルを作成し、シミュレーションを行なうデジタルツインの教育ツールとしても使用しています。

情報・工学から「文化」の問題解決をはかり 社会と共に彩り豊かな未来を創る

「文化」は、人間の所産であるすべてのモノやコトを指します。文化として優れた文学や芸術のことをイメージしやすいですが、それらに加えて、衣食住をはじめとした人間の暮らしや振る舞い、人間のつながりや社会の仕組み、知識や価値などまでを含みます。こうした文化は、従来人文学・社会科学の対象でしたが、「文化情報工学」では、データサイエンスおよび情報工学でも扱うべき一般的問題として捉え、問題解決を加速させていきます。またこれは、従来の工学が大量生産体制を支える汎用技術体系を生み出してきたのに対して、特定の文脈・状況において生成される文化事象を対象にすることで、人間・文化を中心に据えた未来社会の貢献へ向かう、新たな工学の挑戦でもあります。

目的 文理の知を組み合わせ、 新たな文化や価値を創造する

今日求められているのは、多様性を包摂し、持続可能であるだけでなく、豊かな文化に囲まれた社会生活の実現です。それに向けて人文学の知と工学の知の両方を活用しながら、新しい文化や価値を創り出す人材の育成を目指し、人文情報学領域とデータサイエンス・工学領域の教員が協力して教育研究を推進します。学生は、文系理系の別に拘らず、自らの興味関心に基づいて課題を発見し、文化情報工学科の諸科目の履修を基に、他学部提供の科目も加えて履修し、課題解決の実践を目指します。同時に、社会との対話、様々な分野との共創、成果を社会に還元することを意識しながら学習と研究に取り組みます。これによって、「個の尊重」「多様性の包摂」を踏まえながら「豊かな文化」へと結びつく価値を創造する能力を磨きます。

特徴 人文学×データサイエンス×工学

文化情報工学は、人文学とデータサイエンスと工学の3つの学問領域が協働する新しい学びの分野です。人文学とデータサイエンスが協働する学問分野は、国内外の学界で人文情報学と呼ばれ、人間の文化と社会に関する知識を基盤に、歴史、地理、思想、言語、文学、芸術などの諸分野の多様な資料（テキスト、地図、画像、造形、音声、映像、行動データなど）を、デジタル技術によって収集・加工し、データサイエンスの手法を応用して多角的に解析する分野として知られています。このような人文情報学の成果を、工学の知（技術とデザイン思考）と結びつけ、新たな文化や価値の創造、文化を取り巻く現状から生まれるニーズや課題の解決を行うのが、文化情報工学です。文化情報工学科で取得できる学位は、学士（文化情報工学）です。



◀詳細はこちら
https://www.te.ocha.ac.jp/ug/cul_eng/index.html

THE VOICE OF A STUDENT

「好き」を自由に学ぶ

高校では理系でしたが、情報と音楽を絡めた研究がしたいと思い入学しました。分野に捉われずに学ぶことができる環境が揃っているため、自然と自分の引き出しが増えていくのを感じられます。他の学生とも、互いの「好き」を尊重し共に学ぶ、実りある時間を過ごしています。

I・Wさん 2年
第1のプログラム：文化情報工学主プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

「どこ」を読み解く力で 社会をデザインする

地球上の諸事象の位置と属性を結びつけた地理情報を扱うGIS（地理情報システム）は、社会の共通基盤として多岐にわたり活用されています。地理情報学分野では、地域の課題を分析し、持続可能な社会をデザインするための共創のプラットフォームとしてGISを応用します。一緒に取り組んでみませんか。

宮澤 仁 教授
研究分野：地理情報学、人文地理学



カリキュラム（主＋強化プログラム）

分野	共創工学共通科目	文化情報工学専門科目	
		必修科目・選択必修科目	選択科目
1 年次	共創工学総論 共創デザインPBL(LIDEE 演習)Ⅰ 共創プログラミング	文化情報工学総論→ 1 文化情報工学基礎演習 インターネット工学 データサイエンス（基礎）→ 2	工学基礎数学 工学基礎解析学 数理基礎論 データ構造とアルゴリズム コンピュータシステム序論 設計製図基礎演習
2 年次	デザイン思考とロジックモデル 共創デザインPBL(LIDEE 演習)Ⅱ 共創工学フィールドワーク 知的財産論 技術と倫理	データサイエンス（中級） データサイエンス（上級） 文化情報デザイン工学	歴史情報学 地理情報学 言語情報学 文化情報学 思想情報学 芸術情報学 確率序論 データ解析序論 統計学演習 センサーと人間工学 マルチメディア→ 3 コンピュータアーキテクチャⅠ コンピュータアーキテクチャⅡ コンピュータネットワークⅠ
3 年次	共創インターンシップⅠ 共創インターンシップⅡ（建築） 共創工学特別講義	機械学習 データマイニング データベース工学	歴史情報学演習 地理情報学演習 言語情報学演習 文化情報学演習 思想情報学演習 芸術情報学演習 応用統計学演習 文化情報デザイン演習 データベース設計演習→ 5 フィックス 情報倫理 情報と職業 コンピュータビジョン コンピュータグラフィクス ヒューマンインターフェイス
4 年次	卒業研究演習	データマイニング演習→ 6 卒業研究	文化情報学研究 テキストアナリティクス研究 文化情報統計数理研究 文化情報CGV研究 文化情報デザイン研究 データベース研究

※ほかに人文学（一部社会科学を含む）の専門知識や考え方を学ぶ基礎的内容の講義科目を2科目選択して履修します。

※第2のプログラムとして人間環境工学学際プログラム（共創工学部が開設）、人文知に関わる副・学際プログラム（文教育学部・生活科学部が開設）、情報科学副プログラム（理学部が開設）を選択することも可能です。

科目紹介

1 文化情報工学総論：文化情報工学の入門として学科の全教員がオムニバスで担当する科目。人文学とデータサイエンス、工学知が協働する文化情報工学の目指すところや方法、研究例について学ぶ。

2 データサイエンス（基礎）：文化情報工学の目的に即して人文・社会分野のデータを用いて統計的なものの見方や考え方を理解し、課題発見力および課題解決のためのデータ分析の実践力を身につける。

3 マルチメディア：マルチメディアを構成する多様なメディアと、それを支える基盤技術や人的知識について解説する。基礎理論から基盤技術や応用技術、メディア要素技術までを包括的に扱う。

4 人文情報学系講義科目：人文学とデータサイエンスが協働する学問分野である人文情報学の動向について、歴史、地理、言語、伝統芸能、思想、芸術の各分野におけるトピックを取り上げて説明する。

5 データベース設計演習：リレーショナルデータベースにおけるSQLの基本的な使い方について学ぶ。また、NoSQLデータベースやマルチメディアデータベースの構築に関する基礎を学ぶ。

6 データマイニング演習：人文・社会分野のデータを用いてデータマイニングを行う。データの取得・加工・分析・結果の解釈という一連のプロセスを実践的に学習し、卒業研究の取組みにつなげる。

教員の研究分野

教授	伊藤 さとみ	言語情報学、言語学	教授	伊藤 貴之	コンピュータビジョン、マルチメディア
教授	宮澤 仁	地理情報学、人文地理学	准教授	坂田 綾香	統計科学、情報科学
准教授	埋忠 美沙	文化情報学、演劇学	准教授	土山 玄	テキストアナリティクス、統計学
准教授	遠藤 みどり	歴史情報学、日本史学	准教授	レー ヒェウハン	データベース、データ工学
助教	佐藤 有理	思想情報学、認知科学	講師	土田 修平	システムデザイン、人間情報学

取得できる主な教員免許・資格

学芸員、地域調査士、GIS 学術士、社会調査士

TOPICS | 垣根を越えて多様な人々を巻き込む「共創」による多彩な学び



協力 株式会社ナビタイムジャパン 場所 同社オフィス

文化情報工学の共創が担う社会的役割は多岐にわたり、そこに貢献できるよう多種多様な形の学びの場を提供しています。その一つとして、協力企業との共同ワークショップや見学会を、カリキュラムのなかに組み込むなどして定期的に開催しています。様々な分野におけるイノベティブな企業の活動に間近で接することで、学生たちは学科で身につけてきた知識やスキルを社会といかに結びつけるのか、その思考と手法を体験的に学びます。そしてこれは学生が自身の将来像を描くための貴重な機会にもなっています。

学部・学科の枠を越えて学ぶ 全学的学際教育

お茶の水女子大学では、学部・学科の枠を越えて、全学部の学生が履修できる2つのカリキュラムを用意しています。体系化された科目群から一定の科目数を履修すると、卒業時に履修証明書を得ることができます。

全学ジェンダー学際カリキュラム

ジェンダー・男女共同参画を学際的に学ぶ

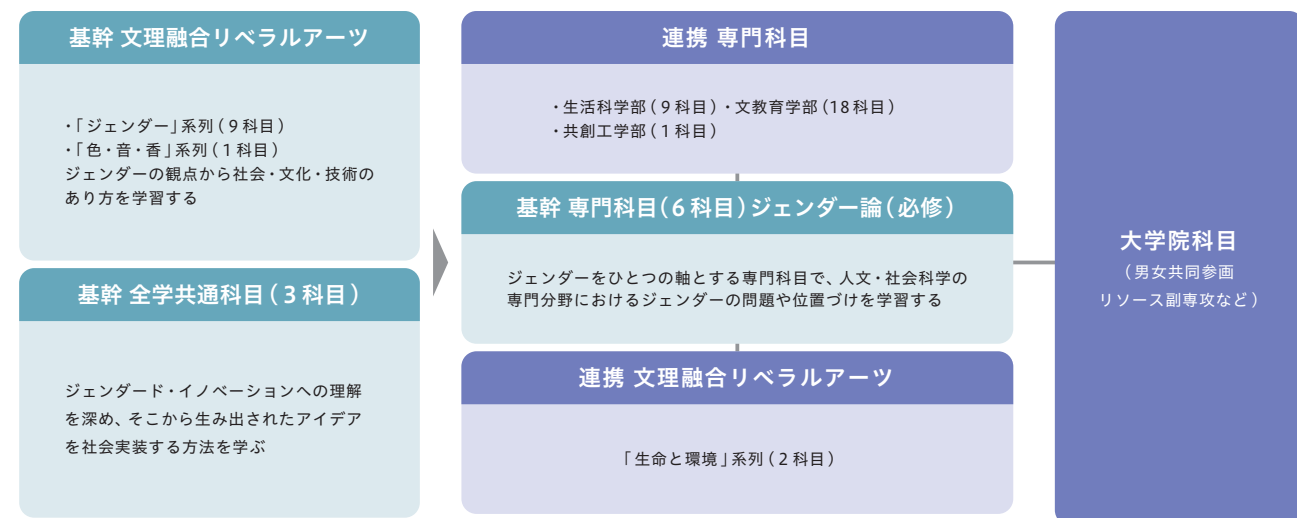
お茶の水女子大学では、性差によらず個人の個性と能力を十分に発揮できる社会の実現を目指してグローバルに活躍する女性人材の育成を行っています。

全学ジェンダー学際カリキュラムは、お茶の水女子大学で開講されているジェンダーに関する科目を体系化し、カリキュラム(科目群)として提示することにより、自分の関心を起点に、学際的・系統的に様々な角度からジェンダーや性・性別について学習することを目的としています。

本カリキュラムは基幹科目群(リベラルアーツ及び専門科目)と連携科目群から構成され、人文・社会・自然科学に基づく様々な科目が提供されています。

一定の科目数を履修した学生は、履修証明書(サーティフィケート)を得ることができます。将来様々な分野で活躍するときに、本学でジェンダーに関する幅広い知識を系統的に身につけ、男女共同参画を推進できる人物であることを示すことができます。

大学院に進学しジェンダーに関する問題を専攻する学生にとっては、多領域におけるジェンダーの学習をすすめ、ジェンダー研究の土台を築くことができます。また、学士・修士一貫教育トラックに選考された場合、大学院科目(とくに男女共同参画リソース副専攻プログラム科目)を受講することも可能です。



THE VOICE OF A STUDENT

ジェンダーの視点でつながる学び

私は歴史学とジェンダー研究の両方に興味があり、入学前から全学ジェンダー学際カリキュラムに惹かれていました。文理の垣根を超えた多様な科目を履修することで、ジェンダーという概念を多角的に捉える力が身につきました。ニュースや博物館の展示に触れるたびに、日々の生活の中で学びが生きていることを実感します。また、他学部の学生との議論を通じて多様な視点に触れ、他の学問と専攻分野を比較することで、歴史学の方法論への理解も深まりました。卒業論文では西アジアの歴史をジェンダーの視点から読み解く研究に取り組んでおり、4年間の学びを一つの形にできることに大きな充実感を覚えています。

文教育学部 人文科学科4年
Y・Nさん

第1のプログラム: 比較歴史学主プログラム
第2のプログラム: 比較歴史学強化プログラム

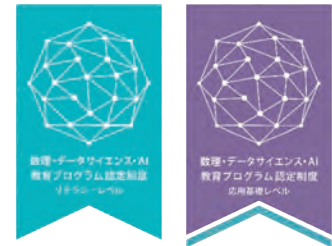
全学データサイエンス学際カリキュラム

データを使いこなすためのスキルを学際的に学ぶ

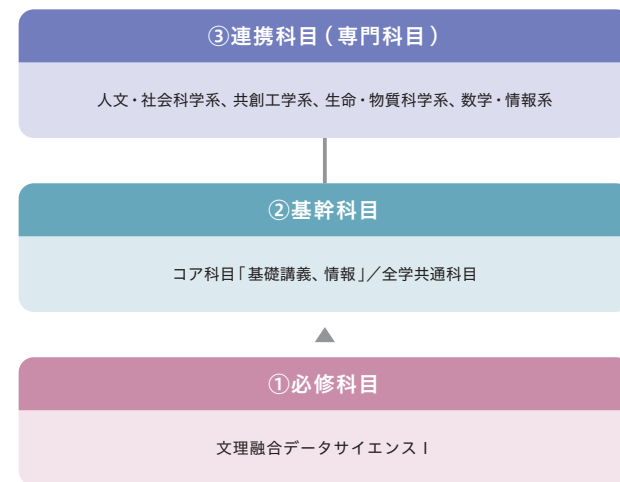
データサイエンスとは、データを処理し分析することで科学や社会に有益な新しい知見を引き出す学問や方法論の総称です。データサイエンスは統計的あるいは計算的(情報处理的)手法にもとづいてデータを分析する手法であると同時に、人間的視点や専門知識と照合しながら知見を引き出す手法でもあります。

内閣府はAI戦略2019で、すべての大学・高専生(約50万人卒/年)がデータサイエンスのリテラシーレベルを習得し、さらに一定規模の大学・高専生(約25万人卒/年)が応用基礎レベルを習得することを目標として掲げました。

本学では、このような社会的な期待に応えるべく、数理・データサイエンス・AI教育を展開しています。2021年8月には「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に、2024年8月には「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用数理レベル)」に認定されています。

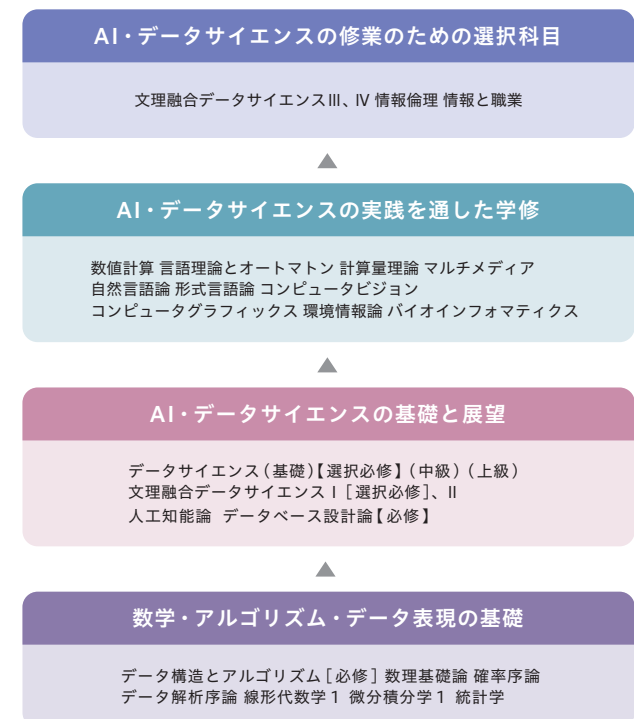


リテラシーレベル



すべての学生が統計学や情報処理学の基礎的応用的な知識を習得し、それぞれ専門分野でデータを使いこなす人材になるための科目群を提供

応用基礎レベル



R言語・Python言語を用いた実習課題を体験することで、AI・データサイエンスの実践的能力を修得することを目指す

THE VOICE OF A STUDENT

データ活用で広がる専門性

私は、2年前期までの1年半の間に「全学データサイエンス学際カリキュラム」の履修証明書を取得しました。学科の選択授業にデータサイエンス関連科目が多かったこともきっかけですが、データを扱う力は今後の社会で重要になると考え、全学部共通の授業も積極的に履修しました。授業ではRやPythonを用いたデータ分析の基礎にも触れ、データを客観的に読み解く視点を学びました。現在は、学科の実験や専門科目の学習においても、得られたデータを分析・考察する際に、こうした手法や考え方を意識するようになっています。このカリキュラムで得た知識を、今後も専門分野の学びに活かしていきたいと考えています。

共創工学部 人間環境工学科3年
O・Aさん

第1のプログラム: 人間環境工学主プログラム
第2のプログラム: 人間環境工学強化プログラム

特色ある副プログラム

複数プログラム選択履修制度では、特定の専門分野を中心とするプログラムとは別に、「領域融合型」の副プログラムも開設しています。現代社会で求められる新しい人材養成に対応するプログラムです。所属する学部第2のプログラムとして、あるいは所属に関わらない第3のプログラムとして履修できます。

文教育学部：副プログラム 日本語教育

日本語教育で始めよう、 あなたの中のグローバル化

日本語教育副プログラムの教育目標は、多様な言語、文化的背景を持つ学習者を理解し、彼らのコミュニケーション能力を向上させるための基盤となる理論や方法、専門性と実践力をもったグローバル社会の日本語教育専門家を育成することです。この副プログラムでの学びを基盤に世界に向かって羽ばたいてみてはいかがでしょうか。所定の26単位を修得することで、国家資格「登録日本語教員」取得のための一部試験および実践研修の免除を受けることができます。また、本学日本語教育コースの大学院は、日本における、第二言語としての日本語の教育・研究を牽引してきたと言っても過言ではありません。専門性を身につけたい人は、大学院進学を考えてみてはいかがでしょうか。

■ 専任教員・研究分野

教授 西川 朋美 第二言語習得、子どもの日本語教育
准教授 西坂 祥平 日本語教育学、言語教育方法論
講師 李 址遠 言語人類学、社会言語学、言語教育学
※ 2027年度新任教員が着任予定

■ 科目紹介

第二言語教授法演習Ⅰ・Ⅱ、社会言語学演習、多文化間人間関係論演習、日本語表現法概論、子どもの日本語教育学概論、日本語教育法演習Ⅰ～Ⅲ、日本語教育学研究法実習、日本語教育学概論Ⅰ・Ⅱ、異文化間教育学演習、日本語学概論Ⅰ・Ⅱ、日本語教育学特殊講義、言語と文化、多文化間交流論などの科目があります。



韓国・釜山外国語大学校で実施された海外日本語教育実習（修了式）

特色ある学際プログラム

複数プログラム選択履修制度では、特定の専門分野を中心とするプログラムとは別に、様々な分野にまたがる研究領域を学ぶ学際プログラムも開設しています。先端的研究や実践の分野で必要とされる人材育成に対応するプログラムです。所属する学部、また一部の所属に関わらない学科、コースの第2のプログラムとして、あるいは所属に関わらない第3のプログラムとして履修できます。

理学部：学際プログラム 応用数理

現代を支え、未来を創造する学問

数学は、科学と技術の発展を紀元前から支えてきました。自然現象を読み解く物理学も、コンピュータや人工知能の動作原理も、数学によって作られています。「応用数理」はそのような「道具としての数学」を身につけるためのプログラムです。微分積分を用いて体系化された物理学は未来を予測する道具であり、天気予報やロボットの制御で中心的な役割を担っています。インターネットの検索技術では、点と線の世界を扱うグラフ理論、ベクトルの計算を扱う線形代数、そして確率論的な考え方が美しく融合しています。応用数理は未来に「違い」を生み出す力を与えてくれます。

理学部：学際プログラム 物理・化学

物質を科学する人に強力なアイテムを

本プログラムでは、物理学と化学の基礎を踏まえた学際領域で、科学を探究するための基礎を身につけることができます。物理学と化学の両分野にまたがる複合的な学際領域にアプローチし、当該分野で活躍するための知識や基礎力、さらに、より広い学際的視野を身につけることを目指します。入門的講義（基礎化学、物理学概論）や基礎実験（化学基礎実験、物理学基礎実験）、また、物理学と化学の主プログラムにも属する基礎科目（物理化学、量子力学など）と同時に、この学際分野に進むために有用な発展的専門科目（反応物理化学、ソフトマター物理など）を学ぶことができます。

理学部：学際プログラム ケミカルバイオロジー

生物のしくみを“物質”の視点から解き明かす

化学や生物学の基礎をもつ学生が、その知識や考え方を発展させつつ、物質の生物への作用を知り、生命のしくみをより深く分子レベルで理解することがこのプログラムの目的です。学際分野（薬学、生命工学、農学、食物科学など）へ進むための橋渡しとなるような知識を得ることも目指しています。化学主プログラムまたは生物学主プログラムを履修した学生が、それぞれ修得した知識を深化させながら学ぶ科目と、周辺領域に視野を広げて学ぶ科目（生体分子機能・反応学、有機化学、生物物理化学、分子細胞情報学、分子構造生物学、植物生理工学、細胞生物学、代謝生物学など）から12単位以上を選択履修します。

生活科学部：学際プログラム 消費者学

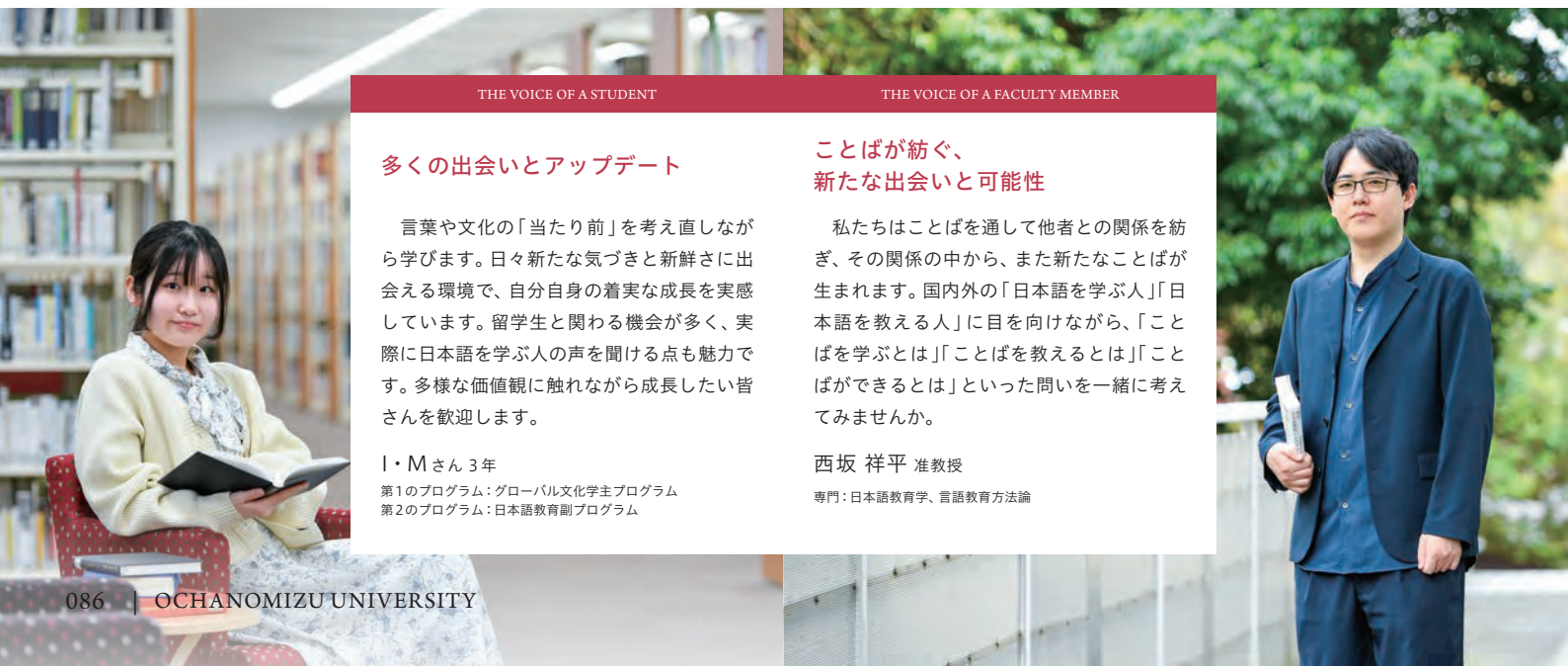
“消費者としての市民”に何ができるかを考える

「消費者学」は、消費社会における諸問題を文理の領域を超えて多角的に学ぶ、生活科学部ならではの学際的教育プログラムです。一人ひとりの市民は、消費者としての一面をも合わせ持っています。“消費者としての市民”は、現代の高度消費社会に対してどのような働きかけができるでしょうか。食品や住居、医療など人間と環境に関する自然科学の基礎を身につけたうえで、生活文化や消費者問題の歴史を知り、政策動向を理解し、経済や企業の動きを分析するツールを学び、裁判事例から消費者の権利を考えることを通して、消費社会の複合的な諸問題に主体的に向き合う力を養います。

共創工学部：学際プログラム 文化情報工学

文理の協働で文化を探究する技法を身につける

文化情報工学は、人文学と工学（データサイエンスを含む）を架橋し、それぞれの知を協働させることで、文化研究を進展させます。本プログラムでは、データサイエンスの基礎から機械学習やデータベース構築までを体系的に学習し、人文・社会分野の実データを用いた多角的な分析力を身につけます。さらに、人文学の諸分野とデータサイエンスの技法を具体的に結びつける「人文情報学（デジタルヒューマニティーズ）」の科目群を通じ、最先端の研究動向を吸収できます。これらの学びを自らの専門知に掛け合わせることで、文化の深層を鮮やかに描き出す力を得ることができます。それは、文化研究をアップデートするための強みになるでしょう。





Graduate School of Humanities and Sciences

大学院

■人間文化創成科学研究科

世界に通用する俯瞰的視野と
独創性に満ちた
真の女性リーダー創出を目指す
最高水準の研究拠点

優れた女性リーダーや研究者を輩出しているお茶の水女子大学。学部卒業後、大学院への進学を希望する学生が多いのも特長です。2025年度は、文教育学部15%、理学部68%、生活科学部30%の卒業生が本学大学院へ進み、国内外の他大学からも多くの学生が入学しています。お茶の水女子大学大学院「人間文化創成科学研究科」の博士前期課程と博士後期課程にはそれぞれ6つの専攻があり、少人数教育の利点を活かしたきめ細やかな指導の下、前期・後期を緊密に連動させながら専門性と基礎力をともに高めていきます。また、領域を超えて自在に展開する学際性を重視した多彩な教育と研究プロジェクトは、各機関から高い評価を受けており、文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム」(2013～2019年度)、「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業」(2021年度～)、「高度情報人材」(2025～2034年度)など、大型の競争的資金を多数獲得するに至っています。

大学院 Web サイト
<https://www.dc.ocha.ac.jp/index.html>



人間文化創成科学研究科 組織図

博士前期課程																				
比較社会文化学専攻						人間発達科学専攻						ジェンダー 社会科学専攻 定員 18 名	ライフサイエンス専攻		理学専攻			共創工学専攻 定員 10 名		
定員 58 名						定員 27 名							定員 39 名		定員 70 名					
日本語日本文学コース	アジア言語文化学コース	英語圏・仏語圏言語文化学コース	日本語教育コース	思想文化学コース	歴史文化学コース	生活文化学コース	舞踊・表現行動学コース	音楽表現学コース	教育科学コース	心理学コース	発達臨床心理学コース		応用社会学コース	保育・児童学コース	生命科学コース	食品栄養科学コース	遺伝カウンセリングコース		数学コース	物理科学コース
	*	*				*			*	*		*	*	*				*	*	

*学士・修士一貫教育トラックを、博士前期課程の11の専攻・コースで導入しています。英語圏・仏語圏言語文化学コースでは仏語圏言語文化専修のみで導入しています。



博士後期課程																
比較社会文化学専攻				人間発達科学専攻				ジェンダー学際研究専攻	ライフサイエンス専攻				理学専攻			生活工学 共同専攻 定員2名
定員25名				定員13名				定員4名	定員12名				定員17名 [※]			
国際日本学領域	言語文化論領域	比較社会論領域	表象芸術論領域	教育学領域	心理学領域	発達臨床心理学領域	社会学・社会政策領域	保育・児童学領域	ジェンダー論領域	生命科学領域	食品栄養科学領域	遺伝力ウンセリング領域	数学領域	物理科学領域	化学・生物化学領域	

※理学専攻の定員17名のうち、12名が情報科学領域の定員です。

大学院の特徴

大学院課程の概要

前期課程では、高度な専門性に加えて幅広い教養に基づく豊かな学識を獲得するとともに、深い洞察力や国際的に通用する広い視野を身につけます。そして、時代を先取りする先見性と強い自立心を育みます。教育プログラムでは、専攻内、コース内に必修科目を設けて隣接領域に関する関心を高めるとともに、専攻にかかわらず履修できる「男女共同参画リソース・プログラム」「キャリア副専攻」(公務員/産学連携/消費者科学)など、複数の領域横断的なプログラムを設けています。後期課程では、高度な学際的総合研究を行える創造的能力と、自立した研究活動や専門的職務を遂行できるさらなる専門性、さらにその基盤となる豊かな学識を養います。また、学生の多様なニーズに応えるために、多角的なサポートを行っています。協定大学への留学支援や海外の大学との共同学位の制度、奨学金や入学科免除などの経済的支援、卒業後のキャリア支援などのプログラムを用意し、学ぼうと望む学生たちを全面的にバックアップする体制を整えています。

複数指導制

後期課程から専門を異にする複数の教員による複数指導体制を敷い

ています。異なる領域の研究者による指導は、発想の転換や新しい視点の獲得へとつながります。また、専門性を活かせる広い視野と複眼的・領域横断的な思考力を養うためにもきわめて有効なシステムです。

学際性・国際性

専門性を支える豊かな学識を得るためにも、領域を超えた教育環境を整えています。国内外の他大学・研究機関とのネットワークや、留学機会の提供により、グローバル化する世界に通用する国際性を備えた研究者へと育成します。

キャリアパス

一人ひとりの多様なキャリアプランを円滑に実践できるように全面的にバックアップしています。特に出産や育児に対しては、充実したサポート体制を整えています。

学士・修士一貫教育トラック

大学院進学を志願する学生に対し、学部4年次から大学院授業科目の履修や研究指導を行うことにより、学部と大学院の教育を架橋し、専門的な学修を促進する制度です。

比較社会文化学専攻

社会・政治・経済が世界規模で大きく揺れ動いている今、人間・社会・文化を捉えられる、既存の学問領域を横断した新たな「学の体系」創成が強く求められています。比較社会文化学専攻は、人文社会科学分野において新たな知の地平を拓き、21世紀のグローバルな課題の解決に寄与する能力と意欲を持った人材を育てるために、前後期一貫した教育体制を敷いています。

目的は、学術的研究において指導的役割を果たす若手研究者の育成と、社会において高度な専門知識・技術を発揮できる資質の養成です。海外派遣にも力を入れ、国際的視野や国際的コミュニケーション能力の養成にも注力しています。学生の海外派遣プログラムもあり、海外での調査研究や研究発表の機会が与えられます。

前期課程	言語文化分野 日本語日本文学コース、アジア言語文化学コース、英語圏・仏語圏言語文化学コース、日本語教育コースの4コースを設置して、言語、言語を通じてなされる文学・文化表象、ならびに言語教育に関する研究・教育により、さらなる人間理解の深化を目指します。
	社会文化分野 思想文化学コース、歴史文化学コース、生活文化学コースの3コースを設置し、世界各地域を対象に、思想、歴史、生活の各側面から社会・文化の理解の深化を目指すとともに、比較の視点を採り入れた国際的研究の発展を目指します。
後期課程	芸術表現分野 舞踊・表現行動学コース、音楽表現学コースの2コースを設置し、芸術表現に対する理論的な研究と実践的なパフォーマンス力向上による相乗的な専門教育の深化を目指します。
	国際日本学領域 文学・言語・歴史・民俗・思想・文化・身体の総合学としての日本学の探求を行います。 言語文化論領域 言語、言語を通じた文学・文化表象、ならびに言語教育に関する研究・教育を行います。 比較社会論領域 新しい人文科学の創成と、平等と自由の理念の実現を希求する人材を育成します。 表象芸術論領域 文化表象・表現を多方面から専門的・横断的に追求する研究と教育を推進します。

人間発達科学専攻

個人的かつ社会的存在としての人間とその発達過程を対象に、教育科学、心理学、発達臨床心理学、社会学、保育学、児童学などをベースとして多様なコースを設け、理論的、応用的、学際的にアプローチし、高度な女性研究者、職業人を育成しています。

前期課程では、経験科学的方法論の基礎を修得し、社会的・心理的諸問題の解決を目指して実践的な課題に向き合い、社会・人間・発達を総合的・有機的に結びつける理論を身につけます。後期課程では、人間の発達に関わる幅広い学問領域を結集して、広い視野から学際的・総合的に教育研究を行うとともに、個々の領域での専門性を高めます。

教育科学コース／領域

幼児期から成人期、日本や海外、過去から現在の子育事象まで、教育学の諸領域を多角的なアプローチにより研究できます。人間の生涯にわたる発達の過程を多様な方法論により科学的に深究するとともに、諸教育問題の解決に資する実践的な研究を行います。

心理学コース／領域

認知、発達、教育、社会、人格、臨床などの領域における基礎から先端的研究まで、広範囲な研究方法論や知識を獲得します。人間の心理を、脳を核として、発達という時間軸、社会という空間軸の中で多角的・総合的に検討し理解する人材を育成します。

発達臨床心理学コース／領域

医療、教育、福祉、産業、司法領域の臨床経験を持つ教員たちにより、博士前期課程では公認心理師、臨床心理士の2つの資格に対応したカリキュラムが提供されています。博士後期課程では臨床心理学の女性リーダーとなりうる研究者を養成しています。

応用社会学コース／社会学・社会政策領域

現代社会の諸問題（コミュニケーション、メディア、ジェンダー、権力、差別、地域、家族、福祉、医療など）を、社会科学の理論と方法で解明し、実践的な解決策の提案へとつなぎます。

保育・児童学コース／領域

保育、教育、環境、社会、制度、歴史、心理、発達など多様な境界領域から保育・児童学を研究する教員を配置し、テーマの焦点化、研究方法論の検討プロセスを重視しながら研究を行います。



THE VOICE OF A STUDENT

ダンスを専門的に 深められる環境

ダンスと社会、観客をつなぐ役割について興味を持ち研究しています。ダンスを専門分野として学べる大学院は非常に希少であり、同じ関心を持つ仲間と密度の高い学びを共有できる点が大きな魅力です。授業やゼミでは教員との距離が近く、相談できる環境が整っていると感じます。

N・Hさん（博士前期課程2年）
比較社会文化学専攻 舞踊・表現行動学コース



THE VOICE OF A STUDENT

心理学的視点から 働く人を科学する

私は働く人のwell-being向上をテーマに研究を進めています。本専攻には、研究方法論を基礎から学び、自分の研究テーマに即した多様な視点と実証方法を獲得していくという特徴があります。仲間や教員との議論を通じて視野を広げ、社会に貢献する研究に挑戦できる環境です。

M・Sさん（博士後期課程2年）
人間発達科学専攻 心理学領域

ジェンダー社会科学専攻／ジェンダー学際研究専攻

学際的視点からジェンダー研究の確立・重点化を図る日本初の専攻です。21世紀を展望する新領域の開拓にふさわしい学際的教養と学力を養成し、ジェンダー論の視点を積極的かつ批判的に取り入れ、とくに地理学・社会科学の教育研究に関して独自の可能性を追求しています。本専攻の出身者は、各領域の研究者はもとより、男女共同参画社会構築の担い手、グローバル化する世界における様々な国際的活動、地域社会に根ざした草の根的な活動などの場で活躍しています。

人間・自然・社会に関わる諸現象を、グローバルな視点とローカルな視点を交差させながら、学際的・複眼的に解明する分析力と、分析の成果を現実の社会問題の解決・改善へと結びつけていく応用力・実践力を備えた人材を育成します。

前期課程	前期課程のジェンダー社会科学専攻では、以下の3つの科目群から、各自のテーマ等に応じて様々なパターンで科目選択ができるようになっています。 *ジェンダー研究科目群＝ジェンダー研究の基礎から最先端までをカバーする多彩な科目群。ジェンダー論を集中的に学び、社会や文化の諸問題に対する批判的な思考力を磨くことを目指します。さらに、より高度なジェンダー研究へと進む経路ともなります。 *専門科目群＝地理学、地域研究、開発学、法学、政治学、経済学、社会学等の各学問分野における専門的科目群。個別ディシプリンを基礎から発展のレベルまで体系的に修得するためのカリキュラムです。 *学際方法論科目群＝視野を広げ、方法論を磨く科目群。分野の異なる複数教員による学際共同演習や調査法（量的、質的、フィールドワーク等）に関するコースワークなどを提供します。研究を進める前提として、広角の視野と厳密な方法を身につけてもらうことが目的です。 また、国内外のジェンダー研究の拠点や海外協定校などとも連携して多彩なカリキュラムを提供します。 本学出身者はもちろん、多くの留学生・他大学出身者・社会人院生が切磋琢磨して学んでいる専攻です。
	ジェンダー論領域 地理学、地域研究、開発学、法学、政治学、経済学、社会学などの学問領域をベースに、ジェンダーの視点から性、家族、労働、人権、教育、開発援助、環境、テクノロジーなどの現代の社会的課題を分析・研究します。
後期課程	

ライフサイエンス専攻

人間の生活は、環境との調和のもとに成り立っています。しかし科学技術の発展に伴う利便性の追求が、その環境を危機にさらすという現実を生じさせています。ライフサイエンス専攻では「生命と生活」を対象に、“Life”という言葉に込められた多様な分野を学び、研究しています。生命科学、環境、食品栄養、遺伝、疾患など、基礎から応用に至る多様な分野において、理学・工学・生活科学などの学問分野を有機的に統合させつつ、人類を取り巻く環境と生活について探求します。前期課程で企業や教育・研究機関、保健医療機関などで活躍する基礎を身につけ、後期課程で博士号を取得し、ライフサイエンス分野のリーダーとなり得る力を養います。

生命科学コース／領域

変動する環境の中で生きる生物の真の姿を理解するために、生物の普遍性と多様性の両面を対象として、遺伝子、ゲノム、生体分子、細胞、個体、集団、生態系といった様々なレベルで基礎研究を行います。

食品栄養科学コース／領域

食物を美味しく食べる方法、生活習慣病の予防、食の安全性などの問題の解析・解決を目指し、食物や栄養に関する基礎的研究から応用開発、臨床対応までできる食物と栄養のスペシャリストや研究者、管理栄養士のリーダーの養成を目指します。

遺伝カウンセリングコース／領域

医療保健の場において、遺伝に関連する状況の遺伝学的関与の医学的影響、心理社会的影響および家族への影響を理解し、かつ、適応していくことを支援する遺伝カウンセリングを実践できる優れた遺伝カウンセラーの養成と、遺伝カウンセリングに関連した研究を行っています。

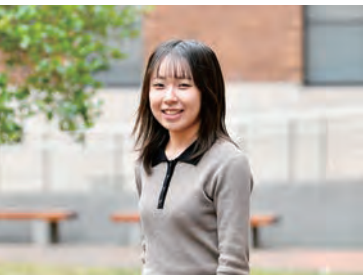


THE VOICE OF A STUDENT

ともにジェンダーから 問い直す

ジェンダーの視点から生殖補助医療の法整備を研究しています。本専攻では学問を横断して、ジェンダー課題の複雑性を多角的に紐解きます。研究を重ねるほど問いが増えていきますが、分野を越えた仲間や先生との議論を通じ、視点を再構築しながら学びを深め、知を探求しています。

E・Yさん（博士後期課程2年）
ジェンダー学際研究専攻



THE VOICE OF A STUDENT

生き物の生き方を探る楽しさ

私は古生代から生きた化石として存在しているウミユリについての研究を行っています。今まで誰も知らなかった、その生き物についての新たな一面を誰よりも先に知ることができるのが研究の魅力です。先生方の手厚いサポートや研究設備が充実している本専攻で発見を楽しんでいます。

I・Hさん（博士前期課程2年）
ライフサイエンス専攻 生命科学コース

理学専攻

理学専攻の「理学」という名称は、大学院においても物事の本質を理解する「真理の探究」という姿勢を重視していることを表しています。これまで科学・技術は私たちの生活をたいへん豊かなものにしてきました。これを支えているのは基礎科学です。基礎科学は応用科学とも密接に結び付いており、優れた応用研究を行うにはしっかりした基礎が欠かせません。

理学専攻では、数学・物理学・化学・生物化学、情報科学の各専門分野を広く深く理解するとともに、基礎に基づいた科学的思考力と論理性を涵養することを目的としています。後期課程では、グローバルな時代の中で「世界で通用する研究者の資格」である博士号の取得を目指します。

数学コース／領域

様々な分野との関連も視座に入れながら、代数、解析、幾何の純粋数学の各分野で、数学理論の展開に関する高度な専門教育と研究を行っています。教育では数学の立場からの学際的研究能力を培うことを目標に、高度な数学的知識と数学的な運用能力をもつ専門職業人、教師、研究者等を養成します。

物理科学コース／領域

素粒子論・宇宙物理・統計力学・物性理論、実験分野としては素粒子実験・超伝導・スピントロニクス・ソフトマターに至る領域をカバーし、物理現象を理論と実験の双方向から、直感的かつ論理的に理解し得る能力の養成を行っています。物理学の研究能力を高めるとともに、還元論的、多元的なものの見方を修得し、その問題解決能力を向上させることを目指します。

化学・生物化学コース／領域

物質を構成する広範な種類の分子、生体関連分子を対象に、その構造と性質、合成と反応、機能と現象に重点を置きつつ、物質科学、材料科学、有機合成化学、複雑系科学、生命科学などの幅広い観点から教育・研究を行います。

情報科学コース／領域

情報科学の基礎から応用までの幅広い分野が連携して研究を行うことで、高度情報化社会で要求される情報科学的な理論と応用を明らかにしていきます。次世代の情報科学に必要な数理科学手法、現代情報科学の基礎となる計算機科学手法とその応用、自然・生命現象、生活科学などから生まれる様々な情報の利用・解析手法を研究します。

共創工学専攻／生活工学共同専攻

社会は大きく変化し、経済発展だけでなく様々な社会の要請に応える必要があります。そのためには、多様な「知」とともに多角的な「視点」が必要とされ、ジェンダーに関わらない多様な人材養成が必要となります。モノづくり、技術の創造、イノベーションには特にこの考え方が重要ですが、工学系分野では日本でのジェンダーギャップは極めて大きく、この解消が喫緊の課題となっています。工学系での専門的立場における女性人材のニーズが高まる中、本学では令和6(2024)年度に「文化」「社会」の知を「工学」と協働させ、安全、安心、快適な社会のための技術の構築と技術に応用した文化の創造を目指す共創工学部を立ち上げました。この理念を持ちつつ高度な技術と知識、さらに実践力を併せ持ち、リーダーシップを発揮できる専門家を育成する高等教育機関として、令和8(2026)年4月に博士前期課程「共創工学専攻」を設置しました。

共創工学専攻において学べる分野は、以下の3つに大別されます。

人間：人間工学、健康科学、自然人類学、言語情報学、バイオマテリアル、生活機能材料、生活工学、認知科学 など
環境：水環境工学、建築環境工学、人間環境工学、設計デザイン、地理情報学、地理学 など
文化情報：データサイエンス、文化情報工学、マルチメディア、データ工学、舞踊と工学、建築史学、デザイン工学 など

前期課程においては、共創能力、専門力、実践力の3つの力を順に積み上げていくカリキュラムが組まれています。履修科目は、共創基礎科目群、専門科目群、専門実践科目群の3つに分類されており、これらを順に学びます。また、科目履修により学んだことを踏まえながら各自の研究テーマに取り組むことにより、3つの力を高度に備えた人材が育成され、実社会で活躍できる人材がより多く輩出されることを目指しています。

生活工学共同専攻では、工学諸分野の基礎から応用まで幅広く理解した上で、人間生活における諸課題を柔軟に捉えて研究する能力を有する人材の育成を目指しており、博士後期課程(博士)の学生を、従来通り募集します。

なお、共創工学専攻を修了した後、博士後期課程に進学する場合、研究分野やテーマにもよりますが、一貫した研究指導を受けることは可能です。



THE VOICE OF A STUDENT

教員と近い研究環境

私は有機化学を専攻し、新しい化合物の合成や測定のために日々実験に取り組んでいます。本領域では、研究室内外で教員と学生の距離が近く、研究を多角的な視点から考えることができます。少人数ですが設備が整っており、研究に集中できる環境が魅力的だと感じています。

T・Fさん(博士後期課程3年)
理学専攻 化学・生物化学領域



THE VOICE OF A STUDENT

多角的視点で深まる理解

私は細胞培養に用いる高分子ゲル材料の研究を行っています。材料工学に加え、細胞生物学など多分野の知識を融合し議論する過程に面白さを感じています。本専攻の特徴である「分野横断的な学び」により、複雑な社会・現象を多角的な視点で捉えることで研究の発展に繋がっています。

A・Kさん(博士前期課程2年)
生活工学共同専攻

副専攻プログラム

大学院では専門性を深めることはもちろんですが、同時に視野を広げることも重視しています。そのために、各専攻の専門教育の充実を図るだけでなく、領域横断的な副専攻プログラムを設けています。

■ 男女共同参画リソース・プログラム

男女共同参画アドバイザーや各地の男女共同参画センター及び女性センターの専門員や管理職、JICAなどの国際機関の女性に関わる案件の専門家など実務家育成を目途としています。さらに、研究者であれば、大学及び研究機関での男女共同参画やセクシュアル・ハラスメントに関する見識のある人材を、文化マネジメント専従の専門家に対しては、ジェンダー視点からのアイディアによる企画展示ができる人材を、そして企業においては、広く人事・キャリア形成のアドバイザーや男女共同参画の視点で製品・サービスの研究・開発ができる人材を育成することを目指しています。

■ コア・サイエンス・ティーチャー(CST)プログラム

CST副専攻では、小学校及び中学校の理科に熟達し、児童生徒の観察・実験の指導や自由研究の指導、そして地域教育資源等を活かした教材開発、さらには教員研修を実施できる総合的な理系人材を養成します。そのために、科学教育特別研究、科学教育基礎、科学教育Ⅰ・Ⅱ、科学教育教材研究、サイエンス・コミュニケーション論の6科目(博士前期・後期課程共通)とCST総合研究(博士後期課程のみ)を開講します。なおこれらの授業は、小学校と中学校理科の接続や、豊富な実験実習や先端的なトピックスを含みます。

大学院生へのサポートシステム

経済的支援

お茶の水女子大学では、学部を卒業、または一度社会に出た後でさらに学ぼうとしている学生を応援するために、様々な経済的サポートを行っています。学部と共通の奨学金のほかに、大学院独自の奨学金もあります。また、支援プログラムとして、学内で教員や研究のアシスタントとして働きながら大学院で学べる制度も用意しています。

海外での研究・留学支援

海外での研究活動や協定大学への留学を積極的に支援できるように、多彩なプログラムや制度を設けています。

大学院修了後のキャリア支援

博士号取得後、就職するまでに待機期間が生じることがあります。こうした常勤研究職になる前の研究者(ポスト・ドクター)のために、お茶の水女子大学では経済面と身分上の便宜を図り、研究を継続できるように支援しています。

■ 日本文化論プログラム

本学大学院では、大学院修了後に国際的な場で社会貢献を行う人材(留学生を含む)の育成を積極的に推進しています。こうした学生が日本文化と日本の思惟方法を理解することは、日本文化理解の適切な国際標準の形成に資するでしょう。さらに、グローバル化に伴う価値一元化傾向に対する批判的視点を積極的に提示し、それを通じて多様な文化の共生を促進する一助となることも期待されます。

■ キャリア副専攻

[公務員][産学連携][消費者科学]

博士前期課程修了後に高い専門性を活かすための実践的な就業力を育成することを目的としたカリキュラムです。

現代社会は、不確実性が高く、将来の予測が困難であるため、職業生活において求められる知識が高度化、複雑化しています。キャリア副専攻では、世界的に見て、高度な専門性を備え、活躍するリーダーの多くが博士前期課程を修了しているという最近の動向を踏まえて設置しています。

研究環境の支援

大学院生がより円滑かつ快適に研究活動を行えるように、環境整備にも注力しています。図書館には大学院生専用の研究スペースを設置し、論文作成に有用なデータベースなどをスムーズに利用できる環境を整えました。また、学内で所蔵していない資料の複写や図書の取り寄せを無料で行えるサービスも、他大学に先駆けて実現しています。2024年度より他大学から図書を取り寄せた際の返送料の一部を大学が負担しています。

ライフコースの支援

お茶の水女子大学では、女性が生涯にわたって学ぶ機会を得ていけるように、女性のキャリアプランとライフプランの両立を実現するためのサポートを行っています。育児では、ベビールームや学内保育所、おむつ替えスペースや子どもと一緒に宿泊できる学内施設などを整備し、学業・研究を円滑に行える環境を整えています。

詳細は大学院案内2027をご覧ください。▶ https://www.ocha.ac.jp/plaza/info/dc_info.html



研究を支援する豊富な研究所

グローバル女性リーダー育成研究機構

長年にわたるジェンダー及びグローバルリーダーシップに関する研究・教育・実践を一層発展させ、国際的に活躍する女性リーダーの育成と男女共同参画社会を実現する国際的教育研究拠点となることを目的としています。本学の強みであるダイバーシティ&インクルージョンを拡大させ、女性の活躍促進やウェルビーイングの向上に貢献します。

グローバルリーダーシップ研究所

リーダーシップ養成に関する総合的、国際的な研究及び調査の実施や、教育を通じてリーダーシップ養成に関わる研究者の育成に資することを目的とし、学生海外派遣プログラム、社会人女性を対象とした生涯教育講座等様々な事業を行っています。



ジェンダー研究所

女性文化資料館を前身として、2025年に50周年を迎えた本研究所は、ジェンダー研究の国際的な学術拠点です。研究プロジェクトの実施、国際シンポジウム等の開催、若手研究者の育成、学術雑誌の刊行、その他の成果発信と社会還元を推進しています。



ジェンダード・イノベーション研究所

男女における体格や身体構造と機能の違い、加齢に伴う変化、社会的・文化的影響など、性差の視点を考慮した研究および技術開発を推進しています。性差の視点に基づいた研究、イノベーション、社会発信を推進するハブ組織を目指しています。

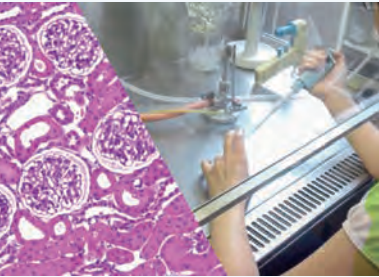


ヒューマンライフイノベーション開発研究機構

今後望まれる健康長寿社会の実現、及び持続可能な社会や環境の形成に資するため、企業・研究機関等と連携した先端研究拠点を形成するとともに、知的財産創出や具体的アウトカムを設定した実装型研究を推進します。

ヒューマンライフサイエンス研究所

人が生涯にわたり健康で心豊かな生活を送るための研究・開発を推進し、安全・安心な社会環境の構築に資するイノベーションを創出する拠点を構築します。さらに成果に基づいた教育プログラム等を作成し、社会への還元を図ることを目指しています。



人間発達教育科学研究所

人間の発達や教育に関する総合的で国際的な研究拠点を目指し、研究活動を推進しています。子ども達の教育的・社会的格差の解消を志向する研究を含め、子どもから青年期以降までの発達の質向上に向けた施策策定に貢献することを目指しています。



総合知開発研究機構

社会の革新には教養知と専門知に実践知を結びつけた「総合知」を備えた人材が必須です。本機構では総合知を獲得するためのコンピテンシー育成を戦略とします。コンピテンシーとは課題を発見し知識やスキルを状況に応じて組み合わせるなどして社会の場で成果をあげる包括的能力とその行動特性です。

コンピテンシー育成開発研究所

コンピテンシーとは、社会の場で成果をあげる資質や能力を意味します。コンピテンシーベース教育と研究の推進に向けて、学生のコンピテンシーの向上を図る活動と、幼児期から大学期までのコンピテンシーに関する研究と成果の発信を行っています。



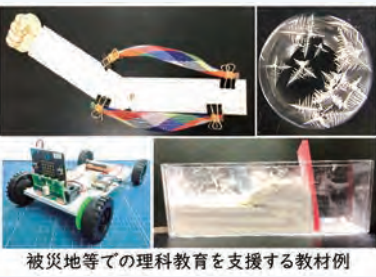
理系女性育成啓発研究所

女子学生・生徒の理工系分野の進路選択促進及び理工系人材の育成に資するための活動を行っています。理系分野を学ぶ楽しさを発信するイベントや、理系女性ロールモデル講演会「リケジョ-未来シンポジウム」を定期的に開催しています。



サイエンス&エデュケーション研究所

理科・科学教育とサイエンスコミュニケーションの研究実践活動を行っています。理科教材の開発、小・中学校への教員研修・出前授業、スーパーサイエンスハイスクールでの探究活動支援、さらに「理科支援員」を養成する公開講座などを実施しています。



サステナブル社会実装機構

持続可能な社会の創成には、社会全体でSDGs達成を推進することが必要です。社会課題解決のための研究・イノベーション拠点を構築し、文理を越えた先端研究の推進により、SDGsの理念である「誰一人取り残さない、持続可能な社会の実現」を目指します。

SDGs推進研究所

食糧問題や資源リサイクルなど、生活者を起点とした持続可能な社会の実現を目指す研究を推進しています。また大学と附属学校園によるフードドライブや、学生委員によるプロジェクトのサポート、企業と連携したイベントなども実施しています。



湾岸生物教育研究所

湾岸域の生物と環境に関する研究と教育を推進し、フィールド・フロントエンドでの教育活動を通して、自然科学や環境への理解を深めることを目的としています。小中高校への海洋教育のための生物提供や大学生対象の公開臨海実習を実施しています。



Ochadai Life

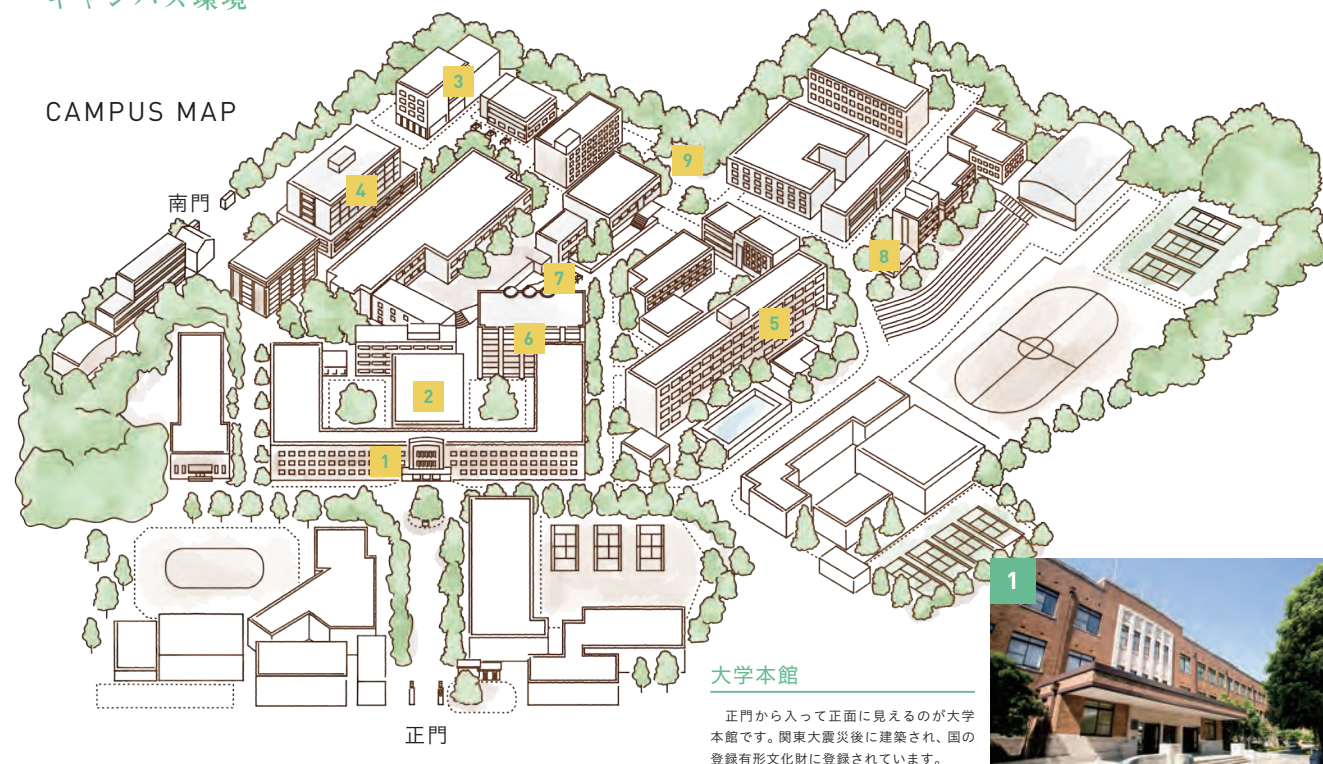
知と緑が織りなす、豊かなキャンパス
整った環境でかけがえのない
学生生活を過ごそう



Campus Environment

キャンパス環境

CAMPUS MAP



大学本館

正門から入って正面に見えるのが大学本館です。関東大震災後に建築され、国の登録有形文化財に登録されています。



Student Commons・Student Commons Annex

Student Commons・Student Commons Annexは、単なる集会の場としてではなく、学生相互並びに学生・教職員間の親睦を深め、学生の教養を高め、課外活動を盛んにするとともに、学園生活を豊かにすることを目的としています。運動やダンス、ピアノ演奏ができるマルチパーパス等を設けています。

Student Commons

2階…マルチパーパス1～2、
個人練習用スタジオ1～2
1階…ラウンジ、事務室、給湯室、
飲料自販機コーナー、アトリエ、
和室、徴音祭実行委員会室

Student Commons Annex

共用部室1～8、和室、ピアノ室1～5、
軽音楽室、マルチパーパス3



図書館

附属図書館は、本学の教育・研究機能を支える総合図書館として、学習図書や研究図書、電子ジャーナル、電子ブック、データベース、視聴覚資料のほか、ジェンダー研究や幼児教育関連など本学特有の貴重な資料群を提供しています。1階はくつろいで過ごしたりグループで話し合いながら学習できるコモンズフロア、2階は静かな環境で資料の閲覧や学習ができるラーニングフロアとなっており、様々な学習スタイルに応じた多彩な学習環境を備えています。1階には、ピアノのミニコンサートも開催されるウェルカムラウンジ、広々としたスカイ グローバル ラーニング コモンズ、デスクトップPCが並ぶPCスクエア、グループワークに最適なミニコモンズ、プレゼンテーションルームがあります。そのほか、図書館総合カウンターやLALAデスク、情報基盤センターの窓口があり、みなさんの学びをサポートしています。2階には、約10万冊の図書が並び自由に利用することができます。また、静謐な環境で個人学習に取り組むことができるアカデミックラーニングスペースやクワイエットラーニングルームがあります。学習・研究スタイルに合わせて図書館を大いに活用してください。



徴音堂（大学講堂）

大学本館中央に位置する講堂は、徴音堂（きいんどう）と呼ばれ、入学式や卒業式などの式典が執り行われています。



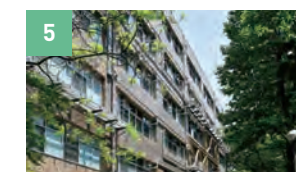
共通講義棟

主に教養課程の基礎講義や語学科目が開講され、大小様々な教室と学生生活に必要な設備を備えています。



文教育学部1号館

南門に一番近い建物が文教育学部1号館です。2024年5月に改修が完了し、図書室や学生控室も広く、新しくなりました。



理学部1号館

2022年改修の理学部1号館には、個別学習やディスカッションにも使えるアクティブラーニングスペースが設置されています。



総合研究棟

地上8階、地下1階の総合研究棟には太陽光パネルが設置されています。パネルはお茶の葉をモチーフにしています。



パーゴラ

総合研究棟前のパーゴラでは、授業の合間に会話を楽しんだり、読書をしたり、思い思いに時間を過ごす学生たちの姿が見られます。



茶室「芳香庵」

庵号「芳香庵」は、この茶室から教養・知性の香りが社会へ広がるように、との願いをこめて命名されました。



おちあのterrace

学生寮音羽館の南側にあります。自然を感じられ、春には枝垂れ桜を楽しむことができる、構内の癒しの空間です。

Student Support

学生生活サポート

初めての大学生活、
弾む期待と不安な気持ちに寄り添い、
一人ひとりの学生を
きめ細やかにサポートします

「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」というミッションを掲げるお茶の水女子大学では、学生一人ひとりの学びと安心・快適な学生生活を支援する制度を揃えています。キャンパスライフの様々な悩みや相談にお応えします。

学びのサポート

学年担当・指導教員制度

学生生活をより豊かに過ごしてもらうために、各学科・講座・コース、学年毎に学年担当教員または指導教員を配置しています。授業の履修に関することや、休学や転学科など学生の身分に関することから、健康問題など大学生活に関することまで、在学中の様々な問題を気軽に相談し、助言を受けることができます。

ピアサポートプログラム

ピアサポートプログラムは、教員や事務職員に聞くにくいことを、身近な先輩や友人に気軽に相談できる学生同士の支援制度です。先輩サポーターが新生生の学習支援をしたり、異学年の交流・就職活動や進路の情報交換などを行ったりしています。

キャンパスメンバーズ・パートナーシップ

学生証を提示することで、以下の博物館等では常設展示は無料で入館でき、劇場等ではチケットを割引料金で購入することができます。

◆ 国立科学博物館 ◆ 東京国立博物館 ◆ 東京国立美術館 ◆ 国立劇場



安心・安全のサポート

学生相談室

学生生活、対人関係、自分自身、将来のことなどについて相談できる相談室です。家族や友人のことで悩んでいる、気分の落ち込みや不安がある、授業に出席できないなど、様々な相談について臨床心理士、公認心理師の資格をもった心理カウンセラーがお話を伺います。

安否確認システム

東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県で震度5以上の大きな地震が発生した場合、各自が登録しているメールアドレスに安否確認のメールが配信されます。学生・教職員がそのメールに返信することで、大学は安否状況を確認することができます。

健康管理

健康で充実した学生生活を送れるように、保健管理センターの医師、看護師が健康に関する相談・診察を行っています。毎年4月には定期健康診断を実施し、学生の健康の保持・増進、病気の予防や早期発見に努めています。

学生保険

授業・学校行事・課外活動等の学生生活中に不慮の災害・事故でケガを負った場合に備える学生教育研究災害傷害保険（学研災）と、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりしたことによる法律上の賠償責任に対応する学研災付帯賠償責任保険に加入することができます。



Cafeteria

学生食堂



ランチタイムに集う場所
栄養バランスのよい
豊富なメニューから
今日のお気に入りを見つけよう

学内の食堂（NSSOL Kitchen）には、栄養満点の充実したメニューが揃っています。ランチタイムになると午前の授業を終えた学生たちで賑わいます。また、昼食営業と夕食営業の間の時間帯は、学生のための自習スペースとしても開放しています。飲食や会話を楽しみながら友人たちと勉強できる場としても、多くの学生に親しまれています。

食堂（NSSOL Kitchen）

学生の毎日の健康を願い、心を込めて作っています。

昼食営業は、1日約30種類のメニューが週替わりで並びます。季節メニューやイベントメニューも月替わりで提供され、毎日利用しても飽きのこないメニュー構成となっています。

通常営業時間

11:00～13:30 昼食営業（カフェテリア方式）
16:30～18:30 夕食営業（ビュッフェ方式）



購買書籍部

お弁当から教科書まで、学生生活に必要な商品を揃えています。

お弁当やパン、お菓子などの食品や飲料を販売しています。また、文具や日用雑貨なども取り扱っており、実習に必要な白衣や割烹着、保護メガネなども購入が可能です。お茶大グッズも販売しています。

通常営業時間

10:30～17:00



Dormitory

学生寮

学部・学年を超えた仲間とともに、安心・安全な生活を

音羽館

お茶の水女子大学音羽館は、学生がキャンパス内で安全で快適な生活を送りながら、寮生との共同生活を通して、自律した学びや交流を深めることを目指した学生寮です。ユニットシャワー、トイレ、ミニキッチン等を備えた個室でプライバシーを確保すると同時に、各フロアに共用コンセプトルーム「OCHA-no-MA」を導入し、学生同士の交流を楽しめるスペースも用意しています。

大学までの所要時間	学内
建物・居室概要	鉄筋コンクリート造・個室
収容定員	450名
対象学生	学部生、大学院生
寄宿料(月額)	48,800円



居室



ライブラリー



中庭



エレベーターホール

寮生VOICE

お茶の水女子大学構内にある音羽館は、学内施設への抜群のアクセスが魅力です。附属図書館まで徒歩30秒であるため、休日でも豊富な蔵書に囲まれながら集中して学習に取り組むことができます。安心のセキュリティ体制で、学生生活をしっかりとサポートしてくれる個室には、充実した設備が備わっており、快適な毎日を送ることができます。

OCHA-no-MA

「個」の空間を守りつつ「集団」で過ごす安心感を生み出します。各階の談話室には異なったコンセプトがあり、用途に合わせて過ごす場所を選ぶことができます。



たたみの間



シアタールーム



キッチンスペース



シャワーブースとトイレは別になっています。

ベッドや机などの家具は備え付けで用意されています。

お茶大SCC

お茶大SCCは人と人のつながりを大切にする学生寮です。5人1組で「ハウス」を構成して暮らすルームシェア型で、プライバシーを守った個室を確保しつつ、キッチンや浴室、リビング等は共同で使用します。寮生は全員が「寮生協議会」に所属し、学部3年生「レジデント・アシスタント」のサポートを受けながら、自分たちの手で寮生活を円滑にするための体制を整えています。また、「学修プログラム」では、本学の教授等による講演後にグループ毎に学修を深め、発表会を行います。また寮祭、歓迎・送迎パーティーなどハウスを超えた交流があります。SCCの活動に積極的に参加し、他者との関係の中で一人ひとりが主体性をもって寮生活を送ることを期待します。

大学までの所要時間	徒歩3分
建物・居室概要	鉄筋コンクリート造・個室
収容定員	50名
対象学生	学部1～2年生
寄宿料(月額)	30,000円



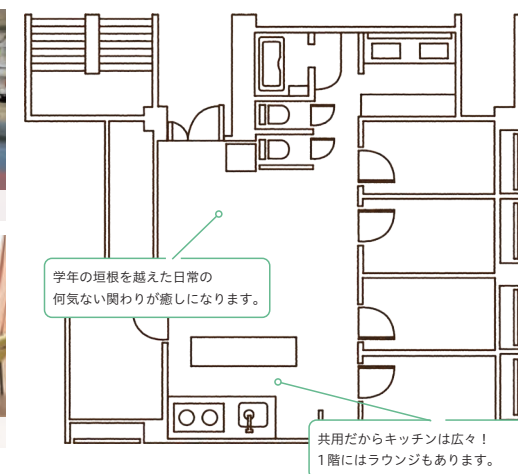
居室



ラウンジ



リビング



学年の垣根を越えた日常の何気ない関わりが楽しくなります。

共用だからキッチンが広々！1階にはラウンジもあります。

寮生VOICE

学校や駅に近い上家賃が安いこと、家具や家電を揃える必要がないこと、いろいろな出身地・学部の友人ができることから入寮を決めました。SCCはリビングやキッチンが広く、のびのびと生活できることも魅力です。1年次は履修やSCC周辺の便利なお買い物場所などを同室の2年生に教えてもらい、安心して大学生活を始められました。

SCC年間行事(2026年度例)

3月	新入寮生ハウス仕様紹介
4月	SCC-RA任命式、オリエンテーション、ウェルカムパーティー、春季大掃除
5月	1年生ワークショップ①
6月	第1回学修プログラム
7月	夏季大掃除、学部オープンキャンパス
9月	前後期中間ワークショップ

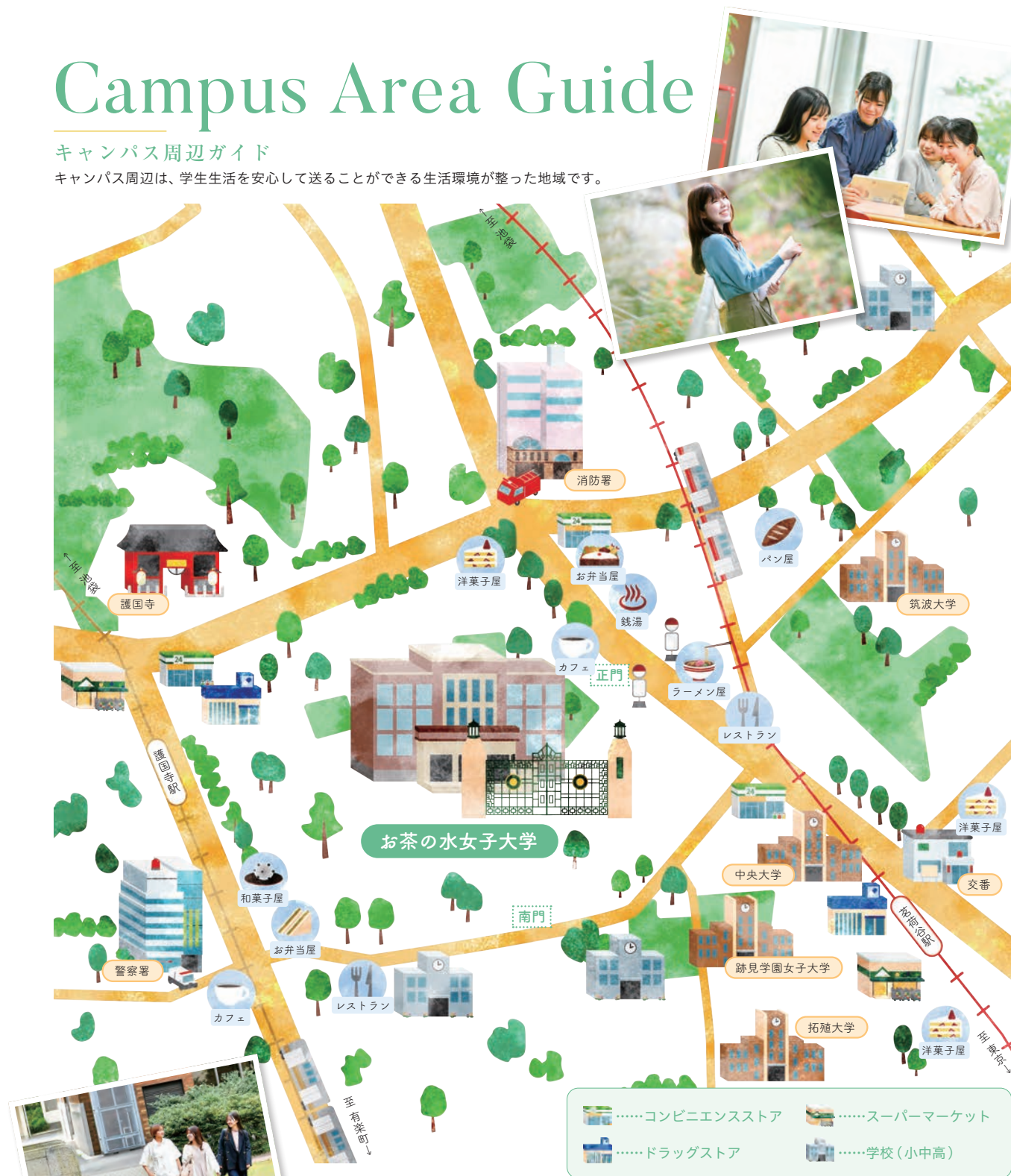
10月	SCC寮祭
11月	1年生ワークショップ②
12月	第2回学修プログラム、新RA研修
2月	新2年生研修①
3月	年度末大掃除、SCC修了式、さよならパーティー、居室替え、新2年生研修②



Campus Area Guide

キャンパス周辺ガイド

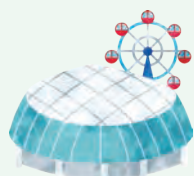
キャンパス周辺は、学生生活を安心して送ることができる生活環境が整った地域です。



... CHECK ...



池袋駅まで
電車 15分



後楽園駅まで
電車 10分



上野駅まで
電車 30分



新宿駅まで
電車 30分



東京駅まで
電車 20分

Campus Calendar

年間行事



お茶大には、
チャレンジへのヒントがたくさん
経験や出会いが
未来につながる糧になる

大学生活の一つひとつの出来事が、
かけがえのない思い出となります。
様々な活動に挑戦して、
新しい発見や出会いをたくさん掴んでください。

お茶大の学園祭「微音祭」

毎年11月に開催される、長い歴史を持つ学園祭です。学内外問わず様々な人との繋がりを感じながらお茶大の魅力に触れられる特別な2日間。模擬店をはじめ、芸能人ゲスト企画・緑日・受験生相談室・キャンパスツアー等の実行委員会企画も行われます。お茶大生一同、第77回微音祭へのご来場を心よりお待ちしております。

Extracurricular Activities ～課外活動～

MuSA (Museum Student Assistant)

歴史資料館のアシスタントとして、資料の保存・管理、展示の作成や展示案内などを行っています。学芸員業務の一端に触れることができます。



LiSA (Library Student Assistant)

学内インターンシップとして、図書館職員と協働し、図書館活性化のための活動を行っています。図書館の通常業務のほか、自主企画にも積極的に取り組んでいます。



LALA (Library Academic Learning Adviser)

図書館内で学習・研究の相談に応じている大学院生です。ピアサポートとして、対話を通して改善方法を探し、学生の主体的学習を支援しています。



Ochadai 学生アンバサダー

学生ならではの視点で大学の魅力を発信しています。高校生向け見学会での大学説明やオープンキャンパスでのキャンパスツアーなど、広報職員と連携して行っています。



4 April
●入学式
●新入生オリエンテーション
●健康診断
●1学期・前学期授業開始
●大学院オープンキャンパス

5 May
●ホームカミングデー
(隔年開催)
●開学記念日(5月31日)

6 June
●2学期授業開始

7 July
●学部オープンキャンパス*
●サマープログラム

8 August
●夏期休業

9 September
●夏期休業終了
●3学期・後学期授業開始
●9月卒業式

10 October
●10月入学式

11 November
●微音祭
●創立記念日(11月29日)
●第4学期授業開始

12 December
●冬期休業

January
●冬期休業終了

February
●春期休業開始

March
●卒業式
●春期休業終了

※ 日程・申込等の詳細は本学Webサイトでご確認ください

Club Activities

サークル活動

いつも楽しく、時に真剣に、好きなことを追いかけて

学生生活の楽しみの一つがサークル活動です。学部・学年を越えて、同じことに興味を抱く人たちが集まるサークルは、たくさんの仲間に出会える格好のステージ。スポーツ系から文芸、ダンス、音楽、レクリエーションと、様々な団体が活動しています。



： 美術部 ：

絵画班と陶芸班があり、微音祭や国公立展に向けて自由に製作しています！



： 裏千家茶道部 ：

部員みんなで仲良く楽しく本格的な茶道のお稽古ができます！



： 表千家茶道部 ：

週2日、芳香庵で活動しています。皆でお茶を楽しみましょう！



： 小原流華道部 ：

師範の先生のご指導の下、自分のペースでお稽古を行っています。初心者大歓迎です！



： 写真部 ：

月1の撮影会や夏・春の合宿を通して、自分のペースで撮影活動を楽しんでいます！



： 囲碁部 ：

アットホームな雰囲気の中で囲碁を打っています。初心者大歓迎！



： 将棋部 ：

みんなで楽しくお碁を弾いています！初心者も経験者も大歓迎です！



： ギター部 ：

クラシックギターで独奏や合奏をします。和やかな雰囲気魅力です！



： ピアノ班 ：

ピアノが好きの方、大歓迎！年に約5回、コンサートを開催しています♪



： お茶の水管弦楽団：

週2回の練習、年2回の定期演奏会やセクション毎の演奏会があります♪



： 白ばら会合唱団：

毎週水・土に練習をしている混声合唱団です。未経験でも大歓迎です！



： 緑会合唱団 ：

初心者歓迎の混声合唱団です。練習は毎週月・木、オーケストラと共演もできます！



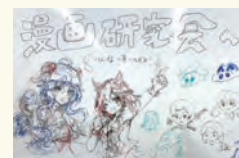
： オレンジマニア：

お茶大唯一の公認軽音サークルで、学年問わず仲良く楽しく活動しています！



： OUESS ：

気軽に楽しく英語でディスカッション・スピーチ・ガイドをします！



： 漫画研究会 ：

楽しく漫画やイラストを描き、年に1回部誌を発行しています。



： SF研究会 ：

年に2回部誌を作成し、イベントで販売しています。ジャンルはSFに限りません！



： 狂言研究会 ：

野村萬斎師監修！プロの指導のもと、本格的・マイペースに狂言をする・見る・知るサークルです。



： 考古学研究会 ：

時代や地域、詳しくを問わず、歴史好きたちが楽しく活動中です！



： 劇工舎プリズム：

脚本や舞台その他すべて自分たちで作り上演するインカレ演劇団体です！



： ミュージカルカンパニーMMG：

主に宝塚の作品を上演しています！本格的な舞台作りも経験できます！



： 百人一首同好会：

ちはやぶるでも有名な競技かるた。初心者、経験者とも大歓迎です！



： 野生生物研究会：

海や山など、様々なフィールドで生物を観察・採集しています！



： 日本舞踊研究班：

毎週日本舞踊をお習いしています！初心者大歓迎です！



： Ochas ：

商品開発や食育など「食べる幸せを広げる」活動を行っています。



： 能楽研究会 ：

仕舞、謡、小鼓のお稽古をしつつ能楽を学んでいます。



： グローカル経済研究会：

企業幹部の講演会や勉強会で経済・国際情勢を学び、就活支援も行います。



： 硬式庭球部：

初心者大歓迎！部員全員で上達することを目指し、日々楽しく真剣に練習に取り組んでいます！



： バレーボール部：

リーグ戦昇格を目指して、楽しく真剣に日々練習しています！



： バスケットボール部：

初心者・経験者、年齢関係なく日々バスケットに本気で取り組んでいます！



： 弓道部：

大学構内の弓道場で、明るく楽しく集中して弓を引いています！練習は週2日程度です。



： 陸上競技部：

大学付近を和気あいあいとランニングしています。初心者大歓迎です！



： フィギュアスケート部：

初心者でも大丈夫！先輩が一から教えます。私たちと一緒に滑ってみませんか？



： 剣道部：

アットホームな雰囲気の中、みんなで楽しく剣道しています！



： TECKTECK：

のんびりと山を登ります♪レクやスキーなど登山以外のイベントも盛りだくさんです！



： モダンダンス部：

自主公演を中心に、ダンス作品の創作など楽しく活動しています！



： 民族舞踊研究会：

ヨーロッパを中心に世界各地の様々な踊り（フォークダンス）を楽しく踊っています！



： サイクリング部：

自転車で全国を旅するもサイクルサッカーを楽しむもよし！



： 山岳愛好会 雷鳥：

各々の予定や好みに応じて、登山などを楽しんでいます。



： 合気道部：

火・木の週2日、初心者も経験者も和気あいあいと稽古に励んでいます！



： LBJ ski team：

初心者から経験者まで幅広いレベルの人が在籍してスキーを楽しんでいます！



： 空手部：

学年や経験関係なしに、週2日の練習で黒帯目指せます♪



： ジャズダンスサークルflow：

たくさんの仲間と楽しく踊りながら、青春を謳歌できます！



： 英語ディベート部 OCAD：

楽しく真剣にパーラーディベートしています！初心者も大歓迎です。



： TEA：

お茶大の留学生とイベントやランチ会を通して交流するサークルです！



： 書道部：

経験者はもちろん初心者の方も大歓迎！自分のペースで作品を練習作成します。



： おちゃっこLab.：

子どもたち向けの科学実験や工作イベントを企画・運営しています！



： お茶大クイズサークルOchazQ：

個人のペースでクイズをしています。初心者の方も大歓迎です！



： OCAC(お茶大カフェ支援サークル)：

カフェのサポートや、カフェ巡りをしています。カフェ好きな方はぜひ！



： 音楽制作サークル CiiMs：

完全オリジナルのMVを制作・発表するサークルです！個人のペースで活動できます。



： 地理×女子：

お茶の水女子大学の地理部です！地理好きなお茶大生として、地理に関する学内外の活動をしています。



： おちゃいんど。：

空きコマや微音祭・夏祭りなど、子どもたちと楽しい時間を過ごしています！



： フリスビーサークル お茶フライ：

アルティメットやディスクゴルフなど、frisbee競技にゆるく取り組みます。



： ハンドメイド同好会：

机を囲み、それぞれが好きな作品づくりに取り組んでいます！初心者大歓迎！

CAMPUS LIFE

文教育学部生

M・Tさん

文教育学部 言語文化学科3年
仏語圏言語文化主プログラム・
グローバル文化学際プログラム

互いに励まし、成長できる場所

私は大学合格を機に地元を離れ、一人暮らしを始めました。新しい環境での生活は不安もありましたが、同じように実家を離れて頑張っている仲間も多く、支え合いながら成長できることもお茶大の魅力の一つだと感じています。自由な環境の中で生活や学業を管理することは簡単ではありませんが、その分、自己管理能力が大きく成長したと感じています。また、同じ環境の中でも学業に真剣に向き合っている学生がとても多く、その姿勢に刺激を受けながら自身を高めることができます。みなさんもお茶大で成長を実感できる大学生活を送りませんか。

お茶大を選んだ理由

私は高校時代に理系から文系に転向し、履修授業の関係で受験できる学校の選択肢があまりなかったため、学校推薦型選抜に挑戦しました。数少ない選択肢の中にお茶の水女子大学があり、文理融合リベラルアーツなど、専攻を問わず幅広い分野について学べる環境があることが自分の興味関心に合っていると感じ、お茶大を選びました。

お茶大生の日

各学部から1名のお茶大生が登場し、授業や研究、実習、課外活動まで一日の流れを紹介します。時間割やキャンパスでの過ごし方、学びに向き合う姿を通して、お茶大生の学びや学生生活の魅力を具体的にお伝えします。

理学部生

A・Sさん

理学部 生物学科3年
生物学主プログラム・
生物学強化プログラム

恵まれた環境での大学生活

学生寮暮らしの魅力は、生活と学びの環境が近くに揃っていることだと思います。音羽館は大学内にあるため通学時間がほとんどかからず、その分好きなことに使える時間が増えます。すぐそこには大学図書館があり、空き時間にふらっと本を読みに行けるのも恵まれた環境だと感じています。また、寮の目の前には食堂があり、食生活にも困りません。授業の課題や試験勉強に行き詰まった時は、寮に住む同じ学科の友人と一緒に課題を進めたり、試験勉強したりすることもあります。安心できる落ち着いた環境で充実した大学生活を送れています。

お茶大を選んだ理由

私がお茶大を受験したのは、自分に合いそうな入試方式があったからです。しかし出願後、大学について調べるうちに、少人数教育や大学内の寮、文理を超えて学べるコア科目やリベラルアーツ科目など、多くの魅力があることを知りました。実際に、先生に質問や相談がしやすく、安心して学べる環境だと感じています。

ONE DAY SCHEDULE



MY STORY

日々新しいことに挑戦！！

中学、高校と吹奏楽部に所属していましたが、もっと他の芸術にも幅を広げたいと思い、現在は吹奏楽サークルの他に軽音楽やダンスのサークル、学外の団体にも所属しています。大学生は時間に余裕があるからこそ、自分の興味に積極的に挑戦できる貴重な期間だと感じています。今後は留学にも挑戦の予定です！



【時間割例】1年次前期

	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限	9・10時限
月		LA演習Ⅰ	スポーツ健康実習	情報処理演習	
火		基礎フランス語	ヨーロッパ言語文化論Ⅰ		
水	LAグローバル経済とジェンダー	基礎フランス語会話			
木		基礎英語	基礎フランス語Ⅰ	基礎フランス語(応用)	グローバル文化学総論
金		LA文化と環境	国際協力学	スペイン語会話	
土					

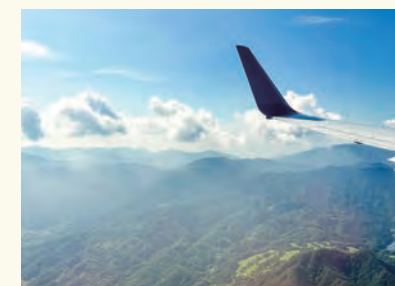
ONE DAY SCHEDULE



MY STORY

興味を広げて

大学生になってからはよく旅行に出ており、旅先で出会う景色やその土地ならではの食文化を楽しんでいます。また、箏曲部に所属し、大学からお琴を始めました。合奏がうまくいった時の達成感は大きく、仲間と音を重ねる楽しさに夢中になっています。



【時間割例】1年次後期

	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限	9・10時限
月		LA演習Ⅱ ゲームプログラミング入門	生物学実習Ⅰ		
火	基礎英語Ⅱ	生物物理学	植物生理学	スポーツ健康実習	
水	LA生物人類学	動物系統学	Advanced Communication TrainingⅡ		
木	基礎中国語		植物生態学	進化生物学	
金	基礎中国語	LA生命の科学			
土					

生活科学部生

T・Yさん

生活科学部 人間生活学科4年
生活文化学主プログラム・
生活文化学強化プログラム

私があるままで学べる場所

私が所属する人間生活学科生活文化学講座は、人数が少なく、先生方と距離が近いのが魅力です。そのため、学習内容で聞きたいことがある時、将来のことで悩んだ時に相談しやすく、親身に話を聞いてくださいます。ゼミはさらに小規模になるので、手厚いサポートもしていただけます。また、友人も芯がありながら他者を尊重できる優しい人ばかりで、等身大の自分で大学生活を送ることができています。大学という広い世界に出ることは不安も多いかもしれませんが、安心して飛び込んでください。ぜひ私たちと一緒に お茶大で学びましょう。

お茶大を選んだ理由

入学してから専攻を選べることが魅力でした。人間生活学科には2つの講座があり、2年開始時に選択します。経済に興味があったものの、本当に学びたいことなのか迷う私にとって最適な制度でした。実際、授業を受けて生活文化に惹かれ、現在は生活文化学講座で民俗学や日本服飾史を学んでいます。

共創工学部生

O・Aさん

共創工学部 人間環境工学科3年
人間環境工学主プログラム・
人間環境工学強化プログラム

通学時間も味方に 実家から広げる好奇心

実家暮らしで往復3時間の通学は大変な時もありますが、移動中に課題をこなしたり、広範囲の定期券で寄り道を楽しんだり、時間を有効活用し生活にメリハリをつけています。私は主に建築について学んでいて、模型を運ぶために始発で学校に向かうこともあり、電車の中で日の出を見るのも面白い経験です。悩み事がある時いつでも家族に相談できるのも実家暮らしの魅力です。また、お茶大は履修単位の上限がないため、専門外の授業も幅広く学ぶことができます。意欲的な仲間と囲まれて、好奇心のままに学びを深められる最高の環境です。

お茶大を選んだ理由

当初は家政学や住居学に興味があったので、女子大を調べるのが多く、お茶大にも興味を持ちました。新設された共創工学部が掲げる共創工学の概念に惹かれ、建築を多角的に学びたいと考えようになりました。お茶大なら、新しい工学の視点から建築を追究できると感じ、第一志望として受験を決めました。

ONE DAY SCHEDULE



MY STORY

サークル活動で得たかけがえのない仲間

ジャズダンスサークルに入会し、同期や先輩後輩とともにダンスに明け暮れました。特に同期はサークル活動だけでなく、授業や練習後のご飯などをともにし、私の大学生活を支えてくれました。価値観や考え方が違う他者と一つの目標に向かって進んだこの素敵な経験をこれからの人生の糧にし、出会った仲間を大切にしたいと思っています。



[時間割例] 1年次後期

	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限	9・10時限
月	道徳教育の理論と方法	特別支援教育の理論と方法	比較生活文化論	住居学概論	法学1
火			スポーツ健康実習	食物学概論	
水	教育原論	LA日本文学	朝鮮語初歩	基礎中国語会話	保育実践論
木	基礎英語			被服学概論	応用生活統計
金	教育原論	教育心理	服飾文化概論	文化人類学	
土					

ONE DAY SCHEDULE



MY STORY

仲間と作り上げた、彩り豊かな微音祭の装飾

微音祭実行委員会の装飾担当として2年間活動しました。特に夏休みの制作活動は、デザインが形になる喜びを感じられる充実した時間でした。2年次は事務的な業務も増え、課題やアルバイト、サークルとの両立に苦労しましたが、仲間と支え合って微音祭を成功させることができました。学部を越えた友人もでき、最高の思い出になりました。



[時間割例] 2年次前期

	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限	9・10時限
月	人体計測学演習Ⅰ	デザイン思考とロジックモデル		BIM演習	
火	環境衛生学		設計製図演習Ⅰ		建築構法計画
水	建築環境工学	サステナブル環境論		社会共創マネジメントPBL	お茶の水女子大学論
木	建築環境計画論		設計製造演習		工学基礎物理学
金	都市デザイン	色・音・香と生活文化	材料基礎実験		
土					

奨学金制度

詳細はこちら
https://www.ocha.ac.jp/campuslife/scholarship/list.html



学生の経済的支援及び修学奨励の一環として様々な奨学金制度を用意しています。卒業生及び関係者からのご寄附等により運営している大学独自の奨学金があるほか、学外の様々な奨学金も利用できます。

● 本学独自の奨学金一覧

		基金の名称	授与対象者		奨学金の額	授与枠
全学	学部生	みがかずば奨学金 (予約型奨学金)	①日本の高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者 ②当該年度の4月に本学学部1年生に入学する予定の者で、本学に強く入学を志望する者 ③成績、人物とも優秀で、大学進学において経済的支援が必要と認められる者(①～③のすべてを満たす者)		600,000円 (1年あたり300,000円)	20名
		学部生成績優秀者奨学金	本学学部3年生のうち、1・2年次の成績、人物が特に優秀と認められた者		100,000円	25名
		桜蔭会奨学金	各学部より推薦された学部3年生		200,000円	5名
		新寮レジデント・アシスタント奨学金 (SCC-RA奨学金)	新寮レジデント・アシスタント(SCC-RA)※活動期間1年 学部1年次から2年間新寮(お茶大SCC)に在寮した学部3年生で、新寮の運営に積極的に協力する者		240,000円 (1月あたり20,000円)	4名
	大学院生	桜蔭会研究奨励賞 (予約型奨学金)	本学学部を卒業し、引き続き本学大学院博士前期課程に進学する者(学内進学者)で、学業、人物ともに優れた者		200,000円 (1年あたり100,000円)	20名
		大学院博士後期課程研究奨励賞	本学大学院博士前期課程を修了し、引き続き本学大学院博士後期課程に進学する者(学内進学者)で、学業、人物ともに優れた者		300,000円 (1年あたり100,000円)	10名
		高田弘子奨学基金 (予約型奨学金)	本学大学院博士前期課程又は博士後期課程に在学する者で、帰国後も研究を継続する意思を持って海外研究留学を行う予定又は行っている者		500,000円	前期1名 後期1名
		創立120周年記念事業 国際交流振興基金・ 桜蔭会国際交流奨励賞	海外留学支援事業	本学大学院博士後期課程修了者又は在学生で、成績優秀かつ将来が囑望される者のうち海外研修を希望する者	1,500,000円を限度	1～2名
			アジア女性研究者支援事業	本学学生として留学後、アジアの各地域において研究者又は各界の指導者として活躍し来日研修を希望する者		若干名
		海外留学特別奨学金	①大学間交流協定に基づく交換留学派遣学生等として留学(1年を限度)し、留学先の大学に留学期間中の授業料を納付する者 ②留学期間中、本学の授業料免除の全額免除を受けていない者(①～②のすべてを満たす者)		本学の授業料の年額又は年額の2分の1に相当する額が上限	若干名
		富永ふみ教育基金	本学正規課程の私費外国人留学生で発展途上国の国籍を有し、成績、人物ともに優秀であり、経済的支援を必要とする者		300,000円	1名
	学部生・大学院生	小澤美奈子奨学基金 (予約型奨学金)	①日本の高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者で、引き続き本学の理工系分野の学科に強く入学を志望する者又は本学学部を3月に卒業見込みの者で、引き続き本学大学院博士前期課程の理工系分野の専攻に強く進学を志望する者 ②成績、人物とも優秀で、大学又は大学院において修学上経済的支援が必要と認められる者 (①～②のすべてを満たす日本国籍を有する者)		学部生 1,000,000円 (1年あたり250,000円) 大学院生 500,000円 (1年あたり250,000円)	学部2名 前期2名
		宮島直美国際交流基金	理系大学院生派遣事業	バーギシェ・ブッパタル大学での研修留学へ応募し選考された者	旅費等 400,000円 補助費 50,000円	5名
			日韓3女子大学交流合同シンポジウム	韓国で開催する年の梨花女子大学校での発表会へ応募し選考された者	旅費等 上限 100,000円	10名

		基金の名称	授与対象者	奨学金の額	授与枠
全学	学部生・大学院生	坂井満子育英奨学基金	本学大学院に在学する者で、学業成績が優秀であり、修学上経済的支援が必要と認められる者	半期につき250,000円 ※同一人物に対し年間500,000円までとする	20名
		中村眞里子奨学金	本学大学院博士前期課程1年又は博士後期課程1年に在学する者で、学業成績が優秀であり、修学上経済的支援が必要と認められる者	半期につき250,000円 ※同一人物に対し年間500,000円までとする	6名
		育児支援奨学金	本学の正規学生で本学が設置する保育所を利用する者	保育料から、自治体が提供する認可外保育施設利用料に係る補助金を差し引いた金額	制限なし
学部・専攻等		保井・黒田奨学基金	自然科学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	30,000円	5名
		被服学奨学基金	被服学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	100,000円	制限なし
		食物学奨学基金	食物学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	100,000円	若干名
		家庭経営学奨学基金	家庭経営学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	100,000円	1～2名
		大学院研究科奨学基金	本学大学院博士後期課程において研究に従事し、その成績顕著な者	100,000円	1～2名
		池田摩耶子記念奨学基金	1. 本学大学院において国際的な研究に従事し、成績顕著な者 2. 学部、大学院に私費で在学する外国人留学生で成績顕著な者	200,000円	若干名
		池田重記念奨学基金		200,000円	
		湯浅年子記念物理学奨学基金	本学大学院博士前期課程に在学する者で、物理学の成績顕著な者	50,000円	1名
		数学奨学基金	本学出身者又は本学大学院博士前期課程及び学部 に在学する者で、数学の成績顕著な者	100,000円	原則1名
		生物学優秀学生賞奨学基金	本学に在学する者で、生物学の成績顕著な者	50,000円	1名
		グローバル文化学環奨学基金	本学文教育学部グローバル文化学環に卒業研究を提出した者で、研究の評価が顕著な者	20,000円	1～2名
		化学科(宮島直美)奨学基金	本学理学部化学科及び大学院に在学する者で、化学の成績顕著な者	100,000円	理2名 前期2名 後期1名
		生物学科(小沼英子)奨学基金	本学理学部生物学科に在学する者で、成績及び人物が優秀であり、奨学金を授与することで学部における修学及び研究生生活が支援される者	500,000円を限度	1名
		竹村和子海外研修奨学基金	本学大学院に在学する者で、成績顕著な者	1年目 2,000,000円 2年目 1,000,000円	原則1名
		竹村和子奨学基金	本学大学院博士前期課程に在学する者で、成績顕著な者	50,000円	1名

		菅聡子奨学基金	本学大学院博士後期課程において日本語日本文学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	250,000円	1～2名
		矢部吉禎・矢部愛子奨学基金	本学学部または大学院に在学する者で、植物学または数学を学ぶ者のうち、学業成績や研究能力が優秀な者	500,000円	植物3名 数学3名
		自然地理学奨学基金	本学文教育学部人文科学科地理学コース及び大学院に在学する者で、自然地理学関係の研究に従事し、優れた研究が見込める者	国内調査20,000円又は海外調査40,000円	3名
		松本千代榮奨学基金	本学文教育学部芸術・表現行動学科卒業時に優れた卒業論文を提出した者で、本学大学院博士前期課程において舞踊・表現行動学関係の研究に従事し、優れた研究が見込める者	100,000円	2名

●日本学生支援機構・その他の奨学金

日本学生支援機構奨学金（給付）

経済的理由で大学への進学をあきらめないよう、2020年4月から高等教育の修学支援新制度が始まりました。住民税非課税世帯やそれに準ずる世帯の学部生は返済不要の給付型奨学金を受給できます。詳細については、日本学生支援機構のWebサイトをご覧ください。

<https://www.jasso.go.jp/>



日本学生支援機構奨学金（貸与）

利子の付かない第一種奨学金と、利子の付く第二種奨学金があります。貸与月額は以下の表を参照してください。

区分	第一種奨学金（無利子）		第二種奨学金（有利子）
	自宅通学	自宅外通学	
貸与月額	2万円・3万円・4.5万円から選択	2万円・3万円・4万円・5.1万円から選択	2万円から12万円までの間で選択（1万円単位）

その他の奨学金（給付・貸与）

地方公共団体、民間奨学団体等の奨学金があります。応募方法や応募要件はそれぞれ異なります。募集中の奨学金情報は本学Webサイトにてお知らせしています。

●入学科・授業料・減免制度

●入学科	●授業料半期分	＊入学時及び在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。
282,000円（予定額）	267,900円（年額 535,800円）（予定額）	

入学料及び授業料の減免・徴収猶予制度について

経済的理由により納付が困難であり、かつ学ぶ意欲のある学生に対し、入学料・授業料減免や徴収猶予をする制度があります。

高等教育の修学支援新制度

住民税非課税世帯やそれに準ずる世帯の学部生を対象として、入学料・授業料の減免と日本学生支援機構による給付奨学金の支援を同時に受けられる制度です。世帯の所得金額に基づき判定された支援区分によって、支援の金額が決定されます。（外国人留学生は対象となりません。）また、2025年度より多子世帯（扶養する子供が3人以上いる世帯）の入学料・授業料の無償化が始まりました。高等教育の修学支援新制度の詳細については、文部科学省のWebサイトをご覧ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/



支援区分	授業料等減免		給付奨学金（月額）	
	1子・2子世帯	多子世帯	自宅通学	自宅外通学
第Ⅰ区分	全額免除	全額免除	29,200円	66,700円
第Ⅱ区分	2／3免除		19,500円	44,500円
第Ⅲ区分	1／3免除		9,800円	22,300円
第Ⅳ区分（多子世帯に限る）	対象外		7,300円	16,700円
区分外	対象外		対象外	対象外

※毎年、日本学生支援機構において適格認定（家計審査）に基づき、支援区分の見直しが実施されます。

入試関連情報

- 113 2027年度 入学者選抜に関する変更点
- 114 2027年度 入学試験一覧
- 115 2027年度 入学者選抜日程

- 一般選抜
- 116 試験教科・科目別配点
- 117 実技検査

- 2026年度 入学試験実施状況
- 118 一般選抜／特別選抜（志願者・合格者等）
- 119 一般選抜の合格者数・最高点・最低点・平均点
志願者・合格者の出身高校所在分布

- 入試関連情報の入手方法等
- 120 学生募集要項の公表時期／資料請求方法

※スマートフォンの通知機能を用いた入試情報提供サービスを行っています。

<https://ocha-nyushi.pushappuniv.com>



※入試関連情報については、変更の可能性もあるため、該当する年度の募集要項を必ず確認してください。

<https://www.ao.ocha.ac.jp>



2027年度入学者選抜に関する変更点

○一般選抜（後期日程）大学入学共通テストで受験する教科等の変更について
文教育学部人文科学科では、アドミッション・ポリシーに適合した学生を、より適切に選抜する観点から、下表のとおり受験を要する教科等を変更（「情報」の削除）します。

〈現行〉

試験区分	大学入学共通テスト							本学の試験			合計
教科・科目	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	情報	計	小論文	実技	計	
人文科学科*1	(50)	(50)	(50)	(50)	(50)	(50)	150	100	—	100	250

〔注〕＊1：人文科学科は、大学入学共通テスト「国語」、「地理歴史・公民、理科から1」、「数学」、「外国語」、「情報」から3教科・科目を選択。人文科学科の本学の試験「小論文」は、英語文の短い論文をもとに日本語で論述する。なお、英和辞典（電子式を除く）の持込みを認める。

〈変更後〉

試験区分	大学入学共通テスト							本学の試験			合計
教科・科目	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	情報	計	小論文	実技	計	
人文科学科*1	(50)	(50)	(50)	(50)	(50)	—	150	100	—	100	250

〔注〕＊1：人文科学科は、大学入学共通テスト「国語」、「地理歴史・公民、理科から1」、「数学」、「外国語」から3教科・科目を選択。人文科学科の本学の試験「小論文」は、英語文の短い論文をもとに日本語で論述する。なお、英和辞典（電子式を除く）の持込みを認める。

その他、最新情報は「令和9年度入学者選抜要項」および各種学生募集要項または本学Webサイトで確認してください。（上記を参照してください。）

2027年度 入学試験一覧

〈募集人員〉

学部	学科等		入学定員	一般選抜		学校推薦 型選抜	帰国生徒・ 外国学校 出身者 特別選抜 ^{*3}	私費外国人 留学生 特別選抜	総合型選抜 (新フンボルト 入試)
				前期日程 *1*3	後期日程				
文 教 育 学 部	人文学科		50	32	8	10	若干名	若干名	文系全体で 12名 ^{*1}
	言語文化学科		73	59	— ^{*2}	14	若干名	若干名	
	人間社会科学科 ^{*7}		37(25)	22(12)	5(3)	10(10)	若干名	若干名	
	芸術・表現 行動学科	舞踊教育学専修プログラム	14	12	— ^{*2}	2	若干名	若干名	— ^{*4}
		音楽表現専修プログラム	11	5	2	4	若干名	若干名	
	計		185	130	15	40			
理 学 部	数学科		20	14	3	— ^{*5}	若干名	若干名	3
	物理学科		20	14	3		若干名	若干名	3
	化学科		20	15	3		— ^{*6}	若干名	2
	生物学科		24	17	3		若干名	若干名	4
	情報科学科		36	21	8		若干名	若干名	7
	計		120	81	20				19
生 活 科 学 部	食物栄養学科		36	31	3	— ^{*5}	— ^{*6}	若干名	文系全体で 12名 ^{*1}
	人間生活学科		39	32	— ^{*2}	7	若干名	若干名	
	心理学科		26	23	— ^{*2}	3	若干名	若干名	
	計		101	86	3	10			2
共 創 工 学 部	人間環境工学科		26	19	5	— ^{*5}	— ^{*6}	若干名	2
	文化情報工学科		20	14	— ^{*2}	6	若干名	若干名	文系全体で 12名 ^{*1}
	計		46	33	5	6			2
合計			452	330	43	56			23

[注] ^{*}1: 文系学科(文教育学部人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科及び生活科学部人間生活学科、心理学科及び共創工学部文化情報工学科)における「総合型選抜」の募集人員(12名)は、前期日程に含む。
^{*}2: 文教育学部言語文化学科、芸術・表現行動学科舞踊教育学専修プログラム、生活科学部人間生活学科、心理学科、共創工学部文化情報工学科では、前期日程のみの募集で、後期日程の募集は行わない。
^{*}3: 「帰国生徒・外国学校出身者特別選抜」の合格者(若干名)は、前期日程の合格者に含む。
^{*}4: 文教育学部芸術・表現行動学科では総合型選抜の募集は行わない。
^{*}5: 理系学科(理学部全学科、生活科学部食物栄養学科、共創工学部人間環境工学科)では、学校推薦型選抜の募集は行わない。
^{*}6: 理学部化学科、生活科学部食物栄養学科、共創工学部人間環境工学科では、帰国生徒・外国学校出身者特別選抜の募集は行わない。
^{*}7: 文教育学部人間社会科学科の各選抜の募集人員の()は「教育学・子ども学コース」の募集人員を内数で示す。小学校又は幼稚園の教員免許取得希望者は、「教育学・子ども学コース」に出願すること。学校推薦型選抜と帰国生徒・外国学校出身者特別選抜では、「教育学・子ども学コース」のみの募集となる。

〈検定料〉

- 第3年次編入学試験: 30,000円
- その他入学試験(大学入学共通テストを除く): 17,000円

2027年度 入学者選抜日程 (2027年4月入学)

出 出願期間 試 試験日 合 合格発表日 入 入学手続期間

入試方式	～8月	9月	10月	11月	12月
第3年次編入学 (理学部・共創工学部)	出 試 合 6/1(月) 6/24(水) 7/2(木) ～ 6/3(水)				入 12/11(金) ～ 12/17(木)
第3年次編入学 (文教育学部・生活科学部)		出 9/8(火) ～ 9/10(木)	第1次選考日 10/3(土) 第1次合格発表日 10/8(木) 第2次選考日 10/28(水) 第2次合格発表日 11/12(木)		入 12/11(金) ～ 12/17(木)
文系総合型選抜 (新フンボルト入試)		出 *4 9/1(火)～ 9/2(水) (8/28(金)～ 9/2(水)) 第1次選考日 (プレゼミナール) 9/26(土) 第1次合格発表日 10/2(金) 第2次選考日 10/17(土) ～ 10/18(日) 第2次合格発表日 11/1(日)		入 12/11(金) ～ 12/17(木)	
理系総合型選抜 (新フンボルト入試)			出 *4 10/20(火)～10/22(木) (10/16(金)～10/22(木)) 第1次合格発表日 11/12(木) (書類選考) 第2次選考日 11/28(土) 第2次合格発表日 12/10(木)		入 12/11(金) ～ 12/17(木)
学校推薦型選抜				出 *4 11/2(月)～ 11/4(水) (10/30(金)～ 11/4(水)) 第1次合格発表日 11/12(木) (書類選考) 第2次選考日 11/28(土)～ 11/29(日)*3 第2次合格発表日 12/10(木)	入 12/11(金) ～ 12/17(木)
帰国生徒・外国学校 出身者特別選抜			出 *4 10/20(火)～10/22(木) (10/16(金)～10/22(木)) 第1次合格発表日 11/12(木) (書類選考) 第2次選考日 11/28(土) ～ 11/29(日)*3 合 12/10(木)	入 12/11(金) ～ 12/17(木)	

入試方式	12月	1月	2月	3月
一般選抜 (前期日程)		出 ^{*4} 1/25(月)～ 2/3(水) (1/22(金)～ 2/3(水))	試 2/25(木) ～ 2/26(金) ^{*1}	合 3/9(火) 入 3/10(水) ～ 3/15(月)
一般選抜 (後期日程) ^{*2}		出 ^{*4} 1/25(月)～ 2/3(水) (1/22(金)～ 2/3(水))		試 3/12(金) 合 3/20(土) 入 3/21(日) ～ 3/27(土)
私費外国人 留学生 特別選抜	出 12/1(火) ～ 12/7(月)		試 2/25(木) ～ 2/26(金)	合 3/9(火) 入 3/10(水) ～ 3/15(月)

[注] ^{*}1: 一般選抜(前期日程)の2月26日(金)は、「文教育学部芸術・表現行動学科」、「理学部全学科」、「生活科学部食物栄養学科」、「共創工学部人間環境工学科」のみ実施する。
^{*}2: 「文教育学部言語文化学科」、「文教育学部芸術・表現行動学科舞踊教育学専修プログラム」、「生活科学部人間生活学科」、「生活科学部心理学科」、「共創工学部文化情報工学科」は、一般選抜(後期日程)を行わない。
^{*}3: 学校推薦型選抜、帰国生徒・外国学校出身者特別選抜第2次選考の11月29日(日)は、「文教育学部全学科」及び「共創工学部文化情報工学科」のみ実施する。
^{*}4: 出願期間の括弧内はインターネット出願登録期間です。(私費外国人留学生特別選抜と第3年次編入学試験は、紙願書による出願となる。)

一般選抜

〈試験教科・科目別配点〉

全学部共通事項	大学入学共通テストの外国語「英語」については、リーディング(100点)とリスニング(100点)の合計得点を、1:1の比率を変えず各学科等の配点に圧縮して換算する。(但し、リスニング免除者を除く)
---------	---

■ 前期日程：文教育学部

試験区分		大学入学共通テスト ^{*1}						本学の試験					合計
教科・科目等		国語	地歴公民	数学	理科	外国語	情報	国語 ^{*2}	数学 ^{*2}	外国語	実技	計	
学科等													
人文科学科		400						(200)	(200)	200	—	400	800
言語文化学科		400						200	—	200	—	400	800
人間社会科学科		400						(200)	(200)	200	—	400	800
芸術・表現行動学科	舞踊	400						(100)	(100)	100	200 ^{*3}	400	800
	音楽	400						(200)	(200)	200	^{*4}	400	800

[注] ^{*1}: 大学入学共通テストは、国語200点、地理歴史・公民200点(地理歴史から1、公民から1の計2科目又は、地理歴史から2科目のいずれかの組み合わせ)、数学200点(2科目の合計点)、理科100点、外国語200点、情報50点の合計点950点を400点満点に換算する。
^{*2}: 人文科学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科は、本学の試験「国語、数学」から1教科選択。
^{*3}: 芸術・表現行動学科舞踊教育学専修プログラムの実技は100点未満の場合、不合格となる。
^{*4}: 芸術・表現行動学科音楽表現専修プログラムの実技は、実技検査全科目(各科目100点満点)の平均点が60点未満もしくは50点未満の科目がある場合、不合格となる。

■ 前期日程：理学部

試験区分		大学入学共通テスト							本学の試験								合計
学科	教科・科目等	国語	地歴公民 ^{*1}	数学 ^{*2}	理科 ^{*2}	外国語	情報	計	数学 ^{*3}			理科 ^{*3}			外国語	計	
									数学共通	数学専門	数学	物理	化学	生物			
数学科		50	25	50	50	50	25	250	100	200	—	(100)	(100)	(100)	100	500	750
物理学科		25	25	50	50	100	25	275	100	—	100	200	—	—	50	450	725
化学科		100	50	100	100	100	50	500	100	—	—	(100)	250	(100)	100	550	1050
生物学科		50	25	100	100	100	25	400	100	—	—	(100)	(100)	200	100	500	900
情報科学科		100	50	100	100	100	50	500	200	—	(100)	(100)	(100)	(100)	100	500	1000

[注] ^{*1}: 大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から1科目選択。
^{*2}: 大学入学共通テスト「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の2科目の合計点とする。
^{*3}: 数学科、化学科、生物学科は本学の試験「理科」のうち配点に()をつけたものから1科目選択、情報科学科は本学の試験「数学・理科」のうち配点に()をつけたものから2科目選択。

■ 前期日程：生活科学部

試験区分		大学入学共通テスト							本学の試験					合計
教科・科目等		国語	地歴公民 ^{*1}	数学 ^{*2}	理科 ^{*3}	外国語	情報	計	国語 ^{*4}	数学 ^{*4}	理科	外国語	計	
学科														
食物栄養学科		75	50	100	150	100	25	500	—	200	100	200	500	1000
人間生活学科		100	100	100	50	100	50	500	(250)	(250)	—	250	500	1000
心理学科		100	50	100	100	100	50	500	(250)	(250)	—	250	500	1000

[注] ^{*1}: 食物栄養学科、心理学科は大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から1科目選択。人間生活学科は地理歴史から1、公民から1の計2科目、又は地理歴史から2科目選択。
^{*2}: 大学入学共通テスト「数学」は2科目の合計点とする。
^{*3}: 食物栄養学科の大学入学共通テスト「理科」は2科目の合計点とする。
^{*4}: 人間生活学科、心理学科は本学の試験「国語、数学」から1教科選択。

■ 前期日程：共創工学部

試験区分		大学入学共通テスト							本学の試験									
教科・科目等		国語	地歴公民	*1 数学	理科	外国語	情報	計	*6 国語	数学*5		理科*5			外国語	計	合計	
										*6 数学	数学	物理	化学	生物				
学科																		
人間環境工学科		100	50*2	100	100*3	100	50	500	—	150	(100)	(100)	(100)	(100)	150	500	1000	
文化情報工学科		100	(150)*4	100	(150)*4	100	50	500	(200)	(200)	—	—	—	—	200	400	900	

[注] ^{*1}: 大学入学共通テスト「数学」は2科目の合計点とする。
^{*2}: 人間環境工学科は大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から1科目選択。
^{*3}: 人間環境工学科は大学入学共通テスト「理科」は2科目の合計点とする。
^{*4}: 文化情報工学科は大学入学共通テスト「地理歴史・公民、理科」から3科目選択。各科目50点として合計150点とする。
^{*5}: 人間環境工学科は本学の試験「数学・理科」のうち配点に()をつけたものから2科目選択。
^{*6}: 文化情報工学科は本学の試験「国語、数学」から1科目選択。

■ 後期日程：文教育学部

試験区分		大学入学共通テスト						本学の試験			合計	
教科・科目等		国語	地歴公民	数学 ^{*4}	理科	外国語	情報	計	小論文	実技		計
学科等												
人文科学科 ^{*1}		(50)	(50)	(50)	(50)	(50)	—	150	100	—	100	250
人間社会科学科 ^{*2}		100	100	100	50	100	50	500	100	—	100	600
芸術・表現行動学科	音楽	100	—	100	—	200	—	400	—	*3	—	400

[注] ^{*1}: 人文科学科は大学入学共通テスト「国語」、「地理歴史・公民、理科から1」、「数学」、「外国語」から3教科・科目を選択。本学の試験「小論文」は、英語文の短い論文をもとに日本語で論述する。
なお、英和辞典(電子式を除く)の持ち込みを認める。
^{*2}: 人間社会科学科の大学入学共通テスト「地理歴史・公民」は、地理歴史から1、公民から1の計2科目又は地理歴史から2科目を選択。
^{*3}: 芸術・表現行動学科音楽表現専修プログラムの実技は、実技検査全科目(各科目100点満点)の平均点が60点未満若しくは50点未満の科目がある場合、不合格となる。
^{*4}: 大学入学共通テスト「数学」は2科目の合計点とする。

■ 後期日程：理学部

試験区分		大学入学共通テスト						本学の試験			合計
教科・科目等	国語	地歴公民 ^{*1}	数学 ^{*2}	理科 ^{*2}	外国語	情報	計	論述試験	面接	計	
学科											
数学科	—	—	400	50	50	—	500	—	—	—	500
物理学科	50	50	200	200	100	50	650	—	—	—	650
化学科	100	50	100	200	100	50	600	150	—	150	750
生物学科	25	25	50	125	50	25	300	—	100	100	400
情報科学科	100	50	400	200	200	50	1000	200	—	200	1200

[注] ^{*1}: 大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から1科目選択。
^{*2}: 大学入学共通テスト「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の2科目の合計点とする。

■ 後期日程：生活科学部

試験区分		大学入学共通テスト							本学の試験	合計
教科・科目等		国語	地歴公民 ^{*1}	数学 ^{*2}	理科 ^{*2}	外国語	情報	合計	面接	
学科										
食物栄養学科		50	50	200	200	200	—	700	^{*3}	700

[注] ^{*1}: 大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から1科目選択。
^{*2}: 大学入学共通テスト「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の2科目の合計点とする。
^{*3}: 本学の試験「面接」は、A B C評価による合格判定の資料とする。

■ 後期日程：共創工学部

試験区分		大学入学共通テスト							本学の試験	合計
学科	教科・科目等	国語	地歴公民 ^{*1}	数学 ^{*2}	理科 ^{*2}	外国語	情報	合計	面接	
人間環境工学科		50	50	200	200	200	100	800	^{*3}	800

[注] ^{*1}: 大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から1科目選択。
^{*2}: 大学入学共通テスト「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の2科目の合計点とする。
^{*3}: 本学の試験「面接」は、A B C評価による合格判定の資料とする。

〈実技検査〉

学部	学科	専修プログラム	摘要
文教育学部	芸術・表現行動学科	舞踊教育学	内容については、「令和9年度入学者選抜要項」(7月上旬発行)及び「令和9年度学生募集要項」(10月上旬公開)で確認すること。 本学のホームページにも掲載する。 https://www.ao.ocha.ac.jp/application/faculty/index.html
		音楽表現	

入試関連情報の入手方法等

〈学生募集要項の公表時期〉

募集要項等の種別	公表予定時期
一般選抜（前期日程・後期日程）	10月上旬
総合型選抜学生募集要項	7月上旬
学校推薦型選抜学生募集要項	7月上旬
帰国生徒等学生募集要項	7月上旬
私費外国人留学生学生募集要項	9月上旬
文教育学部、生活科学部 第3年次編入学学生募集要項	7月下旬

〈学生募集要項の閲覧方法〉
学生募集要項は表に記載の時期になりましたら入試課ホームページにPDF版を掲載します。
<https://www.ao.ocha.ac.jp/application/faculty/index.html>



〈資料請求方法〉

大学案内、入学者選抜要項、一般選抜募集要項は、冊子媒体の請求が可能です。

① テレメールにアクセスしてください。

<https://telemail.jp>

資料請求はこちら（資料請求番号の入力不要）



② お茶の水女子大学資料請求番号（6桁）を入力してください。

資料名	資料請求番号
大学案内	562370
入学者選抜要項	582370
一般選抜募集要項	582350

- 16時までの受付は当日発送、16時以降の受付は翌日発送となります。ただし、発送開始日前に請求された資料は予約受付となり、発送開始日に一斉に発送します。なお、発送開始日は変更になる場合があります。
- 通常は発送日のおおむね3～5日後にお届けできます。ただし、土曜・日曜・祝日の配達はありません。また、資料を請求する曜日やお届け先地域、郵便事情によってはお届けに1週間以上要する場合があります。あらかじめご了承ください。
- 資料は個別に発送されます。複数の資料を同時に請求された場合、お届け日が異なることがあります。
- 一般選抜募集要項の受付期間は2027年1月28日（木）正午までです。
- 発行部数に限りがありますので、早期終了する資料もあります。お早めにご請求ください。

③ 操作方法については、ガイドンスに従ってください。

- 資料請求受付終了時および受付確認メール内に表示される10桁の「受付番号」は、資料到着まで保管しておいてください。
- 随時発送の資料が1週間以上経っても届かない場合は、テレメールカスタマーセンターまでお問い合わせください。予約受付の資料が発送開始日を1週間過ぎても届かない場合、資料の完成遅れや在庫不足等の理由により発送開始日が変更になっていることがあります。なお、土曜・日曜・祝日の配達通常ありませんので、お急ぎでない場合は翌配達日のお届けを確認した上で、お問い合わせください。
- 資料の料金は、お届けする資料に同封の料金支払い用紙をご確認の上、資料到着後2週間以内に表示料金をお支払いください。なお、料金は資料の重量により変更になる場合があります。
- 料金のお支払い方法は「PayPay」「携帯キャリア払い」「クレジットカード払い」「コンビニ支払い」「スマホアプリの請求書支払い（PayPay 請求書払い、au PAY 請求書支払い）」がご利用になれます。PayPay、携帯キャリア払い、クレジットカード払いはテレメールお支払いサイト利用料30円が、コンビニ支払いとスマホアプリの請求書支払いは支払い手数料118円が、支払い時に別途必要です。

テレメールでの資料請求に関するお問い合わせ先

テレメールカスタマーセンター IP 電話050-8601-0102（受付時間9:30～18:00）

OPEN CAMPUS 2026

以下の日程で学部オープンキャンパスを開催します。大学の雰囲気を感じ、学部の学びを詳しく知る絶好の機会です。ぜひご参加ください。

【開催期間】	2026年7月18日（土）～7月20日（月・祝）
【学科等説明会】	7月18日（土） 理学部 14:00～17:00 7月19日（日） 生活科学部・共創工学部 9:00～17:00 7月20日（月・祝） 文教育学部 9:00～17:00

<https://www.ocha.ac.jp/event/d017452.html>

オープンキャンパス予約・詳細はこちら



大学見学

個人 見学

本学を志望する受験生と保護者の方を対象に、事前予約不要の自由見学を実施しています。大学正門守衛室にて身分証を提示し入構手続きを行ってください。キャンパスの建物外観を自由にご覧いただけます。（保護者のみでの見学は原則不可）

【見学可能時間】 9:00～17:00 ※見学不可日あり

団体見学 （予約制）

学校単位など10名以上の団体で見学を希望する場合は、事前申込が必要です。

【実施日時】 平日9:00～17:00 ※土日祝の実施なし、見学不可日あり

<https://www.ocha.ac.jp/visit/index.html>

大学見学詳細はこちら



ACCESS MAP



東京駅

東京メトロ丸ノ内線【約10分】

茗荷谷駅

品川駅

JR山手線【約7分】

東京駅

東京メトロ丸ノ内線【約10分】

茗荷谷駅

羽田空港

東京モノレール【約30分】

浜松町駅

JR山手線【約7分】

東京駅

東京メトロ丸ノ内線【約10分】

茗荷谷駅

池袋駅

東京メトロ丸ノ内線【約5分】

茗荷谷駅

東京メトロ有楽町線【約5分】

護国寺駅

新宿駅

JR山手線【約10分】

池袋駅

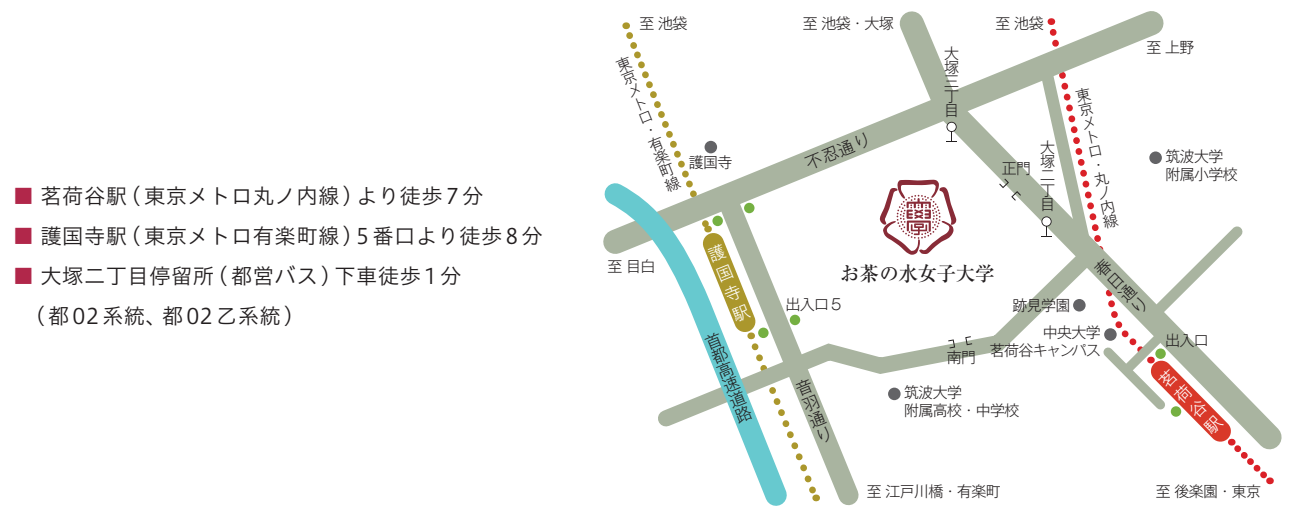
東京メトロ丸ノ内線【約5分】

茗荷谷駅

東京メトロ有楽町線【約5分】

護国寺駅

AREA MAP



- 茗荷谷駅（東京メトロ丸ノ内線）より徒歩7分
- 護国寺駅（東京メトロ有楽町線）5番口より徒歩8分
- 大塚二丁目停留所（都営バス）下車徒歩1分（都02系統、都02乙系統）

CAMPUS MAP

施設一覧

- 1 大学本館
- 2 大学講堂（徽章堂）
- 3 総合研究棟
- 4 生活科学部本館2
- 5 お茶大アカデミック・プロダクション研究棟
- 6 屋外エレベーター棟
- 7 情報インフラ棟
- 8 理学部1号館
- 9 理学部2号館
- 10 理学部3号館
- 11 情報基盤センター棟
- 12 附属図書館
- 13 学生センター棟
- 14 文教育学部1号館
- 15 共通講義棟1号館
- 16 共通講義棟2号館
- 17 共通講義棟3号館
- 18 大学食堂（NSSOL Kitchen）
- 19 保健管理センター
- 20 お茶の水女子大学音羽館
- 21 弓道場
- 22 文教育学部2号館
- 23 Student Commons
- 24 課外活動団体談話室
- 25 人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟
- 26 茶室（芳香庵）
- 27 大学体育館
- 28 附属幼稚園
- 29 附属小学校
- 30 附属中学校
- 31 附属高等学校
- 32 国際交流留学生プラザ
- 33 いずみナーサリ
- 34 大塚宿舎
- 35 こども園

